

41262

教科書文庫

4
920
42-1938
200030
1935

513
1938

Kodak Gray Scale

C Y M

© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

Inches

cm

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16

文部省 検定 済

重 訂
裁 縫 教 科 書
洋 裁 篇

広島大学図書

2000301935



東 京
廣 陵 社 藏 版

375.9
Te18

資料室

教科書文庫
4
920
42-1938
2000301935

昭和十三年二月一日
文部省檢定濟
高等女學校裁縫科

訂 重
裁 縫 教 科 書
洋 裁 篇

寺・地ノブ 共著
大和菊代
貝塚ヤチヨ

広島大学図書
2000301935


東京
廣陵社藏版



は し が き

本書は高等女學校及び同程度の諸學校の教科書用として編纂いたしました。

本書は現時の裁縫教授上に最も適應すべく考慮を加へましたが、教授にあつて學習者の程度や土地の状況及び時間の多少等をも斟酌して、適宜に取捨選擇を望みます。

編纂にあつて特に意を用ひたことは次の諸點でありました。

1. 基礎的教材に主力を注ぎもつて量を節ししかも内容の豊富を期すること。
2. 和裁篇洋裁篇と殊更區別したのは教授上教材の取捨選擇を適宜ならしめたいためであること。
3. 和裁に於ては教材はすべて大裁を基本として詳細に説明し、他は應用教材として簡明に記したこと。
4. 洋裁は確實なる基礎智識によつて應用自在ならしめ、更に各自の趣味に適するものを造り得るやうに考案し、その要點を

簡単に記憶し易からしめたこと。

5. 技能的教科は字句の説明のみでは理解し
難いので難解の場所は圖解を加へたこと。
私共の多年に互る共同研究と體驗の實とを重
ねて、編纂いたしました。尙識者の御批評を
得て一層の完成を期し、あはせて今後も絶え
ずこれが研究を續けまして常に斯界の羅針盤
たらんことを期する次第であります。

昭和六年十月

著者しるす

改訂版序

本書發行以來既に六年を經過いたしました。
その間私共も絶えず研究を續けてまゐりまし
て内容其他に種々再考する點も見出すと同時
に、時代の推運に伴ひ、茲に改訂の必要を感
じまして、更に編成を新にして上梓する事に
いたしました。そして一層内容の充實を計る
と共に現時の要求に合致すべく大改訂を加へ
學習者の理解と體得とを容易ならしめること
につとめました。
これによつて斯界に貢獻する事が出來ますれ
ば幸であります。
庶くば今後も尙一層の御助言を得ましてこれ
が完成に近づくことを祈つて止みません。

昭和十二年五月

著者しるす

教科書變更申請届出書式

著者	書名	発行所	発行年月日	検定年月日	定価
寺地ノブ 大和菊代 貝塚ヤチヨ	重訂 裁縫教科書 和裁篇 洋裁篇	廣陵社			和1圓30錢 洋1圓20錢

本書は次の如き特色を有して、高等女學校及びこれと同程度の諸學校の教科書用として最も適當であると認めます。

1. 形式にとらはれず、基礎的教材に主力を注ぎ、しかも内容が豊富であること。
2. 説明は簡明にして一目瞭然たらしめてあること。
3. 女學校の要目以外の材料も記載されてあるから、自學研究に甚だ便であること。
4. 二冊にまとめてあるから經濟的であること。

廣 陵 社

重訂 裁縫教科書

洋裁篇

目次

第一章	身頃原型割出し法	1
第一節	寸法の採り方	1
第二節	女兒標準寸法表	3
第三節	身頃原型の取り方	5
第二章	下著類	7
第一節	種類及び重ね方	7
第二節	ウエスト	9
第三節	ズロース	14
	附 ブルーマース	
第四節	コンビネーション	23
第五節	ペテコート	30
第六節	スリッパ	32
第三章	女兒洋服	38
第一節	調製上の注意	38
第一	形状の種類	38
第二	衿剝型の種類	39
第三	型の選び方	40

第四	地質	44
第五	装飾について	47
第六	裁断上の注意	50
第二節	各部分の縫ひ方	51
第一	切襟のしかた	52
第二	前明	53
第三	後明	60
第四	肩明	61
第五	縫ひよせの始末	61
第六	襷の取り方	63
第七	脇縫	65
第八	裾の始末	66
第九	斜切のつかひ方	67
第十	ポケット	68
第三節	袖及びカフスの割出し法	75
第四節	衿の割出し法	85
第五節	簡單なる洋服	92
第六節	ワンピース	101
A	胸の邊りに切換線のあるもの	101
B	身頃に切換線のないもの	110
C	ロンパース	115
D	一部分に切換線のあるもの	118
E	胴の邊りに切換線のあるもの	122

第七節	ツーピース	138
A	セーラー服	138
B	ジャンパードレス	156
C	女學生用ブラウスとスカート	159
第八節	スリーピース	174
第九節	嬰兒服	177
第一	下著類	179
第二	上著	184
第三	ケープ	186
第四章	男兒洋服	188
第一節	標準寸法	188
第二節	パンツ	189
第三節	男兒簡單服	191
第四節	兒童通學服	202
第五章	マント(ケープ)	215
第六章	オーバーコート	220
第七章	前掛	236
第一節	子供前掛	236
第二節	割烹前掛	240
第八章	シャツ	242
第一節	男兒運動シャツ	242
第二節	普通シャツ(大人物)	247

第三節	ワイシャツ(大人物) ……	250
第九章	ズボン下(大人物) ……	256
附 録	ミシン使用上の注意 ……	259
	針と糸及び布との関係 ……	259
	ミシンの最も起り易い故障と其原因 ……	259

目 次 終



調製 図 注意

重訂 裁縫教科書

洋 裁 篇

第 一 章

原型割出し法

第一節 寸法の採り方

圖に示す如く

夏冬各、下著を著用の上次のやうに寸法を採る。

先づ胴に紐を平に結ぶ。

1. 脊丈(胴丈)

頸の附根から胴廻り(紐の位置)迄。

2. 胸廻(胸圍) *Bust*

兩脇下の胸の廻りをゆるやかに計る。

3. 頸廻(衿廻)

出来るだけ頸の下を計る。

4. 袖丈 *Length Sleeve*

袖附線(肩先)より手頸(くるぶし)迄。

別法
脊の中心より手頸迄(肩幅)を計りたる寸法より、脊幅を減じたるもの

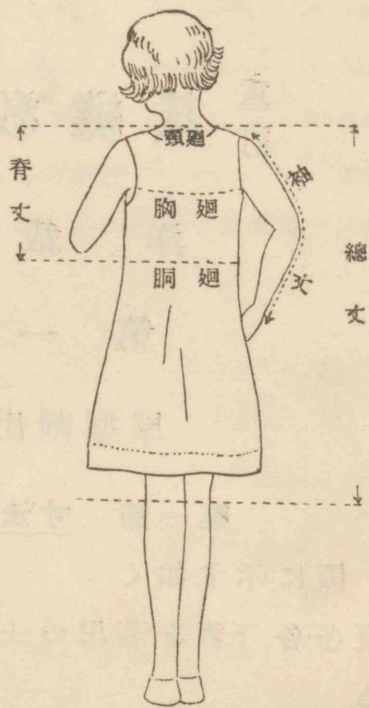
5. 總丈

頸の附根から膝裏迄の寸法を計る。

但し、總丈は年齢、季節、流行、好みによつて自ら長短がある。しかし、極端に短いものは作法上好ましくない。

胸廻 (waist) 肋骨の2、3寸

腰廻 (hip)



第二節 女兒標準寸法表

年齢	名稱	脊丈	胸廻	頸廻	袖丈	總丈	脊丈を基本とする 伸ばし方の割合
1		2 1cm	4 6cm	23.5cm	23cm	70—90 cm cm	凡脊丈×4
2		2 2	4 8	24.5	2 4	4 4	脊丈×2
3		2 3	5 0	25.5	2 5	4 8	脊丈×2.1
4		2 4	5 2	26.5	2 7	5 0	同上
5		2 5	5 4	27.5	2 9	5 3	同上
6		2 6	5 6	28.5	3 1	5 5	同上
7		2 7	5 8	29.5	3 3	5 7	同上
8		2 8	6 0	3 0	3 5	6 2	脊丈×2.2
9		2 9	6 2	3 1	3 7	6 4	同上
10		3 0	6 4	3 2	3 9	6 9	脊丈×2.3
11		3 1	6 6	3 3	4 1	7 1	同上
12		3 2	6 8	3 4	4 4	8 0	脊丈×2.5
13		3 3	7 0	34.5	4 6	8 3	同上
14		3 4	7 2	35.5	4 8	8 5	同上
15		3 5	7 4	36.5	5 0	88—91	脊丈× $\frac{2.5}{2.6}$

5 此の寸法は参考迄に表示したるもので實際は着用者の寸法を採らなければならない。

標準寸法について

1. 脊 丈

一歳児を 21cm とし一歳増す毎に 1cm を加へる

2. 胸 廻

一歳児を 46cm とし一歳増す毎に 2cm を加へる。

3. 頸 廻

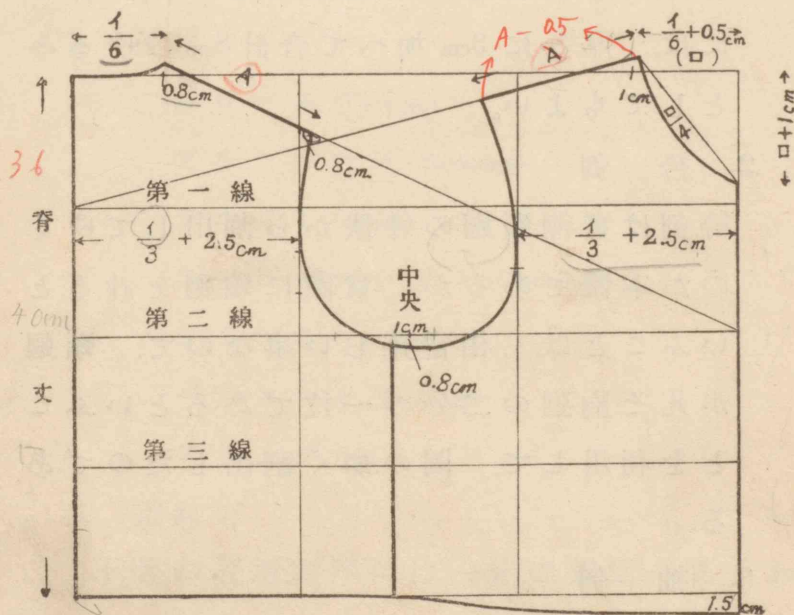
頸廻は大體胸廻の二分の一位であるが年少者は比較的大きく、年齢の進むに従ひ割合に小さくなるものである。

4. 袖 丈

袖丈は大體脊丈の寸法より 2cm 乃至 15cm 位長くする。但し、年齢の進むに従ひ其の割合は大になる。

第三節 身頃原型の取り方

● 原 型



← $\frac{\text{胸廻}}{2} + \text{弛み}$ →

(イ) $\frac{42}{3} + 2.5$ (端かじり)

第一、三線 = $\frac{\text{袖丈}}{4}$

$A = \text{肩幅}$

原型製圖上の注意

1. 身頃の弛み

7cm の弛みは $\left\{ \begin{array}{l} \text{前後の幅に各、2.5cm} \\ \text{體の厚みに 2cm} \end{array} \right.$

肥えた子供のもの、又はゆるやかに作るには、厚みに 3cm 加へて合計 8cm のゆるみとしてもよい。

2. 衿 刳

衿刳は實測頸廻の寸法から割出してゆくのが本體であるが、實際に頸廻を計るといふことは、相當難しい事なので、頸廻が凡そ胸廻の二分の一位であるといふことを利用して、圖の如く割出したのである。

3. 袖 刳

後の袖刳は刳り過ぎると窮屈な洋服になるから、注意しなければならない。

4. 脇 線

前後の中央でもよいが形の上からいへば、圖の如く中央より 1cm 位後によせた方がよい。

第 二 章

下 著 類

第一節 種類及び重ね方

1. 種類

ズロース (Drawers)

ブルーマース (Bloomers)

ウエスト (Waist)

コンビネーション (Combination)

シミーズ (Chemise)

ペテコート (Petticoat)

スリップ (slip)

2. 重ね方

下著の着用順序には一定の規定があるわけではない、季節によつて適宜に取捨して温度の調節を計ればよい。一般的の着用順序を示せば

暑い頃の重ね方

1. ウエストにズロース又はブルーマース (コンビネーションでもよい)

2. スリッパ

スリッパの代りにペテコートを着てもよい。

薄物を着るときは2の何れかを必ず着る。

寒い頃の重ね方

1. コンビネーション
2. ウエストにズロース又はブルーマース
3. スリッパ

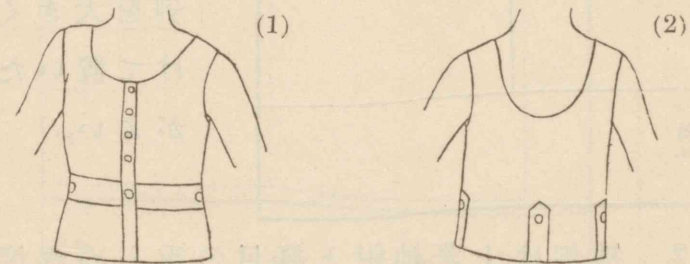
以上の外に氣候の関係及び習慣によつて寒い時は更にシミーズ毛糸編のジャケット及びズロース等を着用することもある。

此等下著の地質及び型並に其の枚數等は、上著の形を整ふる上に大切な條件であるから注意せねばならぬ。

第二節 ウエスト Waist

ウエストは肌著にして、チヨッキ或はズロース吊ともいひ、ズロース、ペテコート、スカート、ズボン等を吊るにも用ひる。

第一 出来上り圖

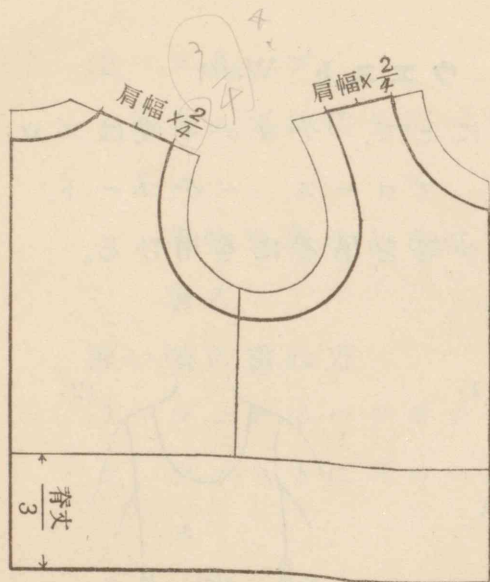


第二 種類

1. 明け方 {
 - 後明
 - 前明
 - 肩明
 - 脇明
2. 力切 {
 - 横 {
 - 表につけたるもの
 - 裏につけたるもの
 - 縦 { 同上

第三 型紙の取り方

1. 衿剣は上著を着て下著が見えぬ程度に



する。
 何れの洋服にも間に合ふやうにするには
(2) 圖の如く衿
列を大きくあ
けて置いた方
がよい。

2. 袖袷は上著袖附と縫目の重らぬ程度に
控へて置く。

普通 1cm 乃至 2cm 位

第四 地質

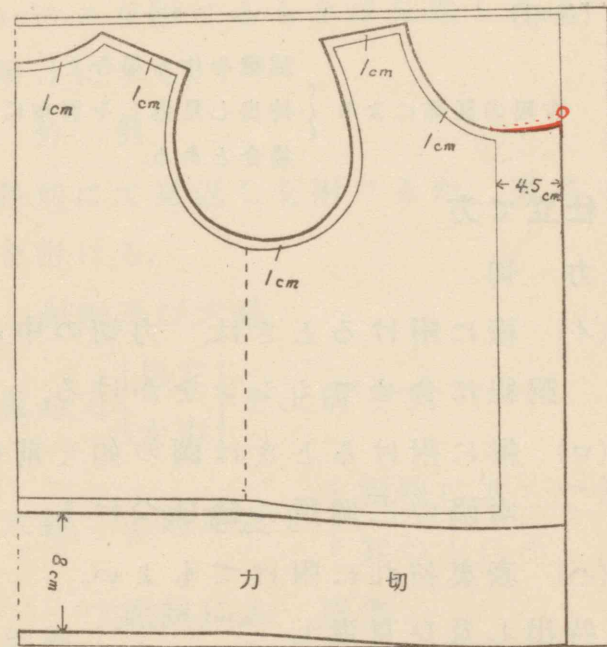
ネンスーク、キヤラコ、天竺、木綿縮、
 晒木綿、ネル等

第五 布の裁ち方

a. 縫代の取り方

持出し } 4.5cm
 見返し }

他は全部 1cm



b. 力切の取り方

1 圖の如きは 幅 8cm

幅 凡 5cm

2 圖の如きは 丈 裾より胴線の上 5cm

迄

c. 總用布の概算

前丈 + 上下の縫代 + 力切幅 = 總用布

2 圖の場合

前丈 + 上下の縫代 = 總用布

【備考】

脇縫を作る場合と
布幅の関係により { 持出し見返しを別布にする
場合とある。

第六 仕立て方

1. 力切

(イ) 横に付けるときは、力切の中心を
胴線に合せてミシンをかける。

(ロ) 縦に付けるときは圖の如く前中央、
兩脇の三個所に縫ひつける。

(ハ) 表裏何れに付けてもよい。

2. 持出し及び見返し

上前下前とも原型より 1cm 持出して三つ
折縫ひにする。

3. 裾

三つ折縫。

4. 肩合

袋縫又は折伏せ縫。折りは前後何れでも
よい。

5. 袖刳

斜切にて見返しを付ける。

レースを付けるときは見返し布にて挟み
付けにする。

6. 衿刳

斜切にて見返しを付けるか、又はレース
を付ける。

7. 釦附及び穴縫

重ね方 { 男左 } を上前とす。
 { 女右 }

穴縫、上前見返し { 胴線に大 一個
 { 其の上に小 三・四個

釦附 { 胴線に大 四個
 { 下前持出しに小 三・四個

8. 仕上げ

霧を吹いてアイロン掛け。

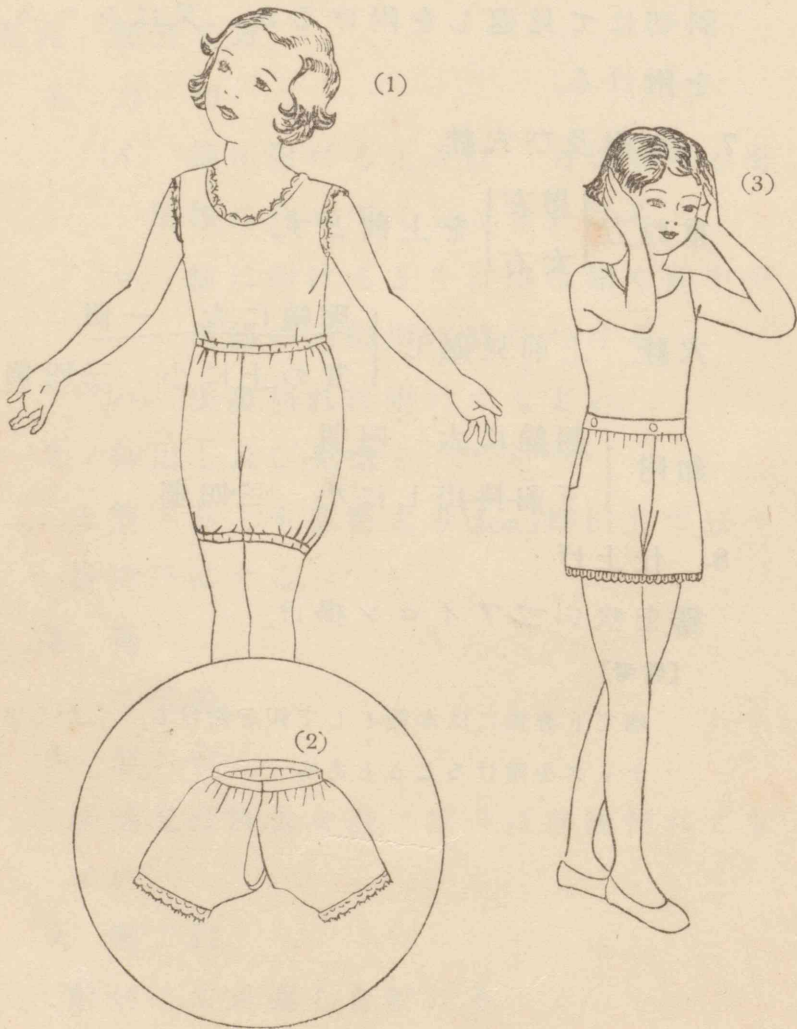
【備考】

總て下著類には本體として釦を付ける。しかしス
ナップを付けることもある

第三節 ズロース Drawers

附 ブルーマース Bloomers

第一 出来上り圖



第二 種類

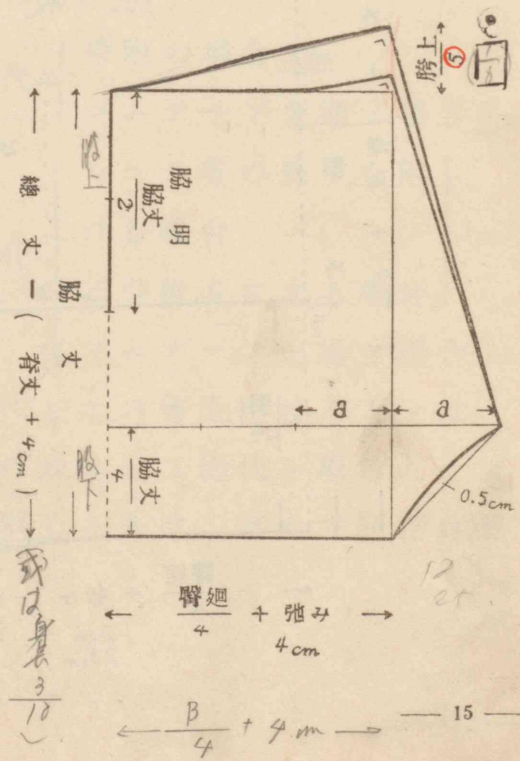
1. 胯上を縫つたもの。 } 脇明を作りウエストに吊るもの。
 2. 胯上を縫はぬもの。 } ゴムテープを通したるもの。

第三 型紙の取り方

ズロース

a. 小さい
子供用

臀廻寸法は十二歳位迄は胸廻と同寸でよい。十三歳以上は胸廻に3cm乃至5cmを加ふ。



2-3 脇明 (大きな後)

$$\frac{B}{4} + 4 \text{ cm}$$

$$\frac{B}{4} + 4 \text{ cm}$$

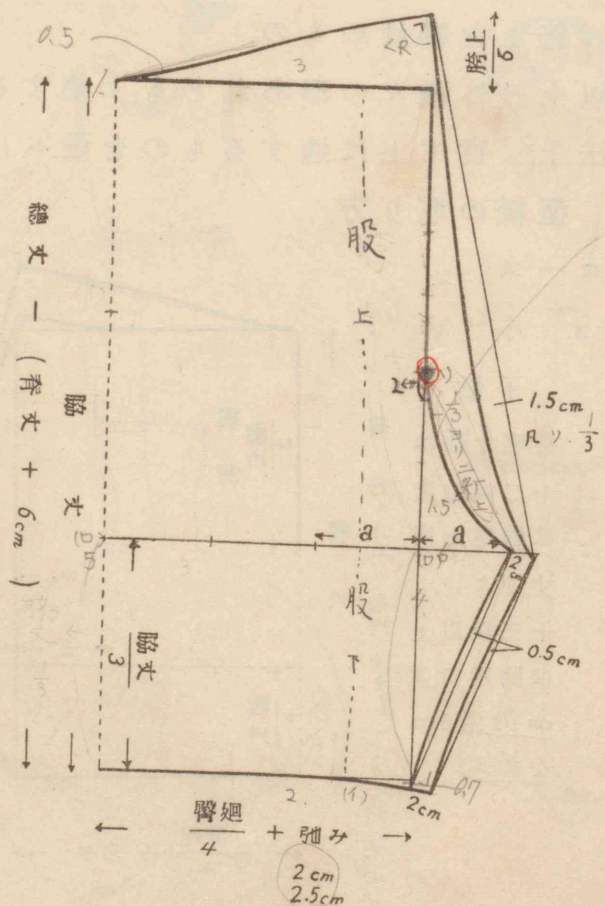
【附】

ブルーマースの場合

幅、弛み5cm

丈、膨み分として胯下に更に4cmを加ふ。

b. 大きい子供用



本綿

第四 地質

ウエストに同じ。

ブルーマースを上着用として用ふる場合は、上著と共布。

又は、メルトン、サーヂ、セル、メリンス、富士絹等の類にて色も地質も上著と調和よきものを選ぶ。

第五 布の裁ち方

a. 縫代の取り方

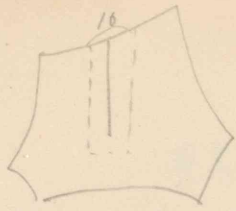
1. 胯上胯下各、1cm

2. 上の縫代 { 帯附の場合 1cm
ゴムテープを通す場合 3cm

3. 裾の縫代 { レース等の飾りを附ける場合 } 1cm
三つ折りにする場合 }
ゴムテープを通す場合 3cm

但し、裾にレース等を附けるときは、其の幅だけ短くして縫代を取る。

タックを取るときは、其の寸法だけ長くする。



b. 其の他の布の取り方

1. 帯を付ける場合

イ 胯上を縫ふ場合

$$\left. \begin{array}{l} \text{幅} \quad 8 \text{ cm} \\ \text{丈} \quad \frac{\text{胸廻}}{2} + \underset{5\text{cm}}{\text{弛み}} + \underset{1\text{cm}}{\text{重り}} \times 2 \\ \quad \quad \quad + \underset{1\text{cm}}{\text{縫代}} \times 2 \end{array} \right\} \text{二枚}$$

ロ 胯上を縫はぬ場合

$$\left. \begin{array}{l} \text{幅} \quad 8 \text{ cm} \\ \text{丈} \quad \text{胸廻} + \underset{10\text{cm}}{\text{弛み}} + \underset{2\text{cm}}{\text{重り}} + \underset{2\text{cm}}{\text{縫代}} \end{array} \right\} \text{一枚}$$

胸廻寸法は、十歳位迄は胸廻と同寸でよい。

十一歳から胸廻65cmとし年齢一歳増す毎に1cmを加ふ。

2. 脇明用

イ 見返し付きの場合

$$\left. \begin{array}{l} \text{幅} \quad 5 \text{ cm} \\ \text{丈} \quad \text{脇明} + 4 \text{ cm} \end{array} \right\} \text{二枚}$$

ロ 持出し付きの場合

$$\left. \begin{array}{l} \text{幅} \quad 4.5 \text{ cm} \\ \text{丈} \quad \text{脇明} + 2 \text{ cm} \end{array} \right\} \text{四枚}$$

c. 總用布の概算

$$(\text{後丈} + \text{上下の縫代}) \times 2 = \text{總用布}$$

第六 仕立て方

a. ブルーマース(1圖)

1. 前後胯上縫ひ合せ、袋縫又は折伏せ縫。

折りは { 男兒は左を高く
 女兒は右を高くする、

但し、地厚物は縫目を割つて千鳥掛にする。

2. 胯下縫、縫方同前、折りは前に。

3. 上部及び裾は出来上り2cm幅の三つ折縫。

但し、ゴムテープを通すために、上部は前の中央を、裾は何れの場所にもよいかから一度折りのとき4cm位縫ひ置き、三つ折縫のとき縫ひ残す。

4. 仕上げ。

霧を吹いて、アイロン掛け。

【注意】

ゴムテープの長さは胸廻及び裾口の採寸だけあればよい。

b. ズロース

胯上を縫はぬもの(2圖)

1. 裾を三つ折縫又は、レース等の飾りを付ける。

タックのある場合は、間隔をタック幅だけにして取る。

2. 胯下を袋縫にする。

3. 胯上を三つ折縫になし、左右を前にて2cm重ね敷にてとめて置く。

4. 上部を出来上り帯丈に縫ひ締め(割合後に多く)帯布を裏に当て、縫ひ、幅を定めて表より飾りミシンをかける。

5. 穴紐 前中央、兩脇、後の兩端に縦穴にしてかかる。

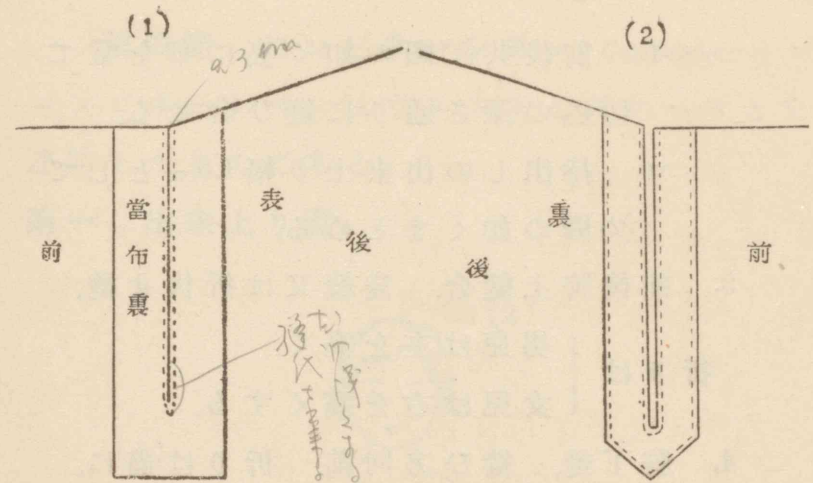
6. 仕上げ、霧を吹いてアイロン掛け。

c. ズロースの胯上を縫ふもの(3圖)

1. bに同じ。

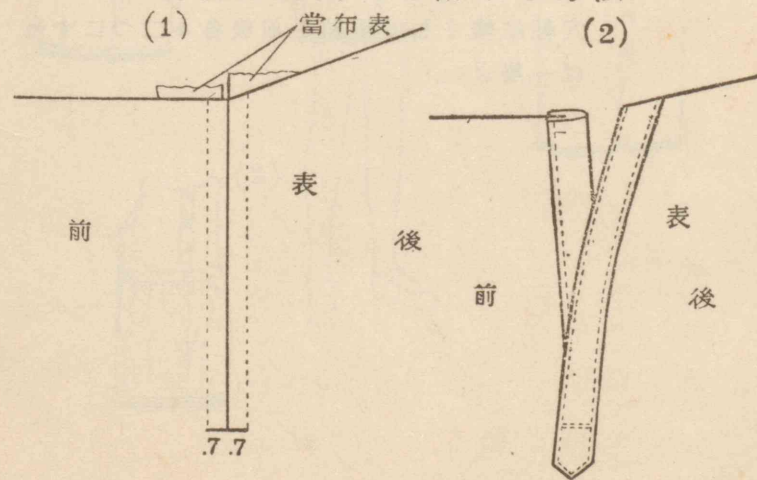
2. 脇明

I 最も簡單なる方法



(1)圖の如く脇明に當切をあて浅くミシンをかけ後、切込を入れて當切を裏に返し、まはりに(2)圖の如くミシンをかける。

II 前後共持出しを付ける方法



イ 前後共(1)圖の如く裏に布を當て切込の深さ通りに縫ひ合せる。

ロ 持出しの出來上り幅1.5cmとして(2)圖の如くまとめる。

3. 前後胯上縫合、袋縫又は折伏せ縫。

折りは { 男兒は左を高く
 { 女兒は右を高くする。

4. 胯下縫、縫ひ方同前、折りは前に。

5. 帶附、bに同じ。

6. 穴紐、前後中央と前後兩脇。

7. 仕上げ。

霧を吹いてアイロン掛け。

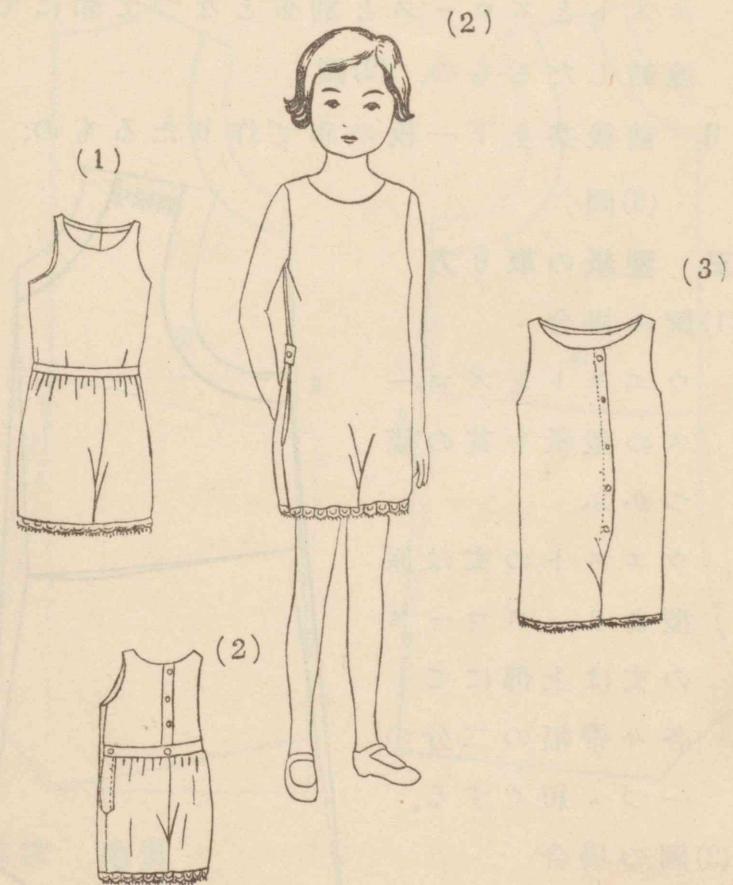
【注意】

穴紐は繁くして兩脇と前後各々二つにすれば一層よい。

第四節 コンビネーション Combination

コンビネーションはウエストとズロースとを連結したものである。

第一 出來上り圖



第二 種類

1. ウエストとズロースとを帯にて縫ひ合せたるもの、(1)圖
2. 前は上下一枚の布にて作り、後は、ウエストとズロースと別布となつて釦にて連結したるもの、(2)圖
3. 前後共上下一枚の布で作りたるもの、(3)圖

第三 型紙の取り方

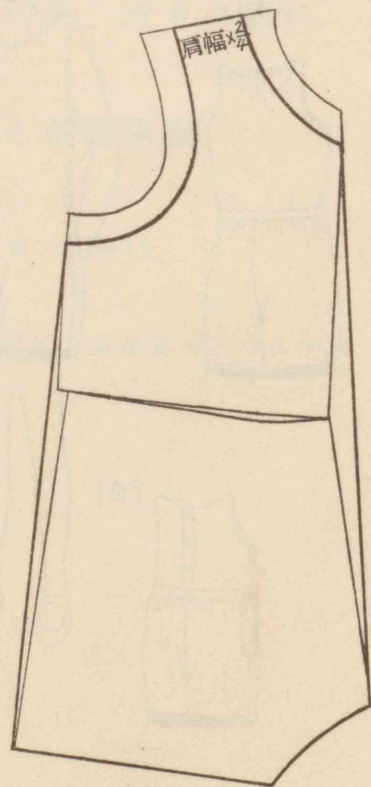
(1)圖の場合

ウエストとズロースの型紙を其の儘つかふ。

ウエストの丈は原型より、ズロースの丈は上部にて、各々帯幅の二分の一づゝ短くする。

(2)圖の場合

前は右圖の如くし

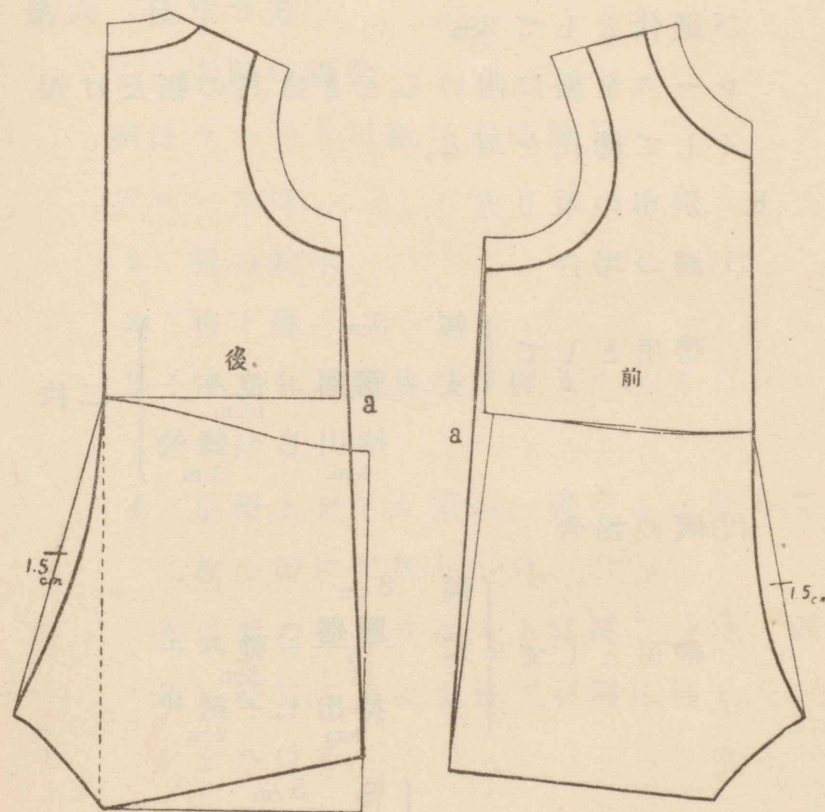


て型紙を取る。

後はウエストに同じ。

ズロースは型紙の通り。

(3)圖の場合



第四 地質

ウエストに同じ。

第五 布の裁ち方

a. 縫代の取り方

全部 1cm

(3)圖の場合は前後とも、中央に持出し及び縫代として 2cm

レースを裾に付けるときは其の幅だけ短くして縫代を取る。

b. 別布の取り方

(1)圖の場合

帯用として $\left\{ \begin{array}{l} \text{幅} \quad 5\text{cm} \\ \text{丈} \quad \text{胴廻} + \underset{10\text{cm}}{\text{弛み}} + \\ \text{持出し} + \underset{2\text{cm}}{\text{縫代}} \end{array} \right\} \text{二枚}$

(2)圖の場合

帯用として $\left\{ \begin{array}{l} \text{幅} \quad 8\text{cm} \\ \text{丈} \quad \frac{\text{胴廻}}{2} + \underset{5\text{cm}}{\text{弛み}} + \\ \text{持出し} + \underset{2\text{cm}}{\text{縫代}} \end{array} \right\}$

持出し用として $\left\{ \begin{array}{l} \text{幅} \quad 5\text{cm} \\ \text{丈} \quad \frac{\text{ズロース脇丈}}{2} + 3\text{cm} \end{array} \right\}$

(3)圖の場合

前は衿剣から胯下の所迄 } 3.5cm 幅の
後は胴線から胯下の所迄 } 見返し布

c. 總用布の概算

型紙の丈 $\times 2$ + 縫代 = 總用布

第六 仕立て方

(1)圖の場合

胴はウエストの縫ひ方に同じ。

ズロースは、

1. 裾の始末
2. 胯下縫
3. 胯上を前後共三つ折りにしてミシンをかける。
4. 前胯上を 2cm 重ね、縫ひよせをして二枚の帯にて挟みつけ。
次に裏の帯をウエストに縫ひつけ、表帯を縫目の上に重ねて周圍に飾りミシンをかける。
5. 穴紐、釦附。
6. 仕上げ

(2) 圖の場合

1. ウエストの後に見返し、持出し、附。
1cm 1cm
2. ウエストの後の裾を三つ折縫。
3. ウエストの脇、袋縫。(後の丈一ばい)
4. 肩合せ、袋縫でも折伏せ縫でもよい。
5. 衿刳、袖刳の始末。
6. ズロースの後胯上縫ひ合せ。
7. ズロースの兩脇を裾より二分の一だけ縫ひ合す。
8. ズロースの縫ひ残したる二分の一に裏から持出し切を附け、幅を 2cm に定めて表にミシンをかける。
9. ズロースに縫ひよせをして帯を付ける。出来上り幅 3cm
10. ズロースの裾の始末。
11. ズロースの胯下を袋縫。
12. 釦附及び穴紐。
13. 仕上げ。

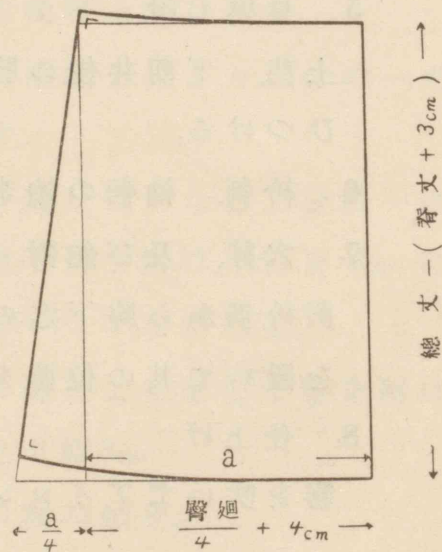
(3) 圖の場合

1. 胴線迄脊を折伏せ縫。
2. 脇縫。
袋縫、折りは前に。
3. 裾の始末。
4. 胯下縫。
5. 見返し附。
上前、下前共後の胯上と續けて裏に縫ひつける。
6. 衿刳、袖刳の始末。
7. 穴紐、及び釦附。
前衿刳から胯下迄の間に適當なる間隔を置いて其の位置をきめる。
8. 仕上げ
霧を吹いてアイロン掛け。

第五節 ペテコート Petticoat

ブロースの上に着用し、スリッパを用ふる
ときは略してもよい。

第一 出来上り圖 第二 型紙の取り方



第三 地質

ネンスーク、キヤラコ、ベンベルグ、富士絹等。

第四 布の裁ち方

a. 縫代の取り方

全部 1cm

裾はレース幅だけ丈を詰める。

b. 帯 { 幅 8cm
丈 胴廻 + 弛み + 持出し + 縫代
10cm 2cm 2cm

c. 総用布の概算

型紙丈 × 2 + 縫代 = 総用布

第五 仕立て方

1. 脇縫、左の脇は上部を

大きい子供は脇丈の三分の一 } 縫ひ残す。
小さい子供は脇丈の二分の一 }

折りは前に。

2. 左脇明を三つ折縫にする

3. 裾にレースを付ける。

4. 帯附、帯丈の出来上り寸法に縫ひ縮め

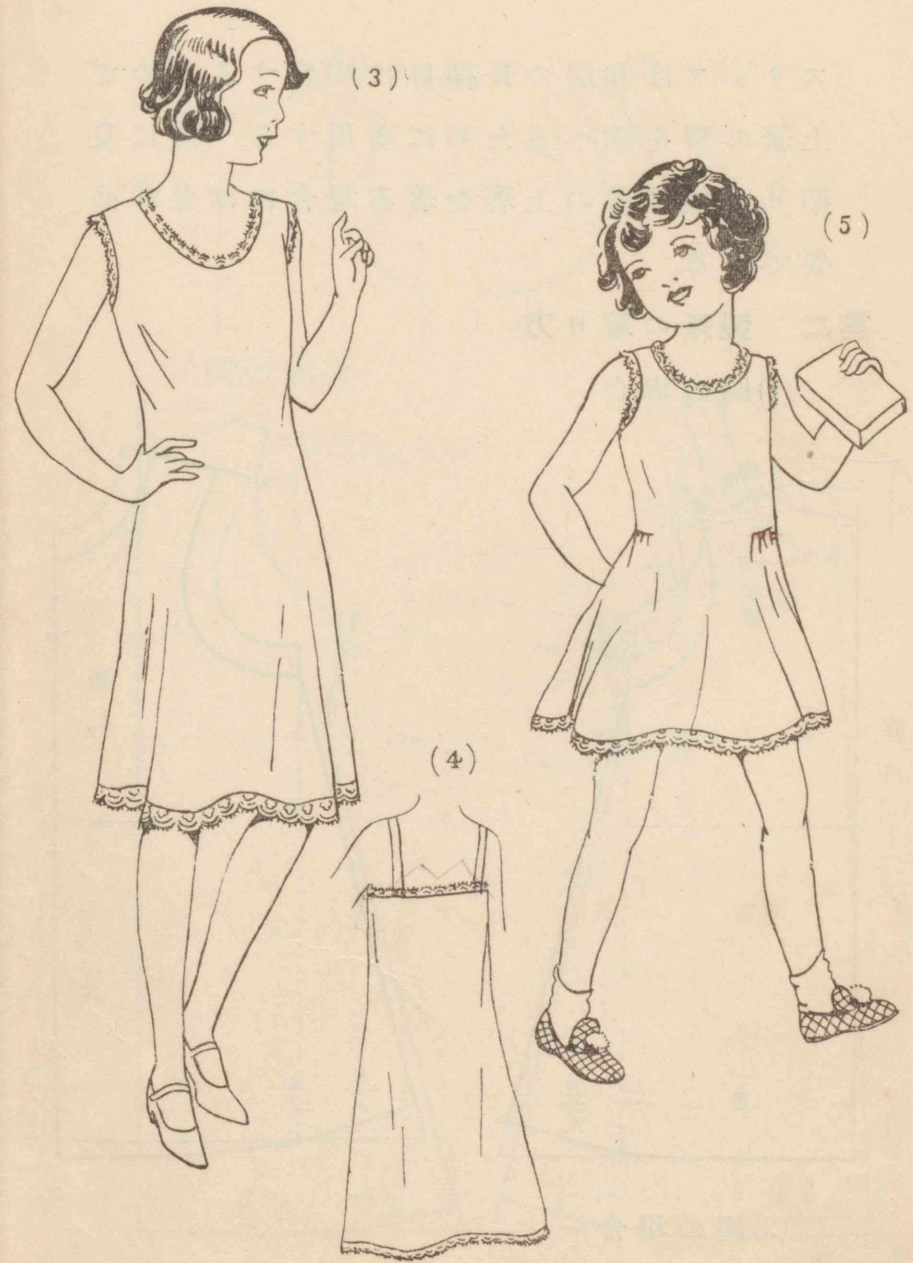
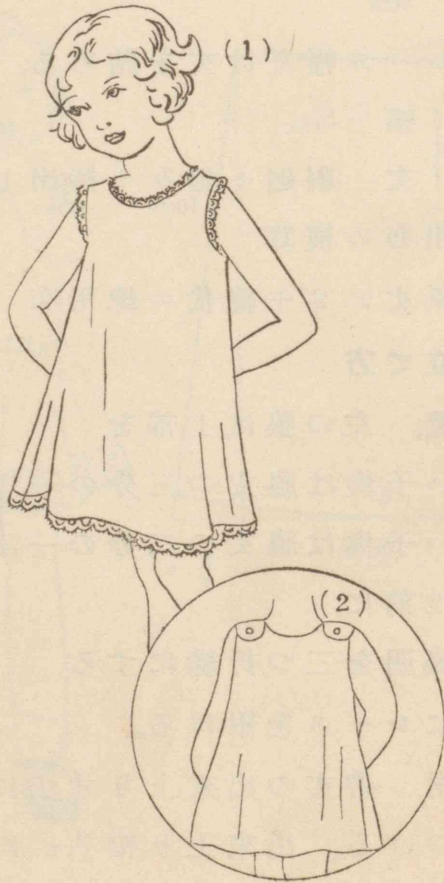
帯をつける。出来上り幅 3cm にして飾り

ミシンをかける。

5. 穴紐、ウエストの釦に合わせて縫る。
6. 仕上げ。

第六節 スリップ Slip

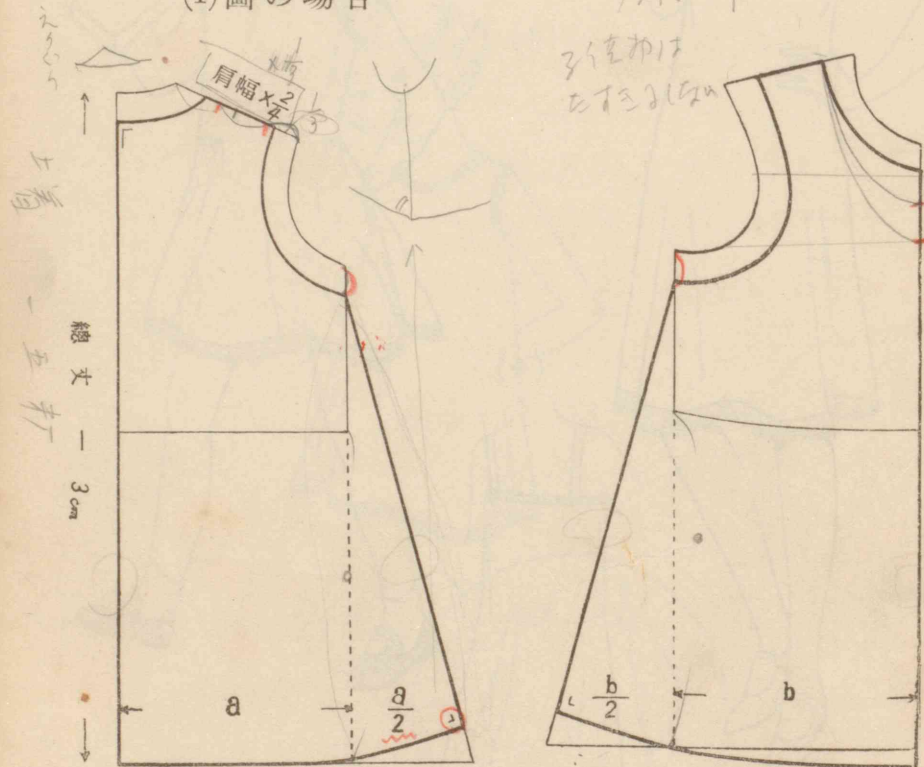
第一 出来上り圖



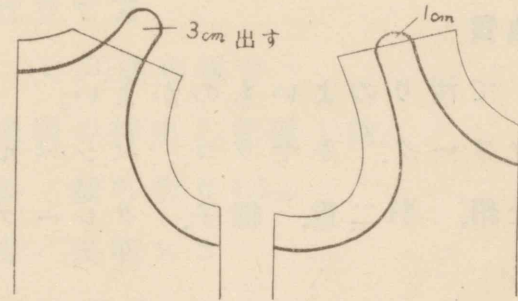
スリッパは和服の長襦袢に相当するもので
上著の形を調へるために着用する、殊に夏
期其の他地薄の上著を著る場合には是非必
要である。

第二 型紙の取り方

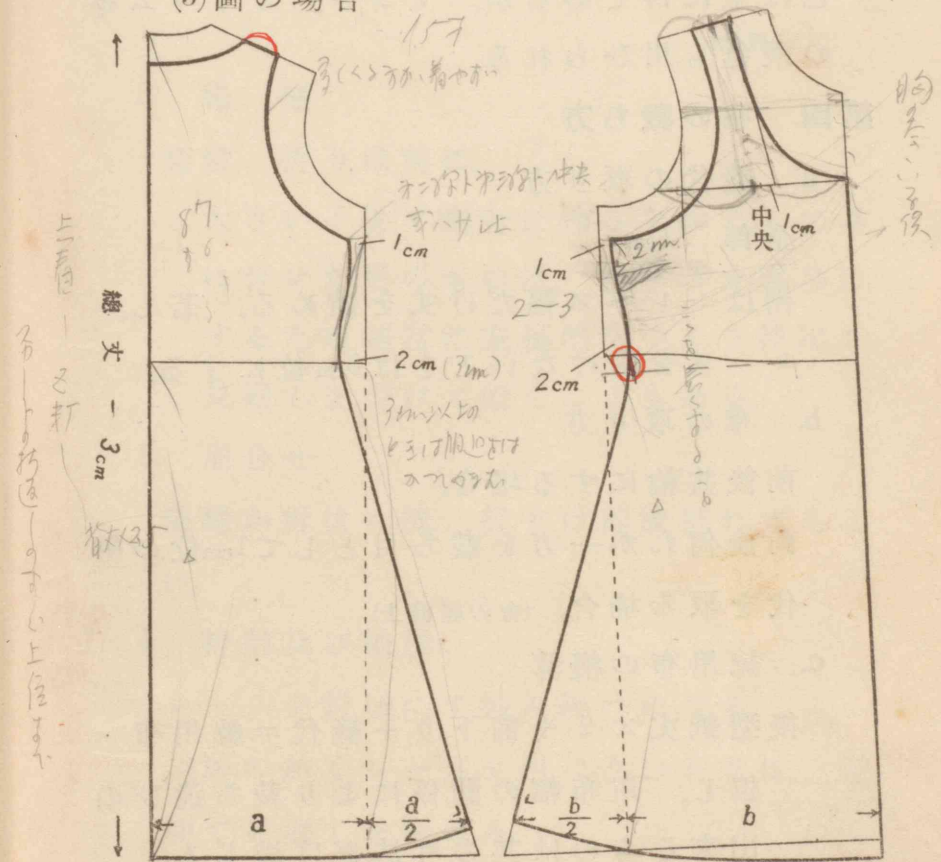
(1) 圖の場合



(2) 圖の場合



(3) 圖の場合



第三 地質

柔かくて滑りのよいものがよい。

ネンスーク、キヤラコ、ベンベルグ、
富士絹、羽二重、縹子、クレープ・デシン
等

色は主に白であるが、ピンク、クリーム等
の淡色も用ひられる。

第四 布の裁ち方

a. 縫代の取り方

全部 1cm

裾は レース幅だけ丈を詰める。若し、
レースを附けないときは5cm位にする。

b. 布の取り方

前後共輪にする場合。

前後何れか一方を裁ち目として1cm位の縫
代を取る場合。(布の經濟上)

c. 總用布の概算

後型紙丈 × 2 + 前下り + 縫代 = 總用布

但し、用布幅の関係により裁ち違ひの
出来るものは其の寸法だけ減じる。

第五 仕立て方

(1) (3)圖の場合

1. 後明の持出し見返し附。

幅 裁ち切り4.5cm

丈 後明 × 2

0.4cmの縫代にて縫ひ附け、裏をまつる。

(60頁参照)

2. 脇縫

袋縫、折りは前に。

大きい子供で割合に弛みを少くして身
に合せた形のもの、脱ぎ著を容易に
するため適當に左脇明をつくり持出し、
見返しをつけて置くこともある。

3. 肩合せ

袋縫か折伏せ縫、折りは前後何れでもよ
い。

4. 衿刳及び袖刳

レースを斜切にて挟み附けにする。

(2)圖の如くレースを附けないときは、斜
切で見返しを附ける。

5. 裾

レースを付けるときは、レース幅は随意
でよいが、丈は裾廻に其の四分の一位の
弛みを加へて置く。

レースを縫ひ縮め斜切で挟み付けにする。

6. スナップ附

7. 仕上げ。

第三章

女 児 洋 服

第一節 調製上の注意

第一 形状の種類

1. 肩から裾迄一續きのもの。(ワンピース)
One-piece dress

- a. 切换線のないもの、
- b. 一部分に切换線のあるもの、
- c. 胸の邊りに切换線のあるもの、
- d. 胴の邊りに切换線のあるもの、

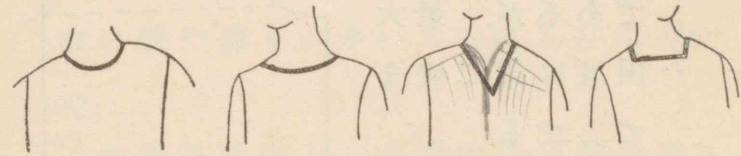
2. 胴と裳と別々になつたもの、

即ち

a. ブラウス } (ツープース)
スカート } Two-piece dress

b. ブラウス } (スリーピース)
スカート } Three-piece dress
ハーフコート }

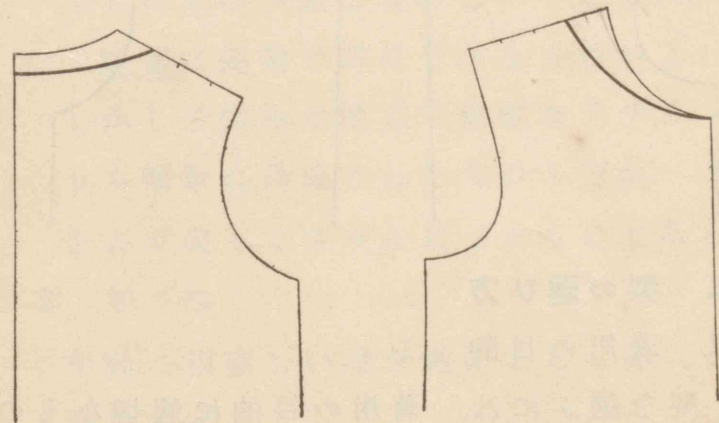
第二 衿割型の種類



丸 型 ボート型 ポイント型
(V字型) 角 型

割出し方

1. 丸型 原型に同じ。誰ニモイハレ
2. ボート型 瘦ニイハレニハレハカヨイ

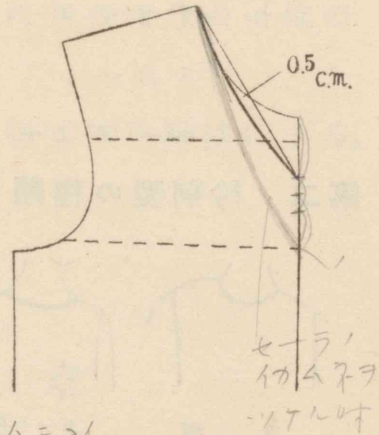


圖の如く原型肩幅の四分の一内外を裁ち落す。

3. ポイント型

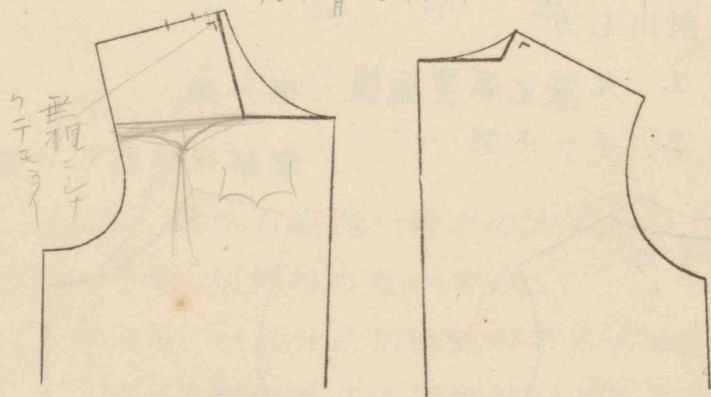
日本人の立身型

後は原型の通り。
前は右圖の通り。
願の下りは任意であるが、最大
限度は第二線までとする。



4. 角型

丸襟長袖ハコヨイ
アタリ骨の付いたハコヨイ



第三 型の選び方

1. 著用の目的

型を選ぶには、著用の目的に適切なもの

でなければならない、即ち
日常著、運動著、通學著、晴著とそれぞれ
が持つ役割を充分生かすものを選定し
なければならない。

日常著はどこまでも日常著らしく簡単
で著用に便に且つ洗濯に容易なもの。
故に襷や飾りの多いものはさけた方がよ
い。

運動著は安心して自由に活動出来るも
ので、極めて輕快に清々しく感じられる
もの。

通學服は眞面目で上品で清楚の中に生
生したものが感じられるやうなもの。
セーラー服

晴著は優美で晴れやかなものがよい。
しかし子供物は總じて複雑なデザインよ
りも簡単に構成されたものの方が、子供
をより美しく生々と思わせるものである。

2. 年齢

年齢に相應しい型を選ぶことも亦大切な
條件である。

幼児の服は服の重心が上にある幅広い感じのものを選べば間違ひない。

少女の服は胴に切換のあるワンピース、及びツーピース、スリーピース等何れにても適當に用ひてよい。

3. 體格及び容姿

體格や容姿によつて型を選ぶには、缺點を補ふといふ消極的の選び方と、缺點は其のまゝに放置して思ひ切つて特長を生かしてゆくといふ積極的の選び方とあるが、先づ最初は缺點を隠すことによつて美を表現するやうな方法から入つてゆくのが無難であらう。

(イ) 脊が高くて瘠せたものには 襷やフールを取り入れて太さを加へ、丈は切換線やベルトを巧につかつて丈の調節を計ることも一方法である。

(ロ) 脊が低くて肥えた者は、ゆつたりとした飾りけの少ないもの、
又縦に延びた線を配して長さを感じずる

肩の多いと、肩の多いにゆを減らすのめい
やうに工夫することもよい。

(ハ) 顔の形

顔に最も近い衿袷は、顔の形と深い關係を持つて居る。

丸顔の者

角のある衿袷をつかつて丸みを減じ、

ポイント型をつかつて丸みに長さを加へる等の方法を取る。

面長の者

其の反對のゆきかたをする。

而し衿がつく場合は、衿の形によつて同じ衿袷でも表情が變つて來るから、充分に考慮せねばならない。

(ニ) 頸が太くて短い者

衿袷はゆつたりと明けた方がよい。

(ホ) 頸が細い者

衿袷は割合びつたり合つたもので、なるべく衿をつけた方がよい。

第四 地質

1. 種類

	品 目	幅	價 格 _{1m}	用 途
綿	ギンガム	75 _{cm}	30錢内外	夏の服地として實用的なもの
	トブラルコ	76	29 内外	同 上
	ポプリン	75	30 内外	夏の服地として用ひられるが染色が比較的堅牢でない
	朝鮮木綿	75	40 位	同上、染色最も堅牢
	オックスフォード	81	98 位	夏のスポーツドレス
	インディアンヘット	91	150 位	水兵服等に用ひ染色堅牢
	縮	72	35 内外	夏の服地として著心地よく實用的なもの
	ポイル	柄 90 無地 107	120 内外 85 位	夏の服地として主に外出著に用ふ
	ポイル變織	91	190 位	同 上
	ボンヂ	75	55 位	運動服水兵服用
	タオル地	75	白38 位 柄45 内外	寢衣、海水ケープ等用
	ピツケ	柄 91 無地 75	110 内外 26 乃至 60	夏の服地、衿カフス用及び帽子等
	オーガンヂイ	70	200 位	夏の服地並に裝飾用
	ネンスーク	90	71 位	下着用
	布	小倉地	75	70 位
毛織子		80	37 位	裏地用
綿リンネル		72	50 内外	運動服水兵服用
人絹交織		72	48 乃至 80	婦人、子供服用
麻布	リンネル	70	180 位	夏の婦人子供服用

お洗濯の糸
フランス生地
おかしな
おかしな

	品 目	幅	價 格 _{1m}	用 途
人絹	柄 物	72乃至 91	40 乃至 90 錢	婦人子供服用
	無 地 物	72	33 内外	婦人子供服用及び下著裏地用
絹	富士絹	76	柄 125位 無地80位	子供婦人服用
	ヂョーゼット	91	150 内外	晴著又は裝飾用
	クレーブデシン	91	柄 220 位 無地180内外	同 上
布	クレーブサテン	90	290 位	同 上
	輸出羽二重	90	80 乃至 140	下著及び裏地用
	ベルベット	57乃至 72	160 乃至 480	晴 著 用
	メルトン	145	300 内外	子供婦人服用
	サ一ヂ	145内外	200乃至 900	同 上
毛	セル	76乃至 150	200乃至 500	同 上
	カシミヤ	70乃至 142	400 内外	同 上
	アルバカ	140	300 内外	同 上
	ラシヤ	140	500 内外	男児服及び外套用
	ラクダ	145	800 内外	子供婦人服外套用
	ネ	75	120 位	子供服地用
	布			

2. 用布の選び方

(イ) 色

子供物は可愛らしく晴やかなものを選

ぶ。 桃色、水色、薄い色、明るい感じのもの
外色、明るい感じのもの

一體に無地は縞物、模様物より上品

に見える。

皮膚の色との関係

色の白い子供には何れの色を用ひてもよいが、色の黒い子供には淡色よりも深い色をもつて来た方がよい。^{むらさき}_{グリーン}

身體の肥瘠との関係

特色を生かすか殺すかの二方面がある、即ち肥えた晴やかな感じのものが暖い色をつかつて特長を益々強調する方法と、澁い色をつかつてほつそりした感じを出す方法とがある。

(ロ) 縞柄

子供物は大人物より縞柄共却つて小さい方がよい、又肥えた者が大きい縞や柄を著るのは避けた方がよい。

(ハ) 流行

洋服の流行は形が主なものであるが、型の流行に支配されて色や縞柄にも流行がある。

着用者の皮膚の色及び容姿等の調和

を計つて用布の選擇をせねばならぬ。

(ニ) 經濟上

子供服は洗濯が頻繁であるから、地質及び染色は最も堅牢なものを選ばねばならぬ。

【注意】

服の着用の目的及び型によつて最も適當な布を選ぶことは、服を生かす最大條件である。

第五 裝飾について

洋服の裝飾は總て全體の色調と形の調和とを考へて表現せられたものでなければならぬ。如何に部分的には色彩がよく形が優れてゐても、これを一つにまとめて見たときの感じに統一を缺いたものは、美しさも、ゆかしさも失はれるのであるから裝飾には充分注意して配色、形狀の均整等を計らねばならぬ。

1. 配色

(イ) 同色の配合は穩やかで上品で最も無難である、しかし變化には乏しい。

（ロ） 反對色を巧に配合して新しい感覺を現したものが近來盛に用ひられてゐる、此の場合各々の色の面積を考へねばならぬ。

（ハ） 縞柄物に配する色は、地色を取るか或は其の縞柄中最も感じの強くて少き色を用ふるとよい。

（ニ） 白と黒とは他の何色とも能く調和し又何色をも生かす色である、實に流行を超越した流行色である。

（ホ） 氣候と服の色

白又は青の系統は涼しい感じを與へ赤の系統は暖い感じを起さすから、夏服には涼しい色を多く用ひ、冬服には暖い色を用ひる。

配色上については以上の如くであるが、普通二色位にして色の種類を多く取り合せることは、避けた方が無難である。

2. 形狀の均整

（イ） カラー、カフス、ポケット等の統一

による美しさも好ましい裝飾である。

ポケットは子供物の平常著では實用の外に一種の裝飾として扱はれる。

（ロ） 左右對等でない形狀のときは、裝飾によつて其の均整を計らねばならぬ。

右腰に重い飾りのあるときは、左肩に飾りを附けて其の均整を計る等は其の一例である。

3. 裝飾の種類

（イ） 同布の取り合せ方による裝飾

縞物は其の布の縦或は横斜等自由に取合せると實用的で面白い裝飾となり、布によつては表裏の使用によつて變つた味を出すことも出来る。

（ロ） 刺 繡

無地物には刺繡等を適宜に施すと、引立つてよい、しかし、縞柄物には用ひても効果はない。

刺繡に用ふる絲は染色の堅牢なものを選ばねばならぬ。

(ハ) 造花、リボン、レース、編物、テープ、羽毛及び獣毛、

以上は洋服の地質及び用途に応じて適當なものを選ぶこと。

第六 裁断上の注意

1. 縮布法

(イ) 木綿、毛織物

布を水に浸して充分水分を吸収させ、後、畳みたる儘絞つて乾かすか、或は霧を吹き又は海綿、水刷毛等で濕りを與へ、火熨斗を掛けて縮絨法を行ふ。

(ロ) 絹物

火熨斗で地直しをする。

ベルベットは湯通しをする。

以上の工程を終へて裁断をする。

2. 型紙の置き方

(イ) 布は必ず二枚に折り其の上に型紙を置くこと。

(ロ) 無地物の場合

型紙を置くときは出来るだけ布地が經

濟になるやうにし、残布はなるべく續けて取れるやうにする。

(ハ) 縞物の場合

縞の中央が服の左右の中央になるやうに折つて其の上に型紙を置くこと。

(ニ) 模様物の場合

模様が服の左右の平均の取れるやうに折つて型紙を置くこと、又動植物等の模様で一方にばかり向つた模様は倒にならぬやう注意して型紙を置くこと。

(ホ) 毛織物で毛並のある場合

肩より裾に、袖は袖山から袖口に、毛並の向くやうに型紙を置く。

綾目のあるものは右肩より左裾に流れるやうに布を裁つ。

(ヘ) ベルベットのの場合

毛並が裾から肩の方へ向くやうに裁つ。

第二節 各部分の縫ひ方

洋服の仕立て方につき其の都度各部分の縫ひ方を細説することは、繁雜なる嫌ひがあるか

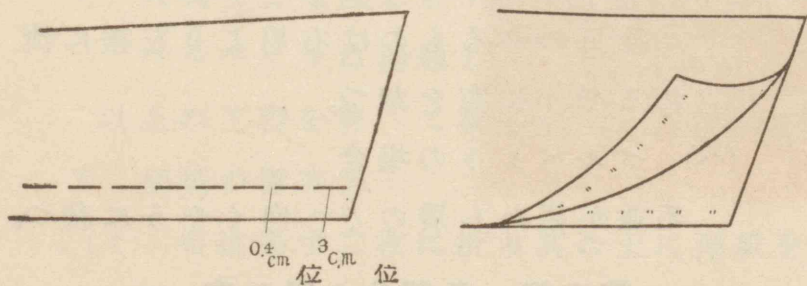
ら共通の縫ひ方について説明して置く。但し、縫ひ方はミシン縫でも手縫でもよいが上等の絹物は手縫の方がよい。

第一 切躰のしかた

毛織物は切躰にて標附をする。

方法

1. 布を中表に二枚重ねチャコにて型紙通りに標を付ける。
2. 更に縫代の線をチャコにて引く。
3. 裁切線を裁ち、躰糸(42番細三子ともいふ)二本にて裁臺の上に置きたるまゝ一針抜きて圖の如く縫ふ。



4. 3cm の針目の真中を切る。
5. 上の布を糸の抜けないうやうに少しあげ

圖の如く其の間の躰糸を切る(出来るだけ短く)

6. 表に残つた糸を出来るだけ短く切る。

第二 前明

寸法は衿割と合せて頭が入る程度に明ければよいが、幼児は着用容易なるため割合多く明けた方がよい。

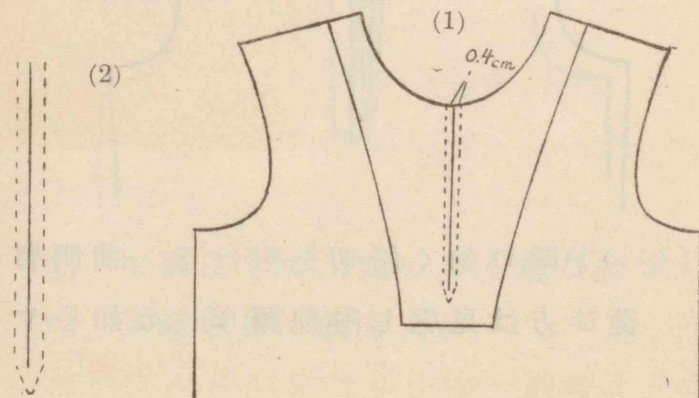
大體の標準を示せば、

二・三歳位迄は…胴線迄 五・六歳位迄は…三線迄
八・九歳位迄は…二線半迄 十歳以上は…二線迄

【附】 頭廻は一歳46cmとし八歳迄は一歳を増す毎に1cmを加へ九歳からは一歳を増す毎に0.5cmを加へる。

前明の始末には種々なる方法があるが、其の主なるものを挙げると

1. 見返し附



(イ) 圖の如く中表にして0.4cmの縫代に縫ふ。但し、前明留の縫ひ方は(2)圖の如くする。

(ロ) 表返して見返しの端三方をまつる。

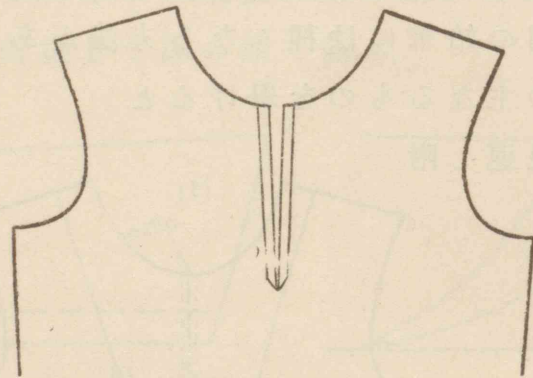
(ハ) 前明留を丈夫にするため2cm位ミシンをかけるか又は紐縫をする。

(ニ) 持出しをつけるときは、2cm幅の出来上りにして左前明に挟み付けにする。

2. 玉縁

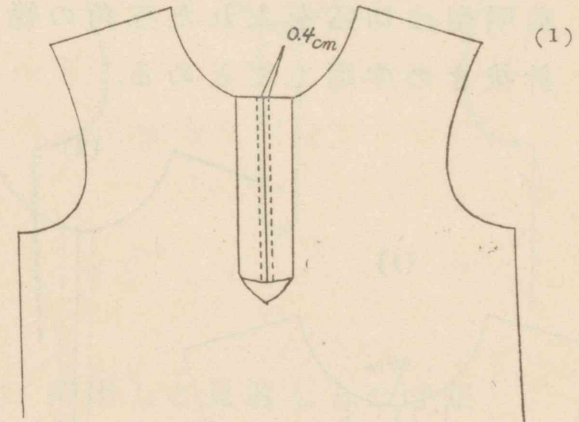
1 の方法

出来上り圖

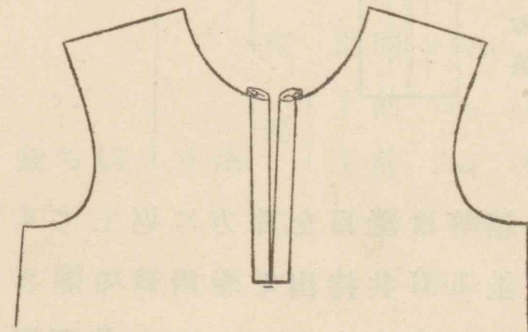


(イ) (1)圖の如く斜切を付ける。前明留の縫ひ方は見返し附(前圖(2))の如くする。

(ロ) 斜切を裏にまつり付けるか、又はミシンを玉縁の際にかけてとめる。



II の方法 (比較的地厚物の場合)

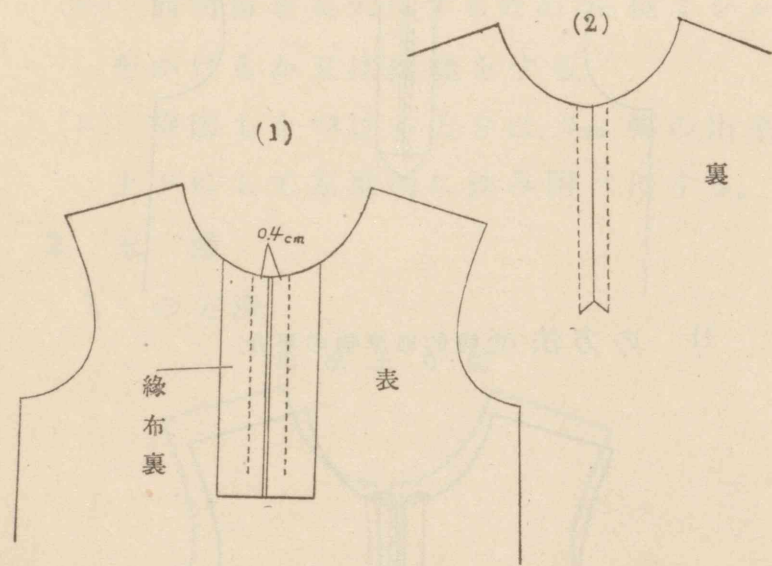


(イ) 中表にして(1)圖の如く縫ひ合す。

(ロ) (2)圖の如く缺を入れ

(ハ) 出来上り圖の如く縫目を割つて落とし
ミシンをかける。

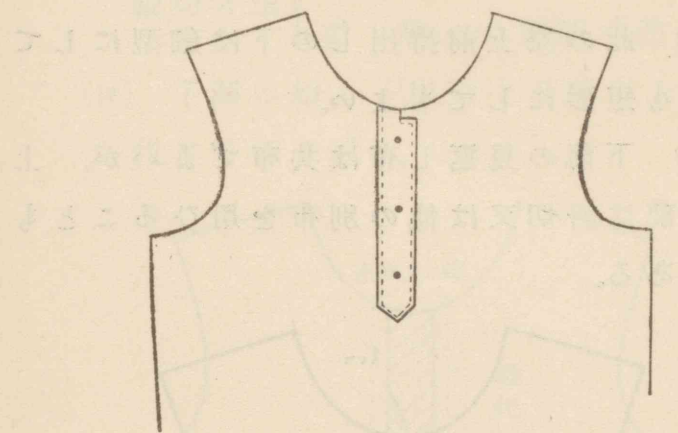
前明留は切込を入れた三角の縫代を一
針抜きの半返してとめる。



木綿等は縫目を片方に返してもよい。
以上 I・II 共持出しを付けるときは、幅
2cm の出来上りとして左前明裏にまつ
り付けるか、玉縁留めのミシンと共に
縫ひつけるかする。

圖の如き持出しを付ける場合

出来上り圖



(イ) 持出しと見返しとの寸法

出来上り寸法	幅	下前	2cm
		上前	3cm
	丈	前明	+2cm

裁ち切り寸法	幅	下前	3cm (見返し切)
		上前	7cm (持出し切)
	丈	前明	+ 3cm

(ロ) 圖の如く缺を入れ下前には見返しを
つける。

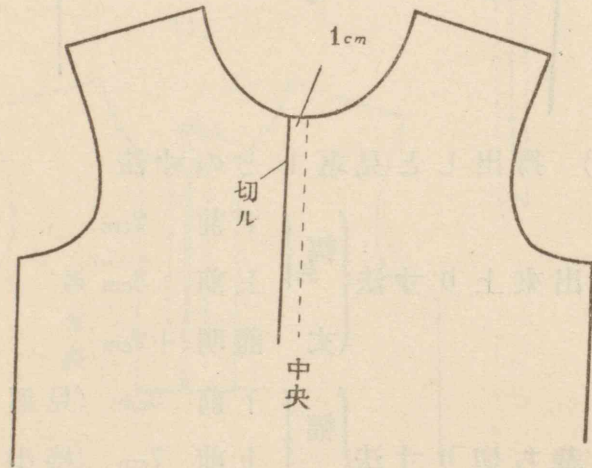
(ハ) 上前は表に縫目を出して縫ひ合せ、
留際に切込を入れる。

(ニ) 折りは片方に折つて表に返し幅を定

めて飾りミシンをかける。

(ホ) 此の際上前持出しの下は劔型にしても矩形にしてもよい。

(ヘ) 下前の見返し布は共布でよいが、上前は斜切又は他の別布を用ひることもある。

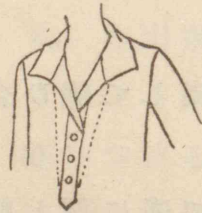


4. 圖の如き場合

出来上り圖 (イ) 上下前の持出し寸法

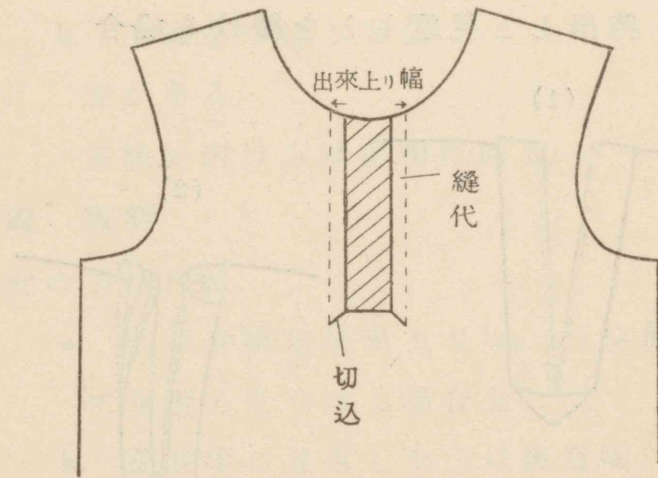
出来上り寸法

幅 3cm 内外
丈 肩より前明寸法 + 2cm



裁切寸法 { 幅 前衿劔幅 + 8cm
丈 肩より前明寸法 + 3cm

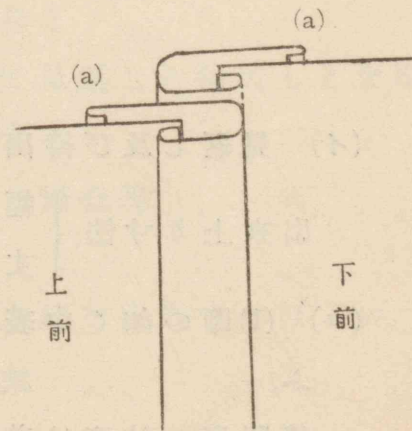
(ロ) 下圖の如く (出来上り持出し幅 - 縫代 × 2) 切り取る。



(ハ) 上前下前共

中表にして縫ひ合せる。

折りは片方に折つて表に返し、幅を定めて飾りミシンをかける。

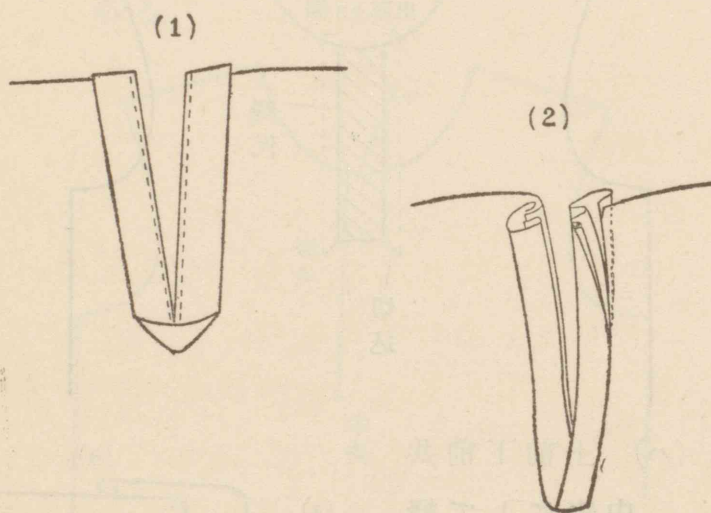


(ニ) 持出しの奥(圖中(a)部)はまつるか又は、
ミシンをかける。

第三 後明

後明の寸法は前明の通り。

1. 持出しと見返しとを續ける場合



(イ) 見返し及び持出し寸法

出来上り寸法 { 幅 1.3cm
丈 後明×2

(ロ) (1)圖の如く中表に、0.4cmの縫代にて縫ふ。

後明留の注意は前明 I に同じ。

(ハ) 幅を定めてまつりつける。

2. 此の外

a. 二枚の布にて持出し見返しを付ける場合

b. 玉縁をつける場合
等がある。

玉縁の付け方は前明に同じ。

第四 肩明

此の方法には

a. 前後身頃を出来上り1cm づつ長くして見返しをつける場合と

b. 前身頃に見返しをつけ後身頃に持出しをつける場合と

c. 一枚の布にて見返しと持出しとを續けてつける場合と

d. 玉縁を付ける場合等
がある。

前明、後明の方法を斟酌すればよい。

第五 縫ひよせの始末

1. 縫目に縫ひよせをする場合((1)圖)

(イ) 手縫のときは縫線を小針に縫ふて目的の寸法に縮める

(ロ) ミシンのときは縫線を中心とし上下0.2cmの所を縫ひ、二本の下糸を同時に締めて目的の寸法にする。出来上つた後に表に出て居るミシン糸は除く。

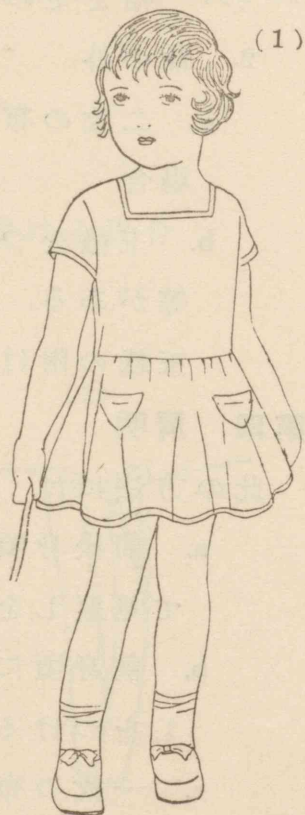
2. 縫ひよせを飾りとする場合((2)圖)

(イ) 手縫のときは縫ひ

よせをすべき線を(中表に)つまみ、極浅くまとひ縫にして目的の寸法に縮める。絹物のときは尙此の上をスカラ縫の如くかがつて置く。(裏から)

用糸は

木綿・麻の場合はカタン糸30番



(1)

絹物の場合は絹糸又は羽二重糸二本を用ふ。

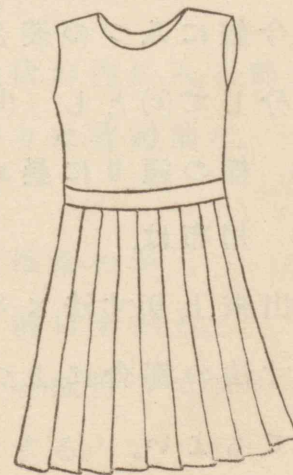
(ロ) ミシン縫のときは上糸は普通、下糸はカタン糸20番位として縫ひ、下糸を引いて目的の寸法に縮める。

絹布は羽二重糸を用ふ。

第六 襷の取り方

1. 片返し襷

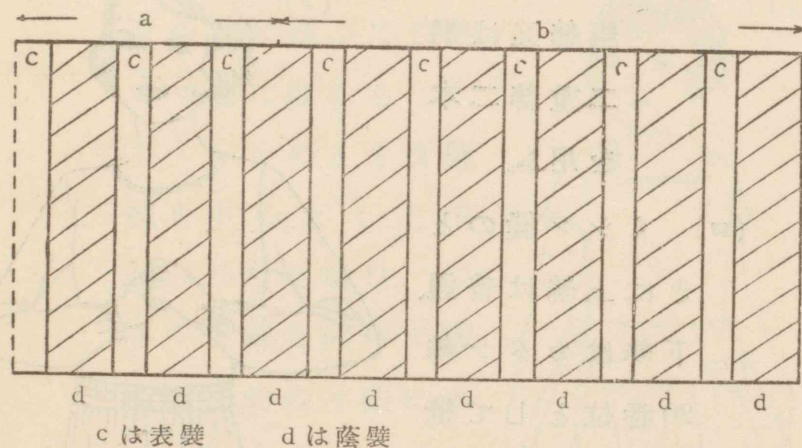
出来上り圖



(2)



方法



(イ) (a)を出来上り寸法とす。

(ロ) (b)を襷の深さとす。

(ハ) 標のつけ方

今假に八つの襷とするときは、(a)を八分して(c)とし、(b)を八分して(d)とする。

(ニ) 標の通りに疊めばよい。

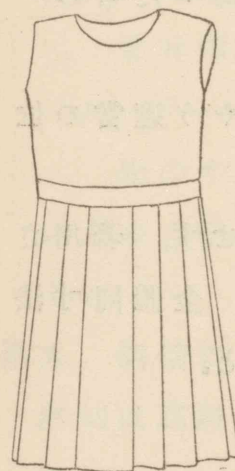
(ホ) 用布は、

出来上り寸法×3あればよい。

寸法の都合によつて、dの幅は狭くしてもよい。

II. 前巾著襷、後突き合せの場合

出来上り圖



方法

標の付け方は片返し襷に同じ。但し、此の場合前の巾著襷幅は出来上りCの二倍になるが形によつて廣くとつてもよい

第七 脇縫

脇縫は用布及び形によつ

て其の方法に種々あるが、最も普通のものについて示せば、

1. 袋縫にする場合

縫代は極浅く、裾伏の内に入る部分は一度縫ひてよい、折りは普通前に。

2. 縫目を割る場合

地質により一様ではないが

(イ) 普通に縫ふて縫目を割る。

(ロ) 豫め布端を0.5cm位折つてミシンをかけた後、脇縫をする。

(ハ) 布の端をまとひ縫にしたもの

(ニ) 布の端を「ヘムカッタ」で切つたもの

第八 裾の始末

裾伏の折り方は角の立たぬやう適當の位置に襷を取つて折る。

尙此の際出來上り線に拘泥せず、着用させて床上からの寸法を計り、全體同寸法になるやう注意して折ること。

其の方法は

1. 地薄物

(イ) 三つ折りにしてまつりつける。

(ロ) 極細い三つ折りにしてミシンをかける。

(ハ) 布端にピコミシンをかけ、折つて耳紵のやうにして留める。

(ニ) 捻紵にする。

(ホ) 出來上り線にピコミシンをかけて切る。

(ヘ) 出來上り線を玉縁にする。

(ト) 出來上り線にスカラ縫をする。

2. 地厚物

(イ) 布端に玉縁を取つた後、玉縁の内側を身頃にまつりつける。

(ロ) 「ヘムカッタ」で切り千鳥掛若しくは耳紵のやうにして留める。

以上の方法の場合に應じて適宜選定すればよい。

第九 斜切のつかひ方

斜切は眞斜に取つたものでなければいけない。

1. 方法は普通次の三種による。

(イ) 中表に縫ひつけ、斜切を裏に折り返して後、表から玉縁縫目の極端にミシンをかける。

(ロ) 同前の如くしてミシンかけの際玉縁の裏側を表より少し廣く折り、表より落しミシンをかける。

(ハ) (イ)の方法の如く縫ひ、裏側をまつりつける。

2. 付け方の注意

(イ) 圓の内側につける場合は、斜切をつ
らせること。

(ロ) 圓の外側に付ける場合は、其の曲り
方に應じて適當に布をゆるめること。

第十 ポケット Pockets

子供服のポケットは一面裝飾にもなるも
のであるから、よく服全體の調和をはか
つて其の形を選ばねばならぬ。

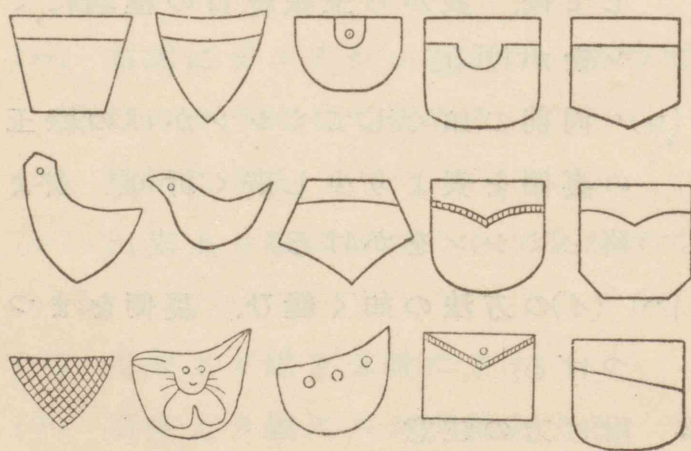
寸法は、形によつて一定し難いが、普通

口 胸廻りの六分の一

丈 口より少し長目にする

1. 表面に縫ひ付ける場合

(イ) 形の種々

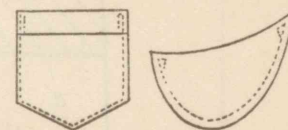


(ロ) 付け方

位置を定めポケットの形によつて左右
を正しく留め置いた後、圖の如くミシ
ンかける。

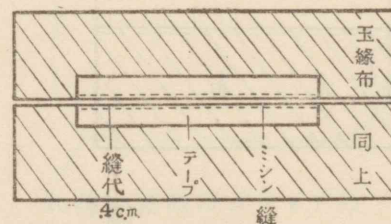
2. 切りポケットの場合

A 兩玉縁



(イ) (1) 圖の如くして縫ひ

(1)



表

(2) 圖の如く

鋏を入れ、

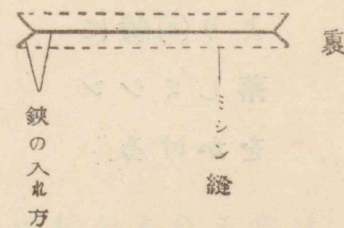
折りは用布

により片方

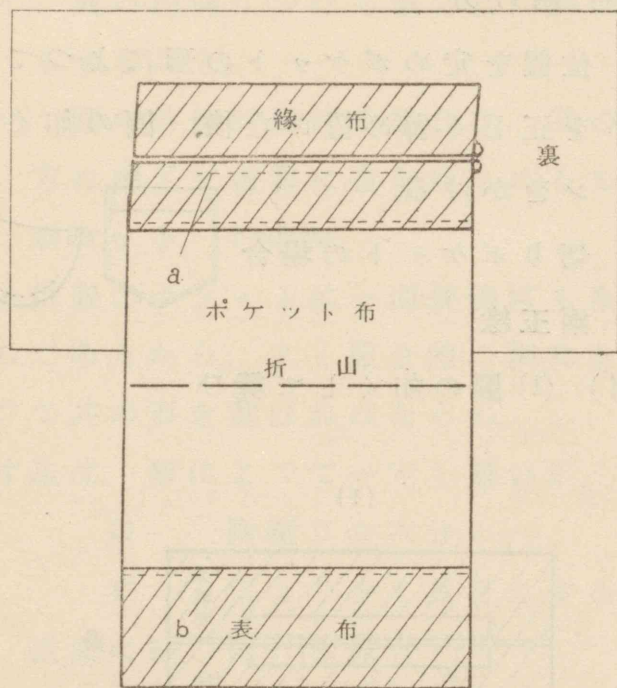
に返すか又

は割る

(2)

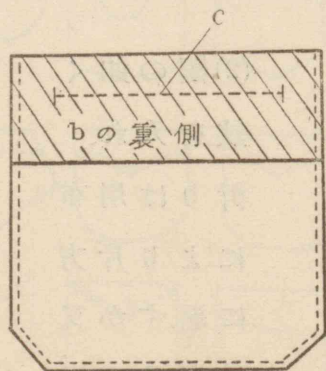


(3)



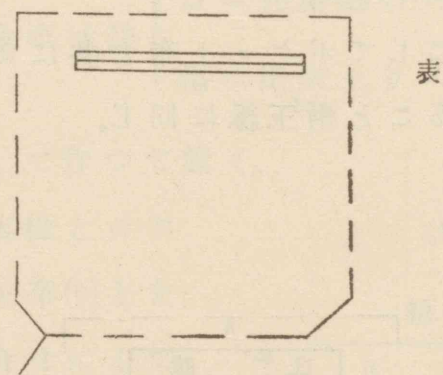
(4)

(ロ) 縁布を裏に返し表より(a)線に落としミシンをかける



(ハ) 縁布の端にポケット布を縫ひつける。
 (ニ) ポケット布を折り上玉縁の際を表より(b)布と共にミシンをかけること(c)線の通り。

(5)



此線は裏側のポケットの形を示したもの

(ホ) 左右を留める。
 (ヘ) ポケットの三方を縫ふこと(4)圖の通り。

B 片玉縁

a

(イ) 縁布を縫ひつけ鉄を入れる迄は

A の通り

(ロ) (b)線は玉縁

を(a)線迄の幅

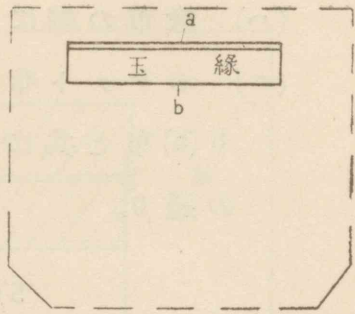
として落としミ

シンをかけ、

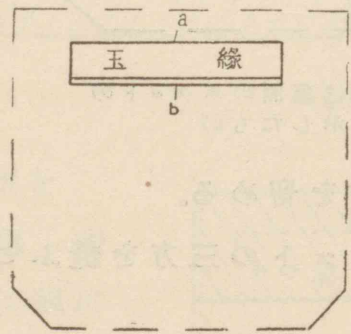
(a)線は毛抜合

せにしてポケット布と共にミシンを

かけること両玉縁に同じ。

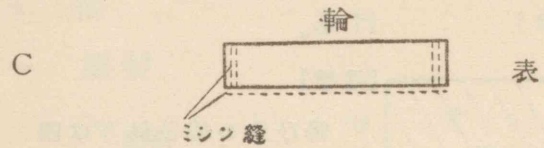


b



此の方法は玉縁を上の方にてするのみ
で他は(a)に同じ。

出来上り圖



(イ)

玉縁の寸法 { 口 = 約胸廻の六分の一
幅 = 出来上り × 2 + 縫代
2cm

にして作つて置く。

(ロ) 玉縁とポケ

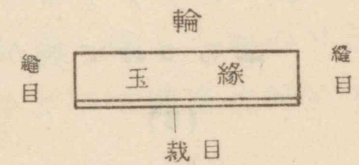
ット布(0)とを

突き合せにして

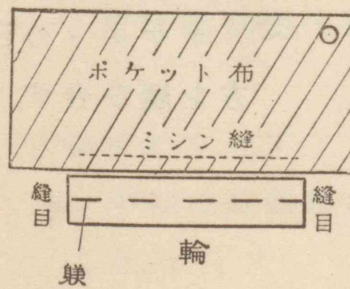
圖の如くミシン

(2)

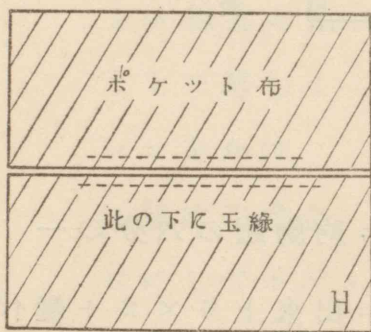
(1)



をかけ、折りはポ
ケット布の方へ返
す。



(ハ) 玉縁の上に(H)布を重ねてミシンをか
(3) ける。

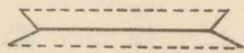


【注意】
縫ひ始め縫ひ終りは圖
の如く上下を等しくし
ない。

(4)

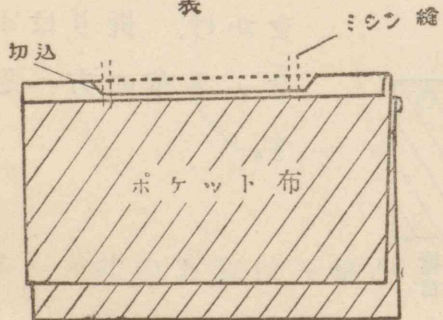
裏

(ニ) (4) 圖の如く
罫を入れる。



(ホ) ポケット布を(5)圖の如く裏にかへし
落ちつけて表から玉縁の両端にミシン
(5) をかけて抑へる

裏

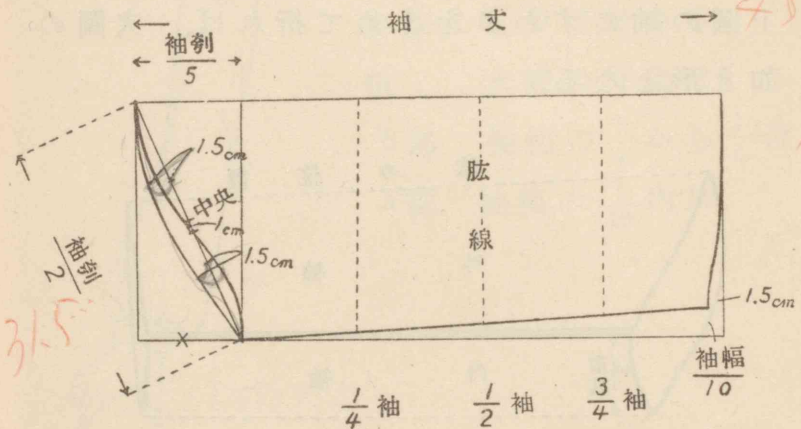


(ヘ) ポケットの三
方を縫ひ合す。

第三節 袖及びカフスの割出し法 Sleeve Cuffs

A 袖

第一 原型



上圖中Xの寸法即ち袖山の高さ

$\frac{\text{袖くり}}{5}$ 乃至 $\frac{\text{袖くり}}{4}$ とす。但し、此の寸法
は袖型及び年齢によつて適當に定める。

袖口の寸法

袖口の型によつて一様でない、最少限
度は手首廻り + 弛み (此の場合には袖口明をつ
くる) 2cm

袖丈について

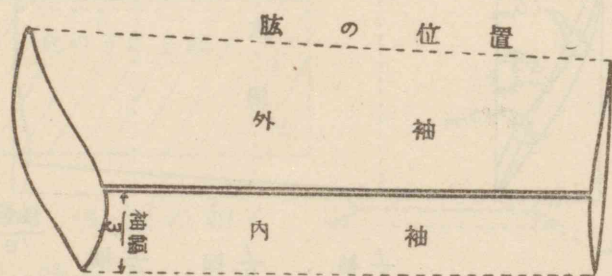
1. 半袖は肱線にかゝらぬやうに注意する
こと。

14.2

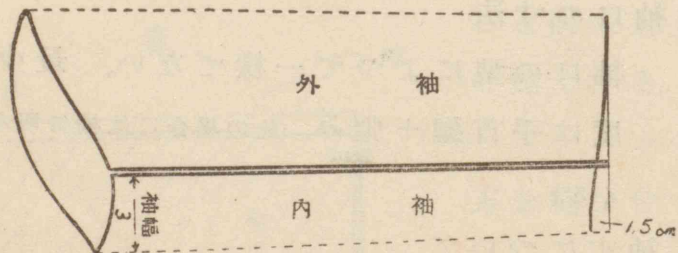
5.9

2. カフスをシャツ袖のやうにする場合は、袖丈を其のカフス幅だけ短くして置くこと。

上圖の袖のすわりをきめて折れば、次圖の如き形となる。



袖口を形よくするには下圖の如くすわりをきめて後に袖口を削つた方がよい。



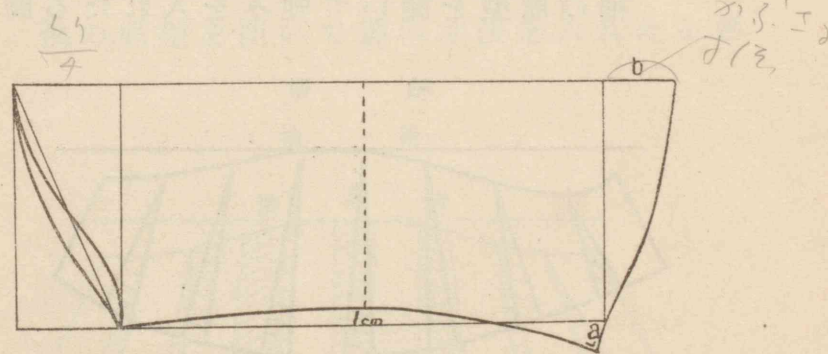
第二 圖の如く袖口の緩やかな場合

b部及びa部の寸法は、袖口のふくらみの程度の多少によつて定める。

但し、大體の寸法は、

b部 袖幅の $\frac{1}{4}$ から $\frac{1}{6}$ 位

a部 袖幅の $\frac{1}{10}$ 内外

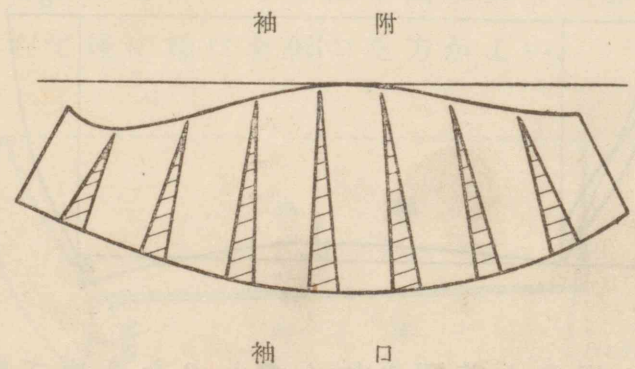


此の場合も前圖の如くすわりをきめて折り後、圖の如く袖口の線を引いた方が形はよい。

第三 圖の如く袖のゆるやかな場合



袖の原型を開いて弛みを入れたる圖

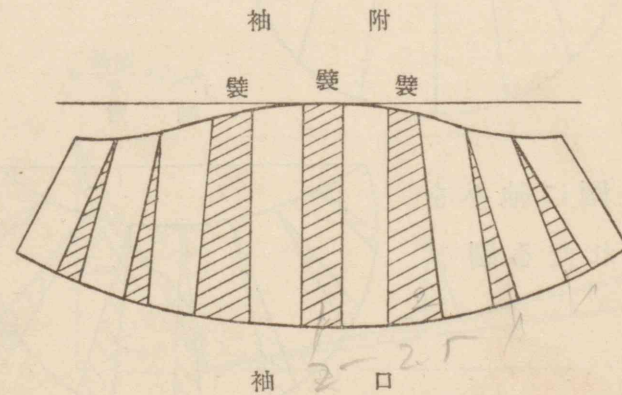


上圖切目の間隔は弛みの程度によつて一様でない。

第四 袖附に襷を取つた場合



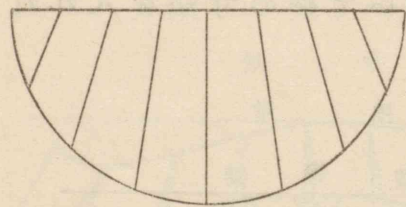
袖の原型を開いて襷の寸法を入れたる圖



第五 圖の如き半圓形の袖の場合

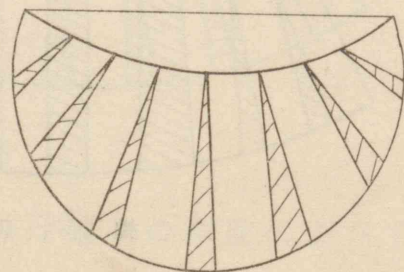


半圓形に切目を入れたる圖



袖 附

上圖に弛みを入れたる圖



第六 弛みの少い袖

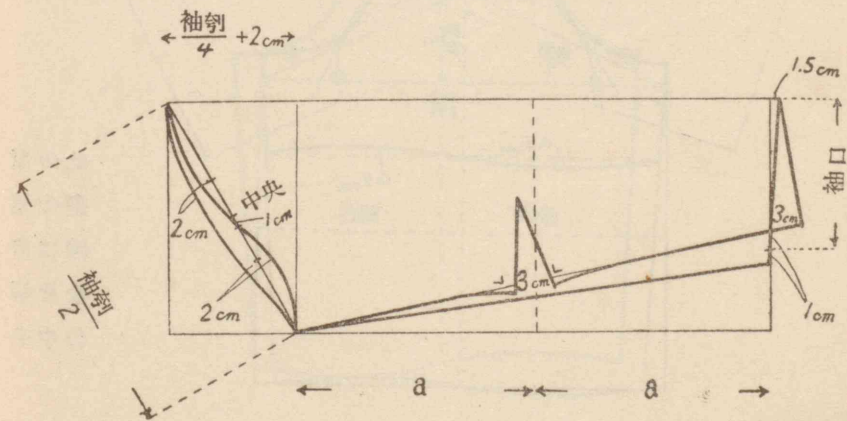
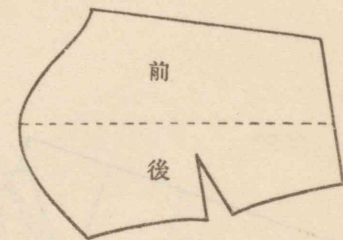
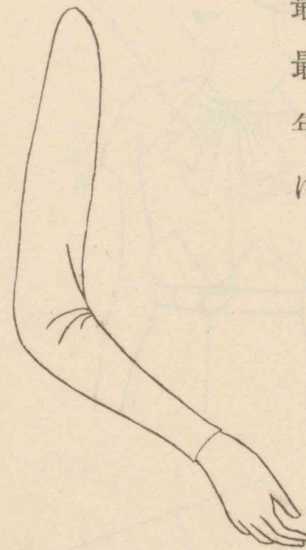
袖山の高さ

最大限度..... $\frac{\text{袖ぐり}}{4} + 2\text{cm}$

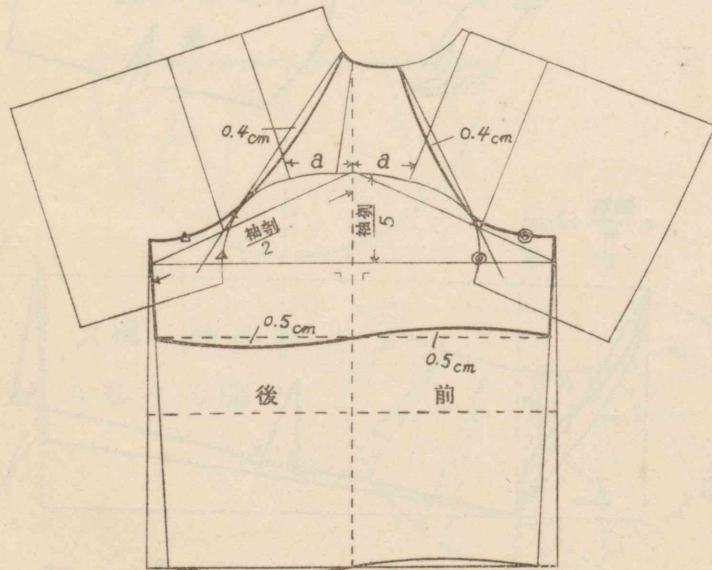
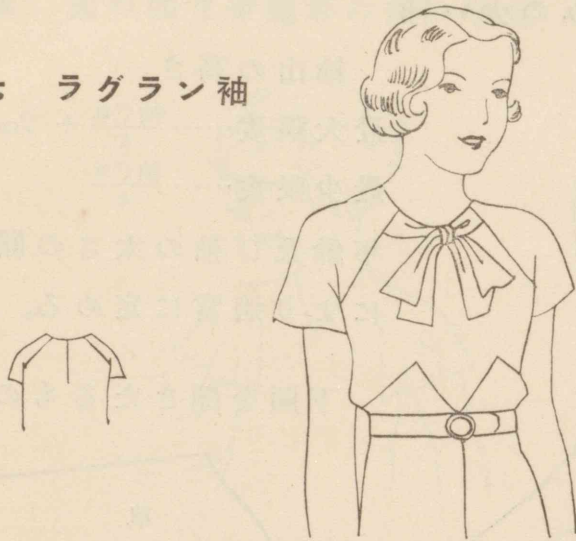
最少限度..... $\frac{\text{袖ぐり}}{4}$

年齢及び袖の太さの関係により適當に定める。

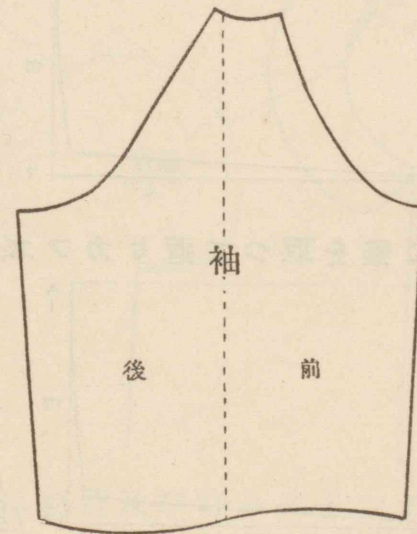
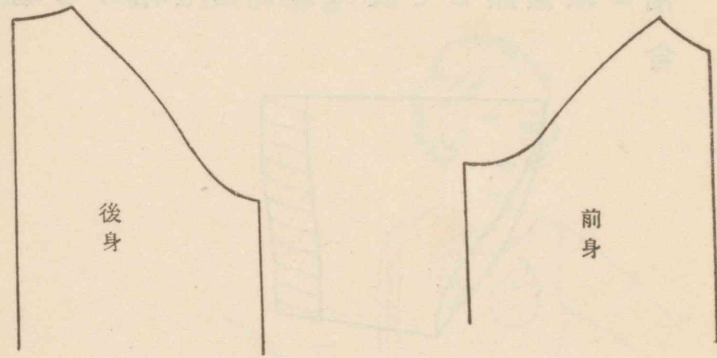
下圖を開きたるもの



第七 ラグラン袖

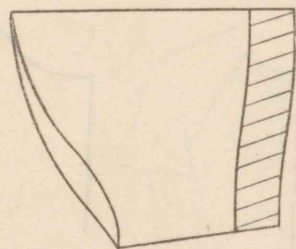


此の原型の脇線は前後身幅の中央

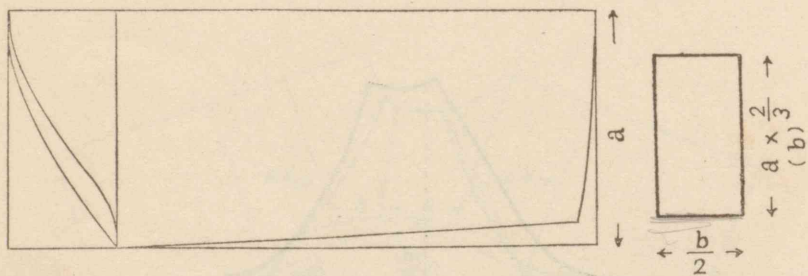


B カフス

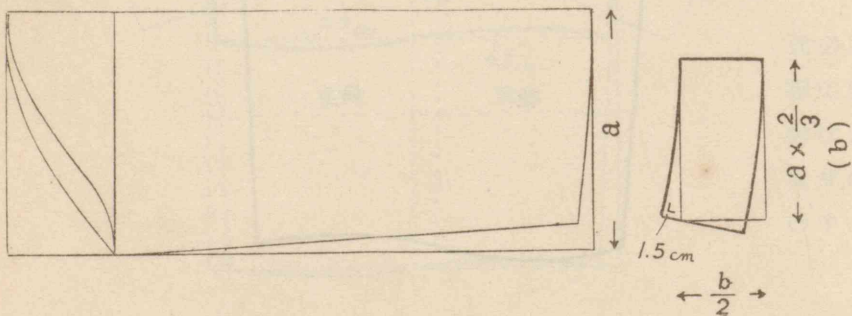
第一 袖口は襷無しで表にカフスを付ける場合



第二 袖口に襷を取つて先にカフスをつける場合



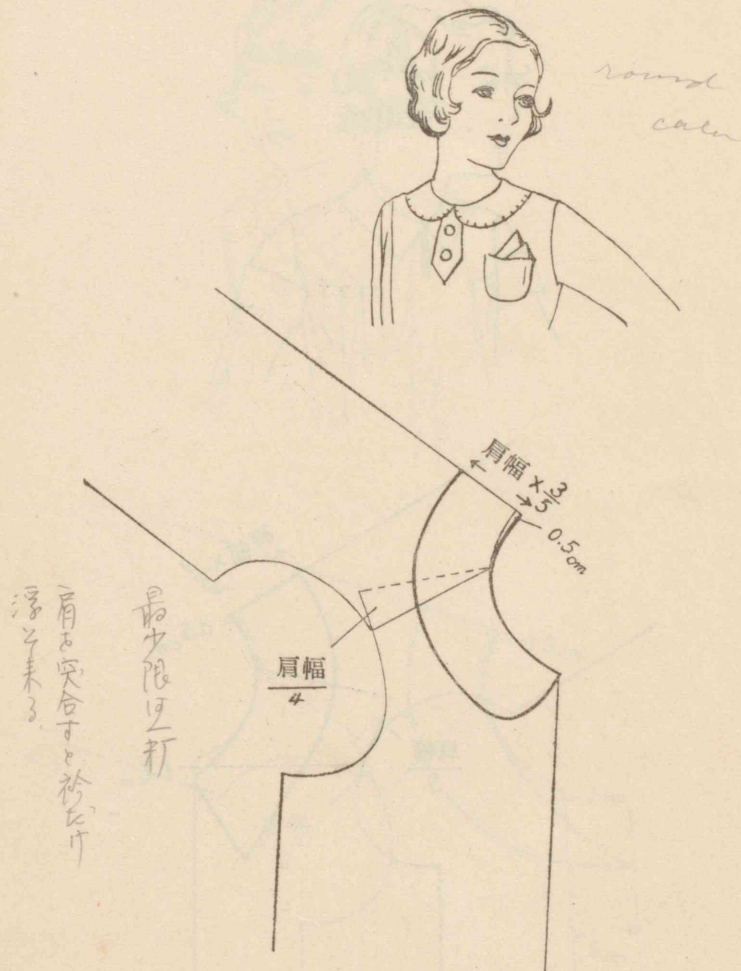
第三 袖口に襷を取つて返りカフスの場合



第四節 衿の割出し法

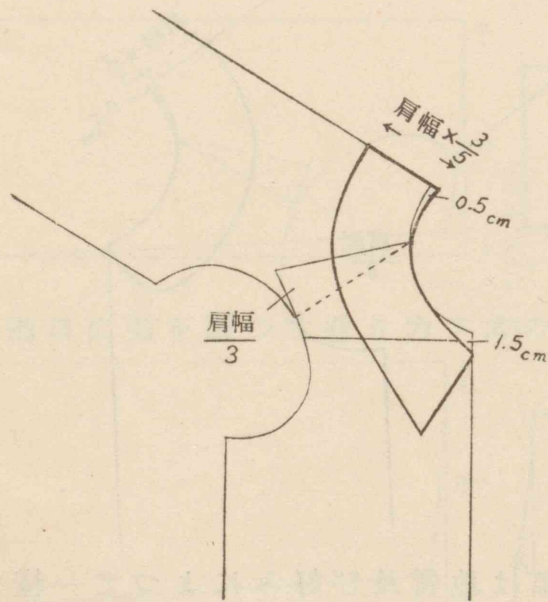
Collars

第一 圖の如き場合

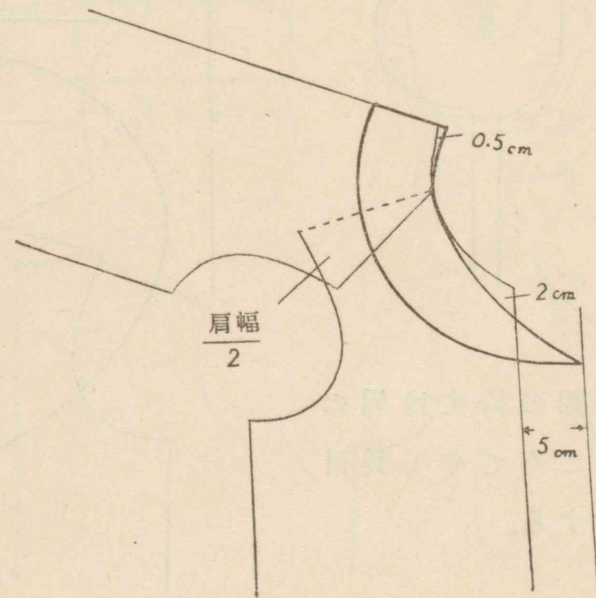


衿幅は地質及び好みによつて一様でないが、普通、肩幅の五分の三内外にする。

第二



第三

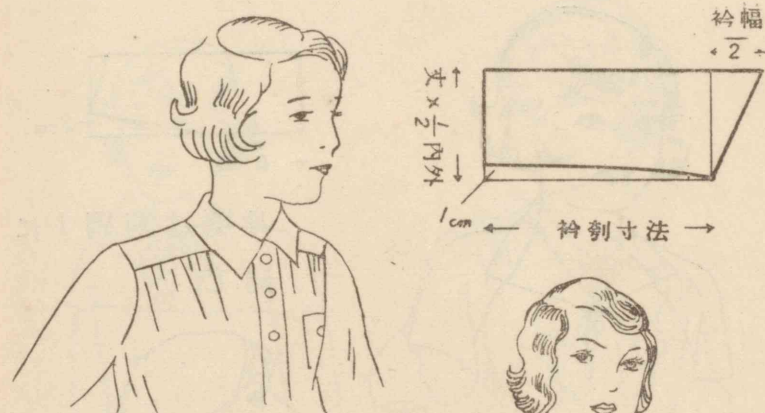


第四

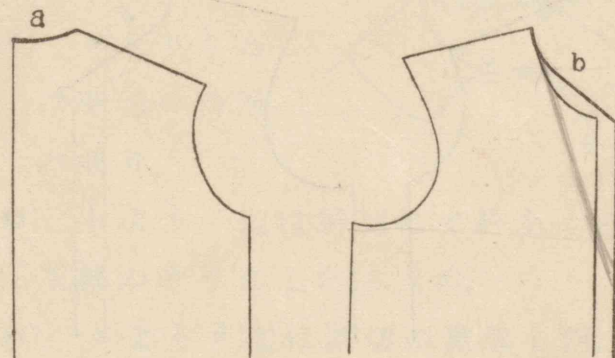
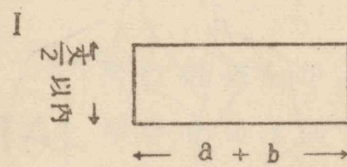


右圖の衿丈は肩の
ところでやゝ長目
にする。

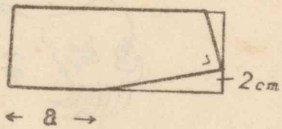
第五



第六

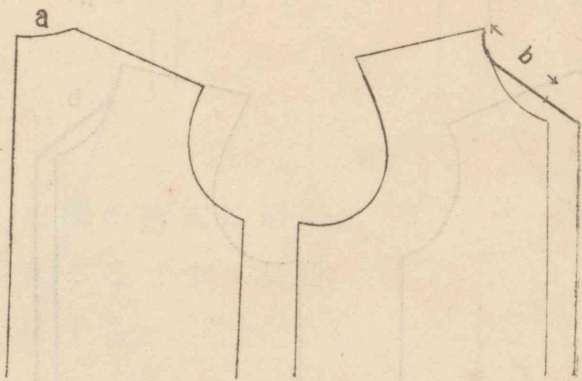
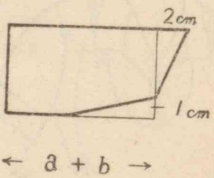


II

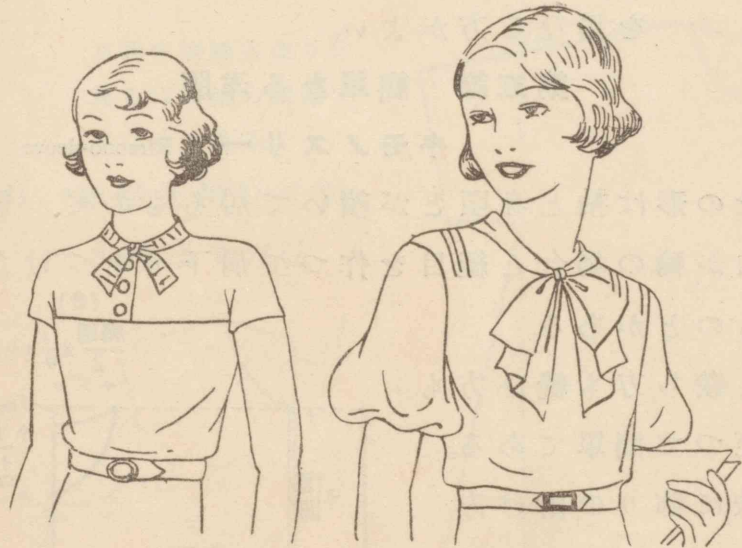


身頃は前圖 I に
同じ。

III



第七



衿は斜切を用ふ。

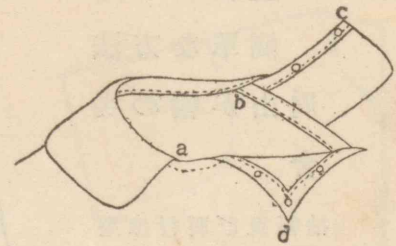
第八 肩合せ又は後合せに衿を付ける場合。

右圖は肩合せの
場合

(イ) a より b 迄
は普通の衿附
の通り。

(ロ) b より c 迄は斜切にて衿をくるみ、
玉縁のやうにしたるもの。

(ハ) a より d 迄は斜切の見返し附。



(二) dよりc迄の見返し布は一続きの布を用ひる方がよい。

第五節 簡單なる洋服

キモノスリーブ Kimono-sleeve

此の形は袖と身頃とが續いて居るもので、肩山が輪の場合と縫目を作つて肩下りをつけたものがある。

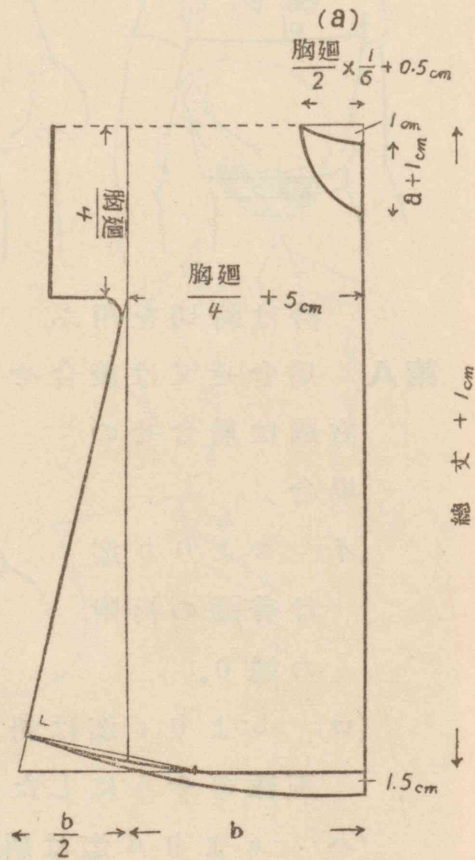
裁ち方も縫ひ方も至つて簡單である。殊に飾りの附け方によつて應用の範圍は非常に廣い。

第一 型紙の取方

I 簡單な方法

肩山が輪の場合

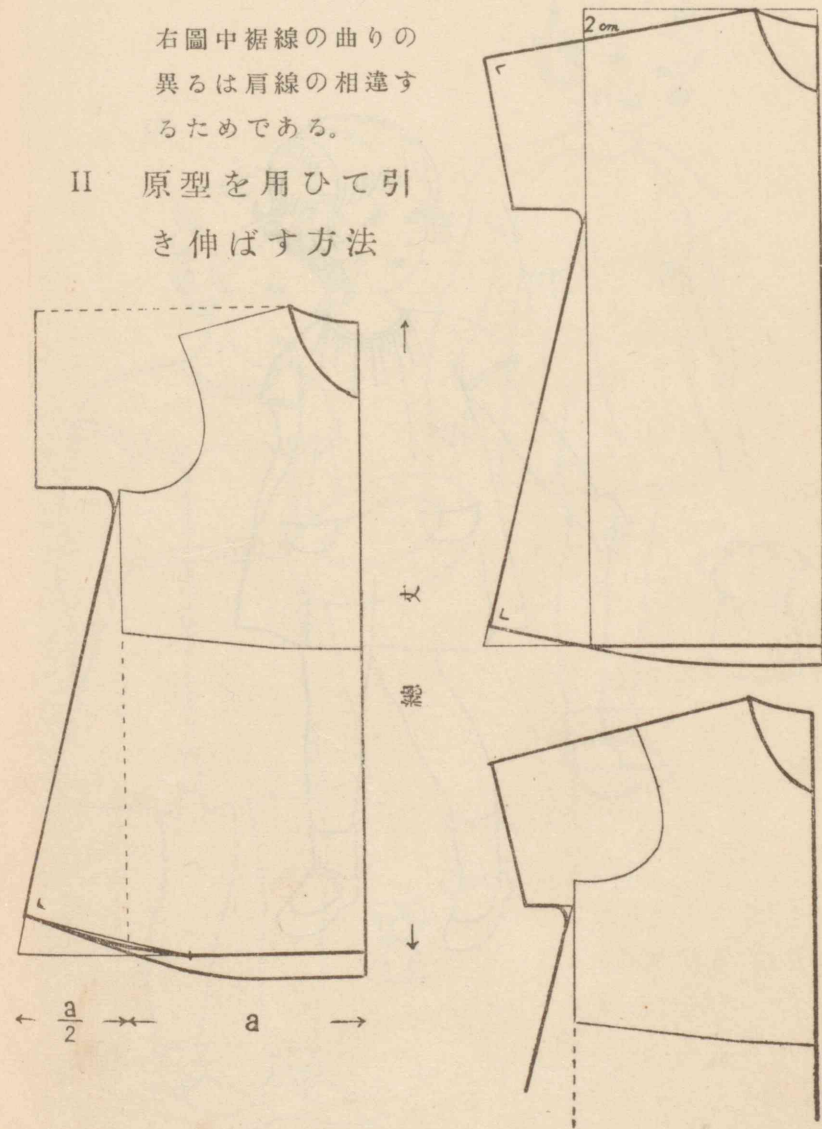
袖幅及び肩行は型によつて斟酌してよいが、一體に袖丈の長いのは恰好がよくない。



肩山に縫目のある場合

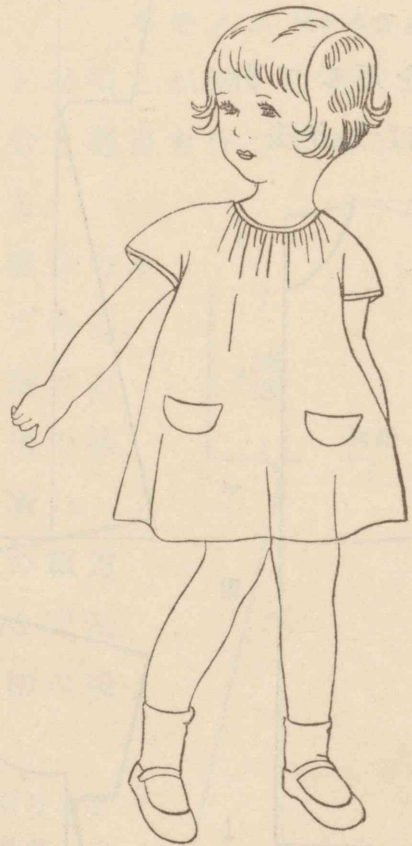
右圖中裾線の曲りの異なるは肩線の相違するためである。

II 原型を用ひて引き伸ばす方法



第二 出来上り圖

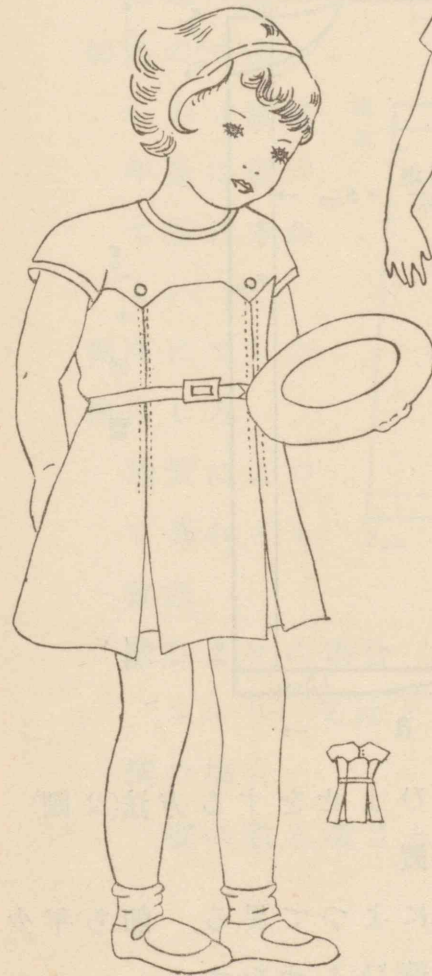
(1)



(2)

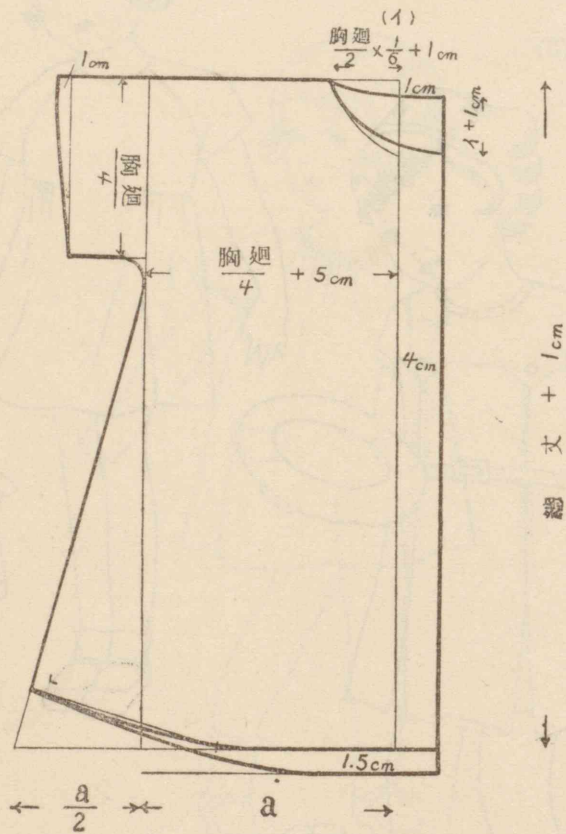


(3)



第三 型紙の取り方

I 衿刳に縫ひよせをする方法(1 圖)



II 脇に襞或は縫ひよせをする方法(2 圖)

脇の切込線の位置

年齢及び流行によつて異なる、即ち年少者は割合上に縫ひよせをする。

大體の位置

原型の第三
線から脊丈
線迄の間

切込の寸法

a の寸法は
年長に従つ
て短い方が
よい。

裾布にて b の
伸ばし方

地質によつ
て異れども

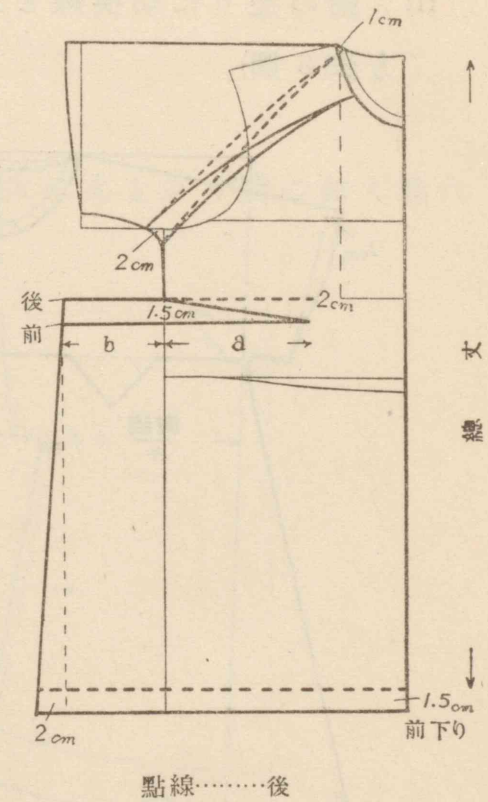
普通

縫ひよせの場合

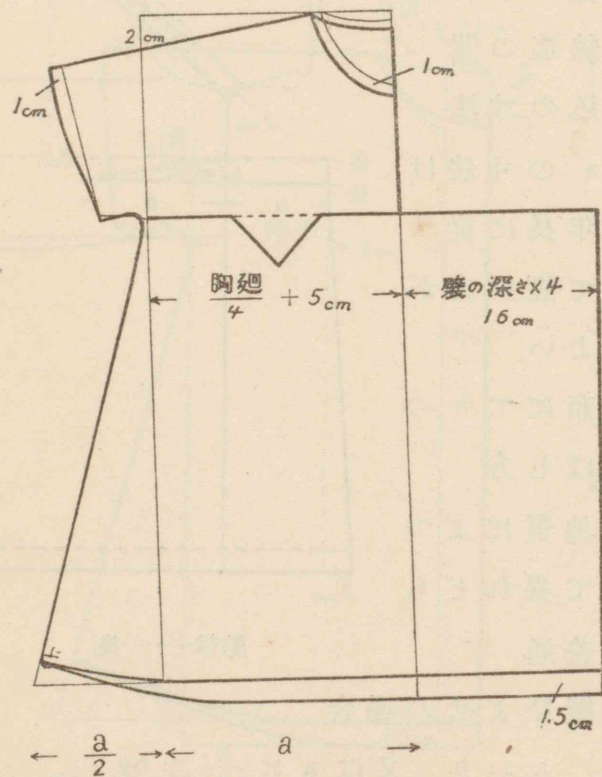
$$a = b \quad \text{又は} \quad a \times \frac{2}{3} = b$$

襞の場合

襞の数と深さによつて異なる。



III 胸の邊りに切換線を入れ裳に襞を取る
方法(3圖)



第四 地質

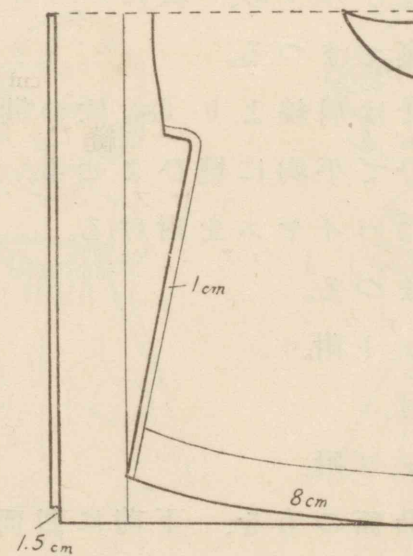
子供服地用ならば何でも差支へない。

第五 布の裁ち方

(1)圖の場合

a 裁ち方の圖

布の幅を折り次に丈を折り圖の如く縫代を付けて裁つ。



衿刳、袖口は玉縁にするから縫代を取らない。

b 總用布の概算 76cm 幅として

$$\text{總丈} \times 2 + \underset{16\text{cm}}{\text{裾伏}} + \underset{1.5\text{cm}}{\text{前下り}} = \text{總用布}$$

第六 仕立て方

1. 後明に持出し及び見返し附。(60頁参照)
2. 脇、袖下縫ひ
袋縫、折りは前に。
3. 衿刅の始末
衿刅を縫ひちゅめ、表にバイヤスを當てて縫ひ裏でまつる。
縫ひよせは肩線より 3cm 位の間を除き、他の部分で平均に縫ひよせる。
4. 袖口にバイヤスを附ける。
5. 裾をまつる。
6. ポケット附。
7. 仕上げ。
8. スナップ附。

上前に凸面の方を、下前に凹面の方を30番のカタン糸にてしつかり留めて置く。

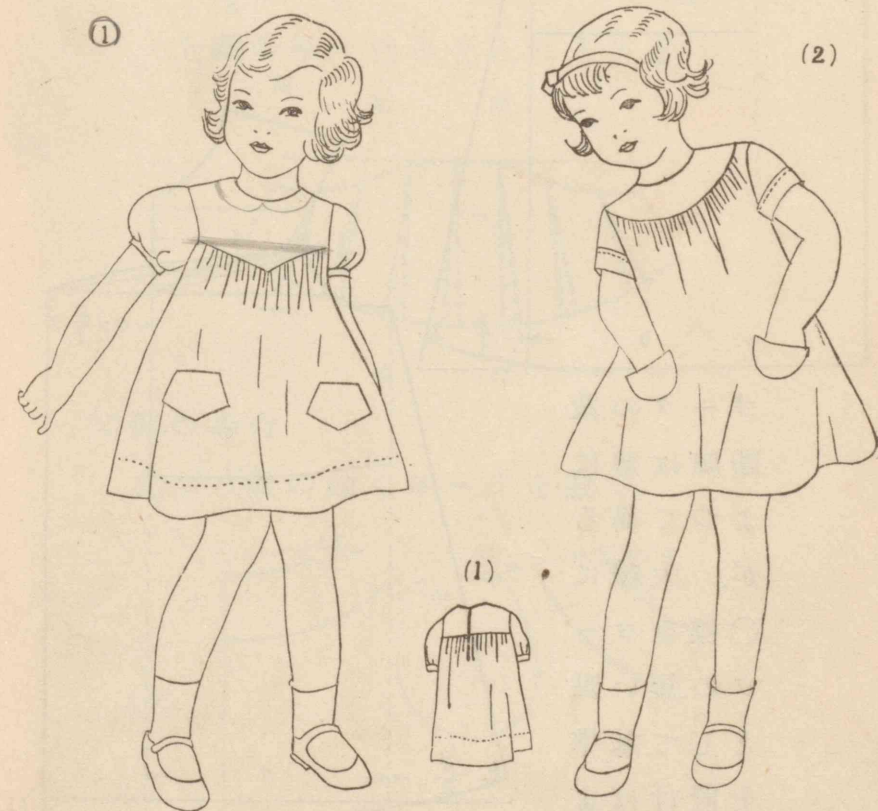
第六節 ワンピース One-piece dress

A 胸の邊りに切換線のあるもの

第一 着用年齢

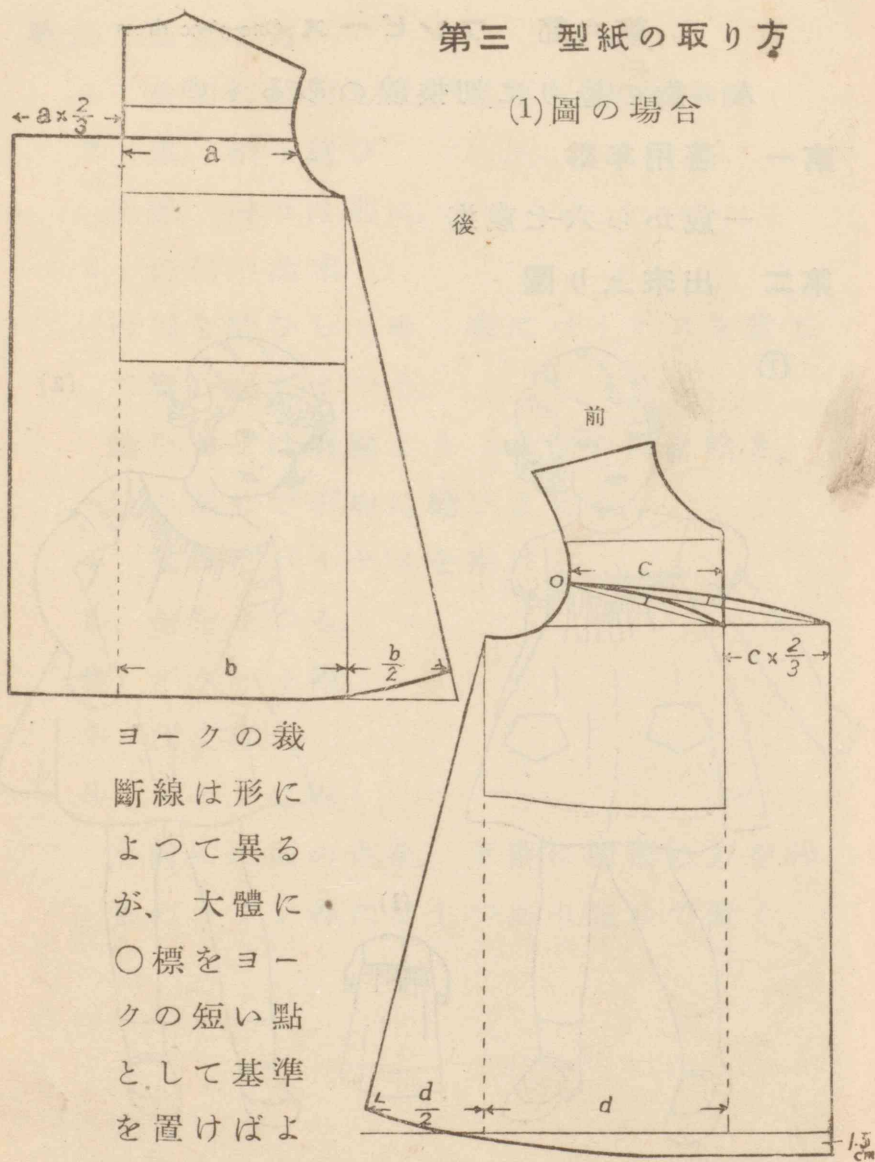
一歳から六七歳迄

第二 出来上り圖



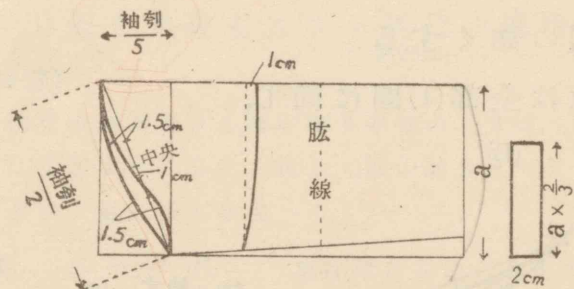
第三 型紙の取り方

(1) 圖の場合



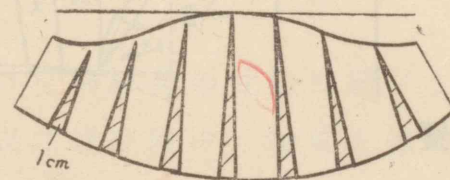
ヨークの裁断線は形によつて異なるが、大體に○標をヨークの短い點として基準を置けばよい。

袖



上圖の袖に弛みを入れる方法

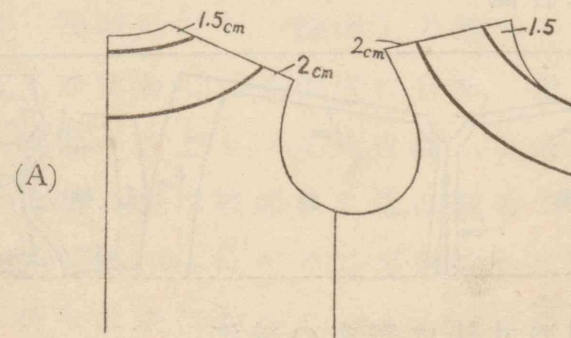
袖 附



袖 口

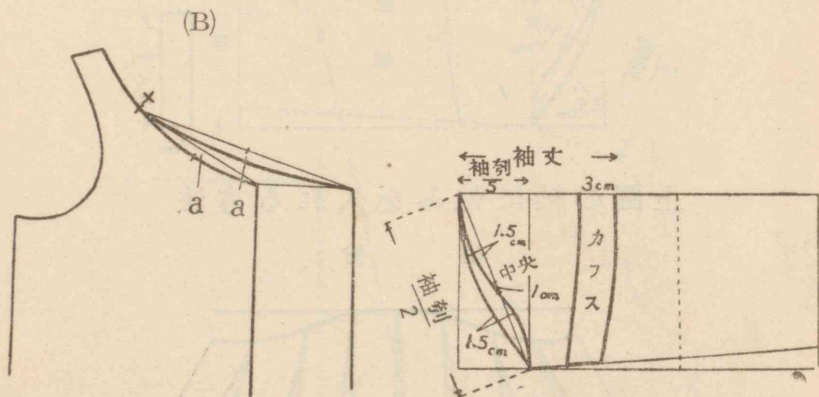
(2) 圖の場合

先づ(A)圖の如くヨークを裁つ。



次に身頃の引伸しは(B)圖の如く、袖は次圖の如くする。

他は全部(1)圖に同じ。

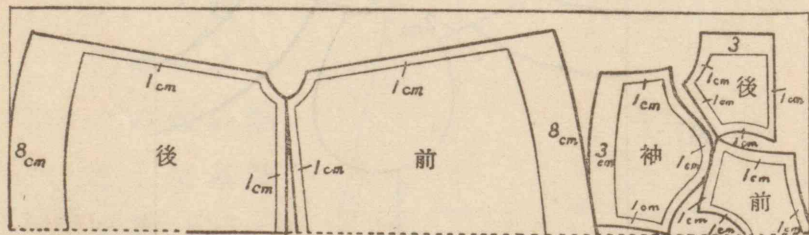


第四 地質

木綿、麻、人絹、絹、毛織物等適當なるものを用ふ。

第五 布の裁ち方

a 総合圖



脊明の寸法は脊丈の線迄

b 總用布の概算 76cm 幅として

出來上り身丈 × 2 + 縫代 = 總用布
約25cm

【注意】

袖丈の加算なきも圖の如き半袖のときは、上の寸法にて差支へはない、但し(2)圖の如きヨークにするときは、更に袖丈を加へる。

裏 ヨーク用 裏は附けないこともある。

第五 仕立て方

(1)圖の場合

袖

1. 袖口を袖口布の寸法に縫ひよせ、袖口布を表に縫ひ付け、袖底と袖口布とを續けて袋縫(袖口布の間は一度縫ひ)
2. 袖口布の幅を定めてまつり付ける。

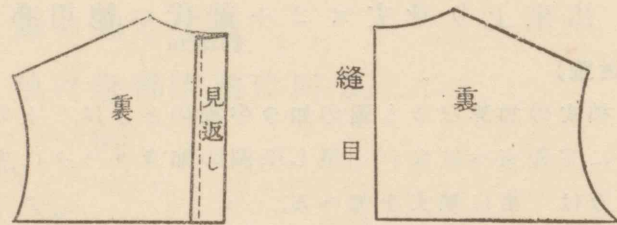
身頃

1. 後明見返し、持出しの始末

下前は(持出しの方)中表に合せ、重りとして原型の標より1.5cm外を縫ふて表に返す。

上前の表は標通りに折り圖のやうに、見返し幅1.5cm位として裏を控へて縫ひ合す。折りは表にかへし(縫込は芯となる)縫目に抑

ヘミシンをかける。



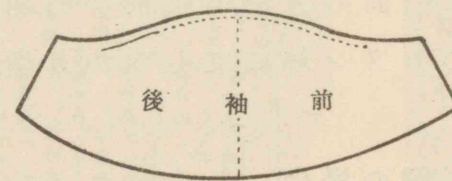
後の重り { 男 左上前
女 右上前

2. ヨークの表裏を各々肩合せ、折りは開く。
3. 衿袷を表裏を合せて縫ひ、切込を入れて表に返す。
4. 身頃後明に持出し見返しを續けてつける。(60頁参照)
5. 身頃の脇、袋縫
6. 裾の始末。(66頁参照)
7. 身頃とヨークとを縫ひ合す。

先づ、ヨークの接ぎ線を標通りに折る、次に身頃に縫ひよせをしてヨーク幅に縮め、ヨークを身頃の上に重ねて形を整へ、飾りミシンをかける。

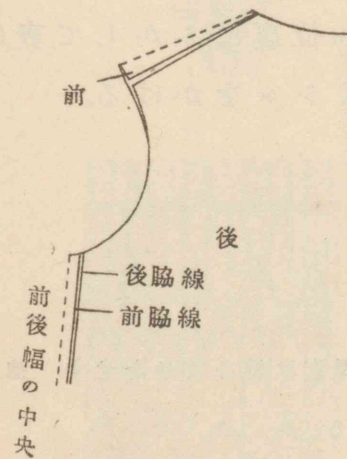
8. 裏布をまつり附ける

9. 袖 附



上圖のやうに縫線を針目細かに縫ひ縮めて置く。

身頃の山を下圖の如くきめ、



袖山と合せ、袖を見て待針を打ち假縫をして表より、袖のすわり工合を調べ後、斜切を身頃の方に當て袖を見てミシンをかけ、斜切で縫込をくるみミシンをかけるか、まつるかして置く。

10. ポケット附 (69頁参照)

11. 仕上げ。

12. スナップ附

上前に凸面の方を、下前に凹面の方を、
30番のカタン糸にてしつかり留め置く。

(2)圖の場合

袖

1. カフス附

袖口布の表と袖の裏とを合せて縫ひ、折
りは袖の方に返し、縫目に抑へミシンを
かけ、袖口布を0.3cm位裏にふかして表に
返し、幅を定めてミシンをかける。

2. 袖底縫ひ、袋縫

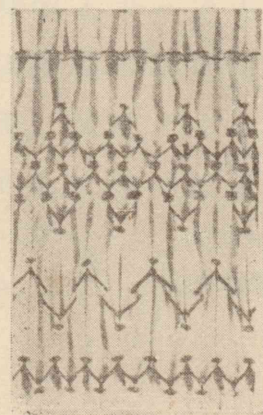
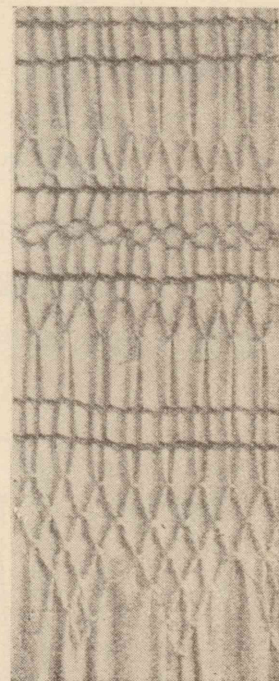
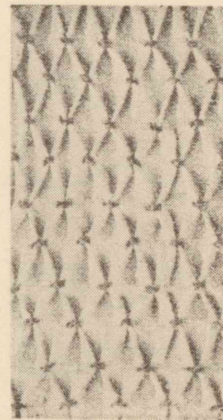
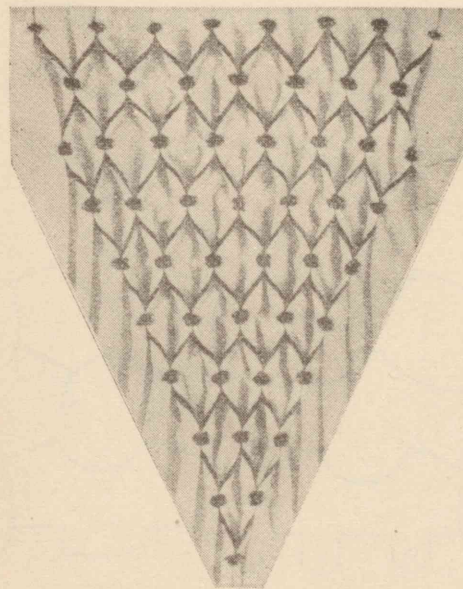
身頃

1. 身頃の縫ひよせ

製圖中 (B圖の肩から×標迄は縫ひよせをせず、他の
部で平均に縫ひよせをする)。

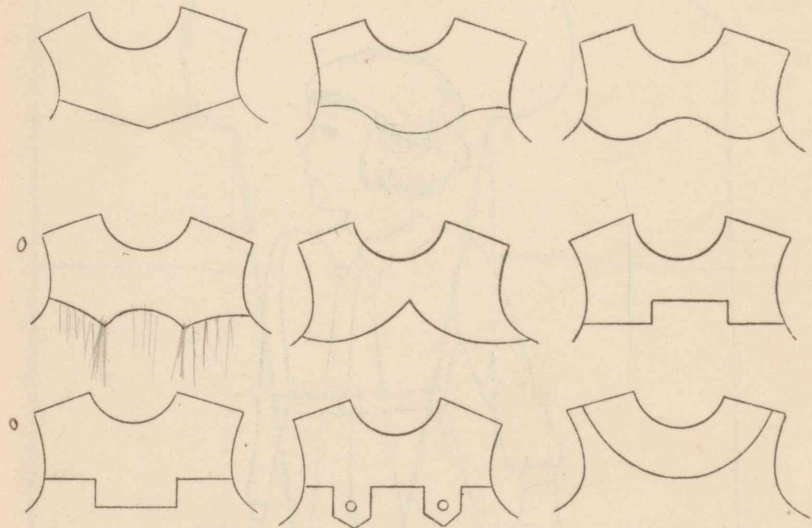
2. 他は(1)圖に同じ。

Smocking



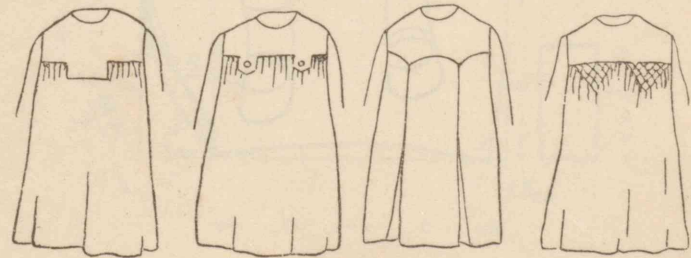
應 用

1. ヨークの形 Yoke



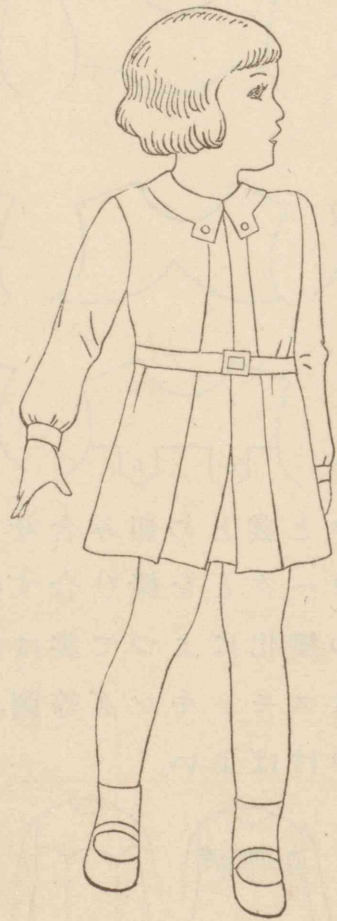
2. ヨークと裳との組み合わせ方

身頃とヨークとを縫ひ合す際、ヨークの
切換線の變化によつて裳は縫ひよせ或は、
襜、又はスモッキング等圖の如く適當に
配してゆけばよい。

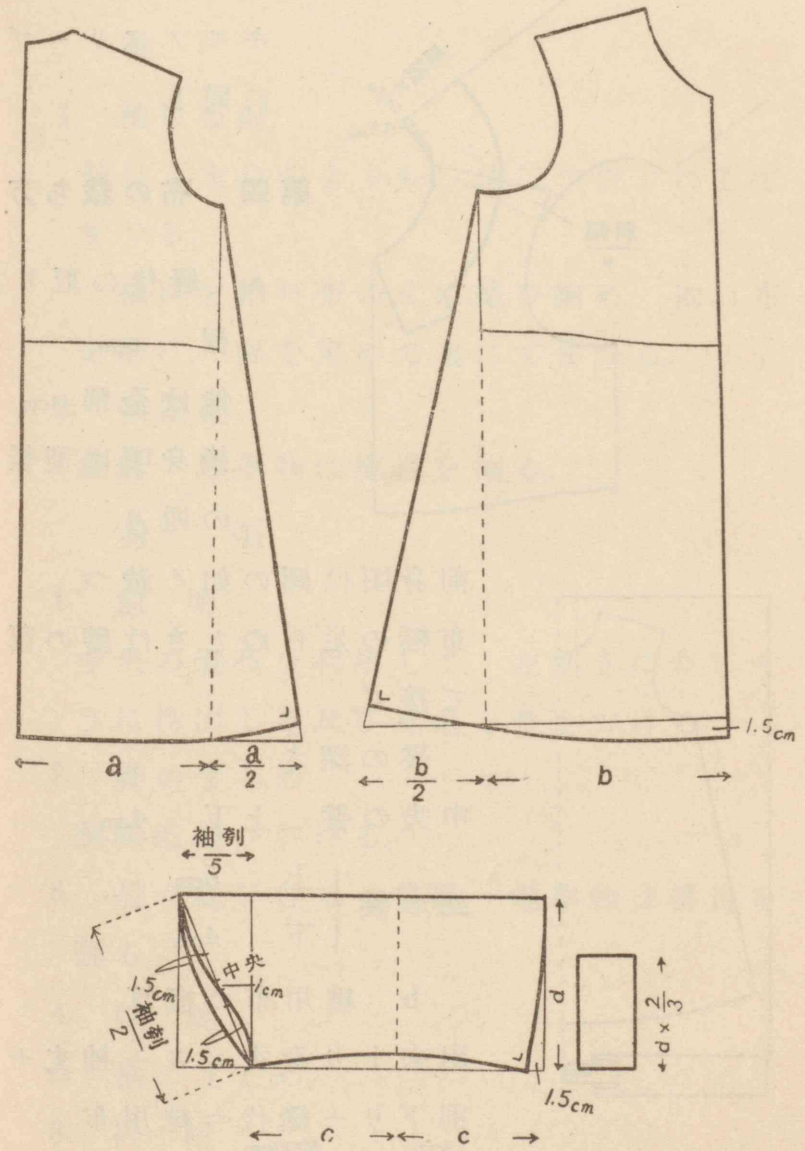


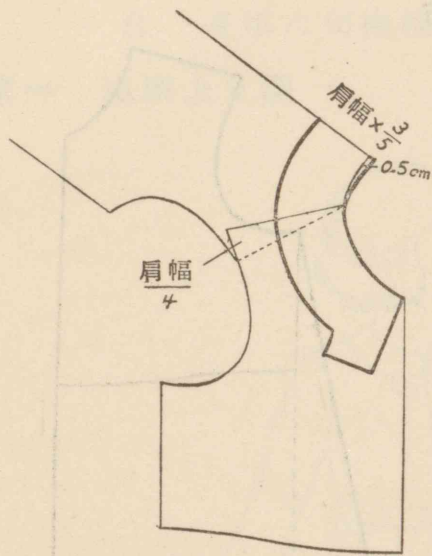
B 身頃に切換線のないもの

第一 出来上り圖



第二 型紙の取り方





第三 地質

キモノスリーブ
に同じ

第四 布の裁ち方

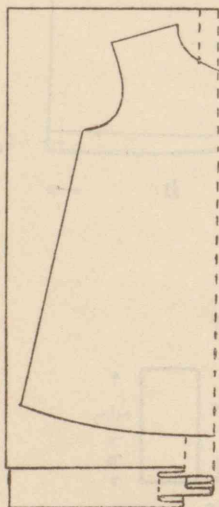
a. 縫代の取り方

裾 8cm

他は全部 1cm

後身頃は型紙
の通り、

前身頃は圖の如く裁つ、
布幅の足らぬときは襞の蔭
で接ぐ。



襞の深さ
中央の襞 上下 4cm

二の襞 { 上 5cm
下 4cm }

b 總用布の概算

出来上り身丈 $\times 3$ + 袖丈 +

前下り + 縫代 = 總用布
3cm 約20cm

第五 仕立て方

袖

1. 袖口布附

袖口下を口先より4cm 位三つ折りにして
まつる。

袖口を袖口布の丈に縫ひ縮め、袖口布
を付け、幅を定めて裏にてまつる。

2. 袖底縫

袋縫 地厚物は縫目を割る。

身頃

1. 前明

中央の襞布を利用して、左明きになるや
うに持出し布及び見返し布をつける。

2. 襞のまとめ

胴線迄縫ひつける。

3. 肩の縫ひ合せ 袋縫、地厚物は縫目を割る。

4. 脇縫

5. 裾のまとめ。

6. 衿附

衿を中表にして三方を縫ひ、表に返して形を整へ襷をかけて置く。

衿と見頃とを縫ひ合す、此の際衿丈が身頃より短いから、衿肩廻の邊りで衿を伸ばす。

次に衿の方に斜切を重ねてミシンをかけ、縫込のつれぬやうに鋏を入れて斜切の端をまつりつける。

7. 袖 附 (107頁参照)

8. ベルトを作る、

出来上り寸法 { 幅 3.5cm 位
丈 胴廻寸法 + 重り
10cm

方 法

出来上り幅に縫ひ合せ縫目を割つて表に返し、其の縫目が幅の中央になるやうに落ちつけて後、両端の始末をする。

地薄物のときは適當の芯地を縫込に綴ぢつけて表に返す。

9. ベルト吊りを附ける

胴線兩脇に。

10. 仕上げ

11. スナップ及び釦附、

C ロンパース Rompers

第一 着用年齢

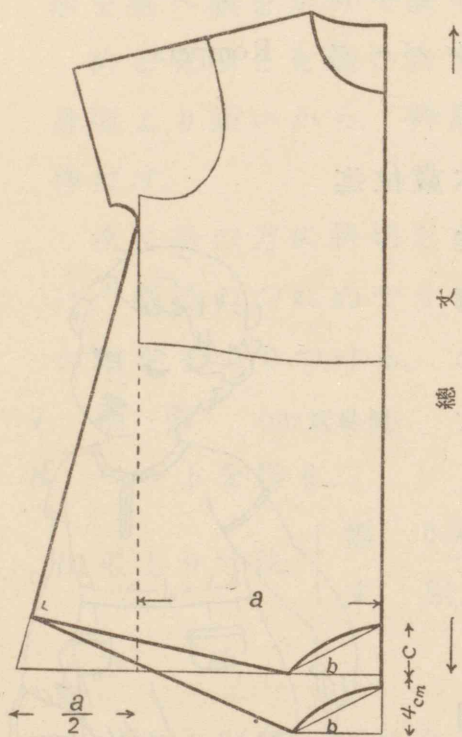
二・三歳から五・六歳位迄

上下が續いて居て裾が兩脚に別れた形のもので、男女兒の運動著、いたづら著として便利なものである。

第二 出来上り圖



第三 型紙の取り方



$$b = \frac{\text{裾幅}}{4}$$

$$c = \frac{b}{2}$$

第四 地質

洗濯に丈夫なものを選ぶ。

第五 布の裁ち方

a. 縫代の取り方

胯下のくりに合せて

前見返し	3cm	一枚
後持出し	3cm	二枚

裾 2.5cm 他は 1cm

b 総用布の概算

型紙丈 × 2 + 縫代 = 総用布
約20cm

第六 仕立て方

1. 前明の始末
2. 肩の縫ひ合せ
3. 衿刅及び袖口に縁取り
4. 脇縫及び袖下縫ひ
5. 胯下の始末

前は出来上り幅 2cm の見返しを裏側につける。

後は出来上り幅 2cm の持出しをつける。

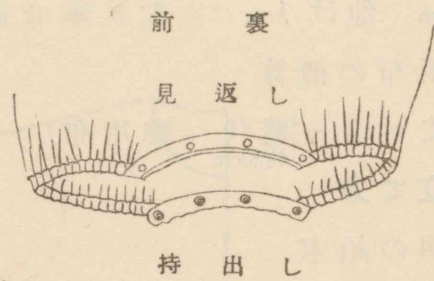
6. 裾の始末

三つ折りにしてミシンをかけゴムを通し、両端をしつかり留める。

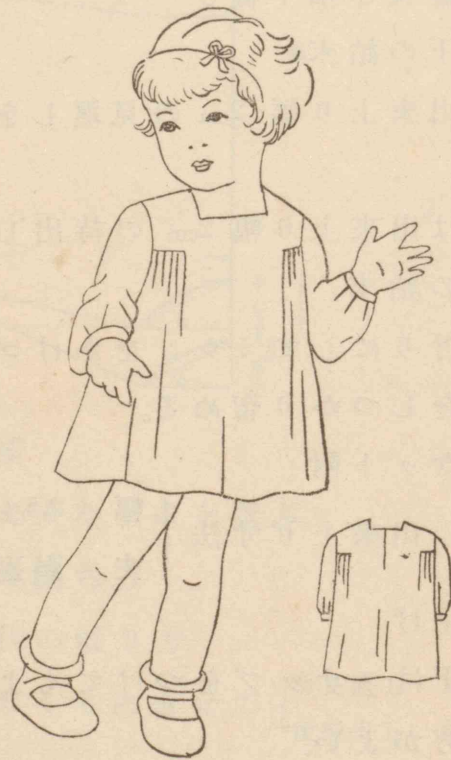
7. ポケット附

- | | |
|-------------|--|
| 8. 帯、出来上り寸法 | $\left\{ \begin{array}{l} \text{幅} \quad 2.5\text{cm} \text{ 乃至 } 3\text{cm} \\ \text{丈} \quad \text{胴廻} + \text{重り} \\ \quad \quad \quad 10\text{cm} \end{array} \right.$ |
| 9. 仕上げ | |

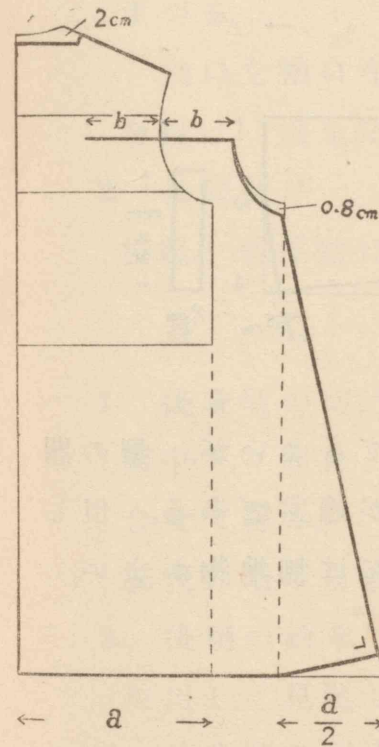
10. 胯下はスナップをつけてもよいが、釦の方がよい。



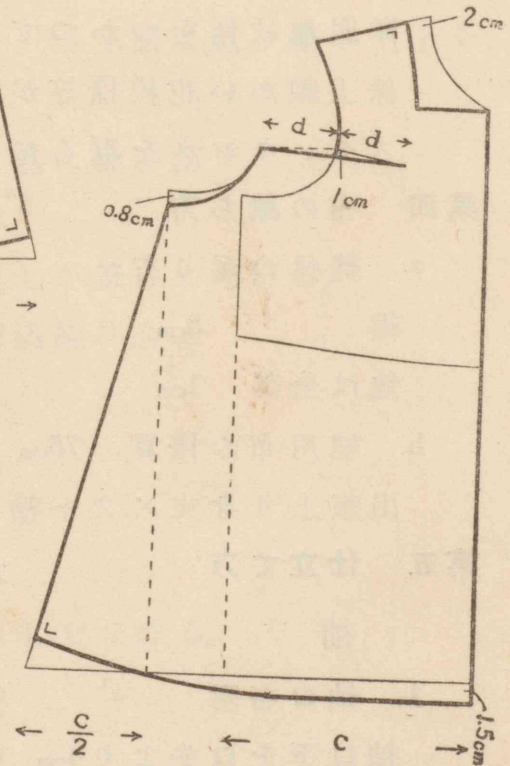
D 一部分に切換線のあるもの
第一 出来上り圖



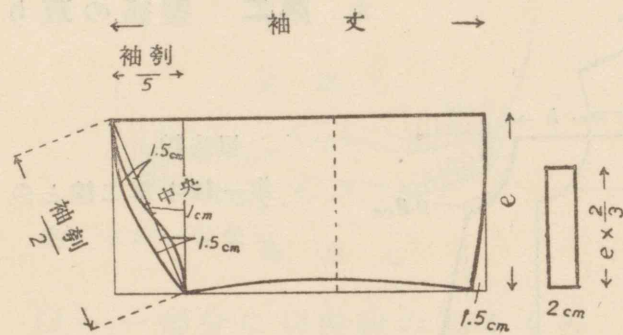
第二 型紙の取り方



切込線
第一線と第二線との
三分の一のところ



圖の切込寸法は縫ひよせの場合であるが、此の引伸し寸法はスモッキングにも應用が出来る。



第三 地質

洋服地は何をつかってもよいが、型の関係上細かい花模様等が適當である。但しスモッキングを取るには無地物がよい。

第四 布の裁ち方

a. 縫代の取り方

裾 8cm

他は全部 1cm

b. 總用布の概算 75cm 幅として

出來上り身丈 × 2 + 袖丈 + 縫代 = 總用布
約25cm

第五 仕立て方

袖

1. 袖口布附

袖口下を口先より4cm 位三つ折りにして

まつる。

袖口を袖口布の寸法に縫ひ縮め袖口布を附け、幅を定めて裏にてまつり附ける。

2. 袖底縫ひ

袋縫、地厚物は縫目を割る。

身頃

1. 後身頃の切込縫ひ合せ

圖中 b b 間を b の寸法に縫ひ縮め上下を合せて縫ふ。

縫代の端は自然に縫ひ消す。

2. 後明の始末

持出し、見返しを續けて附ける。

3. 前身頃の切込縫ひ合せ

後身頃に同じ。

4. 肩合せ

5. 脇縫

6. 衿刳の始末

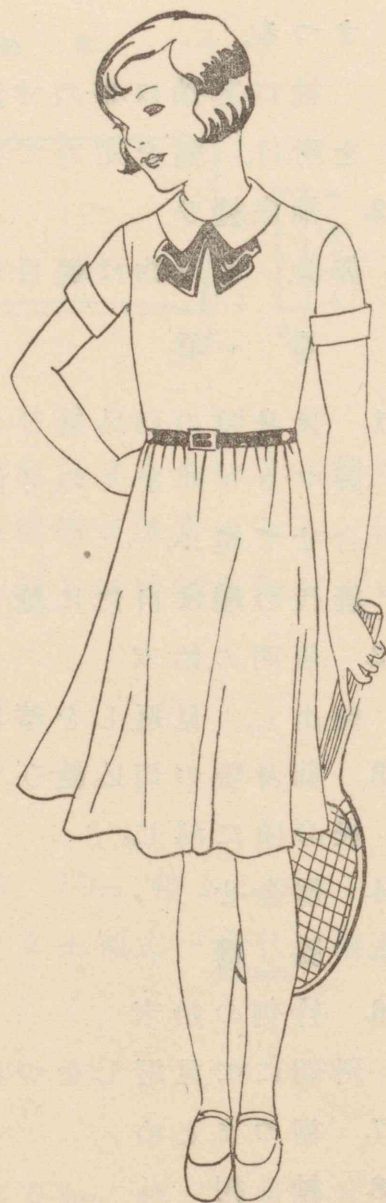
斜切にて見返しをつける。

7. 裾のまとめ

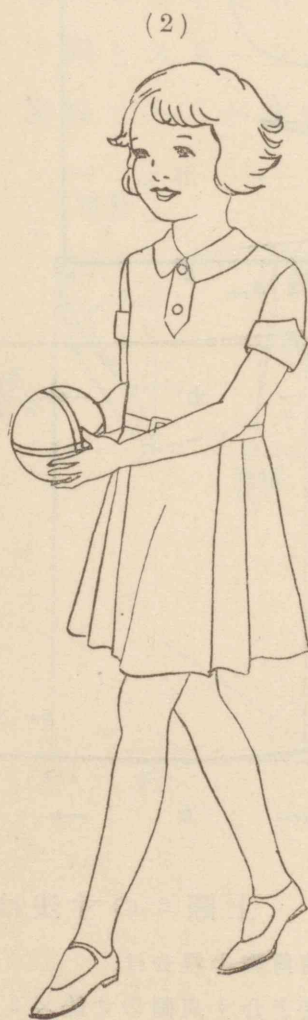
8. 袖附

9. 仕上げ
 10. スナップ附

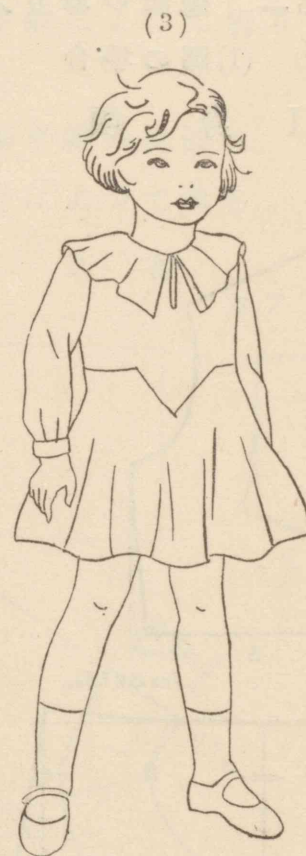
E 胸の邊りに
 切换線のあるもの
 第一 出来上り圖



(1)



(2)



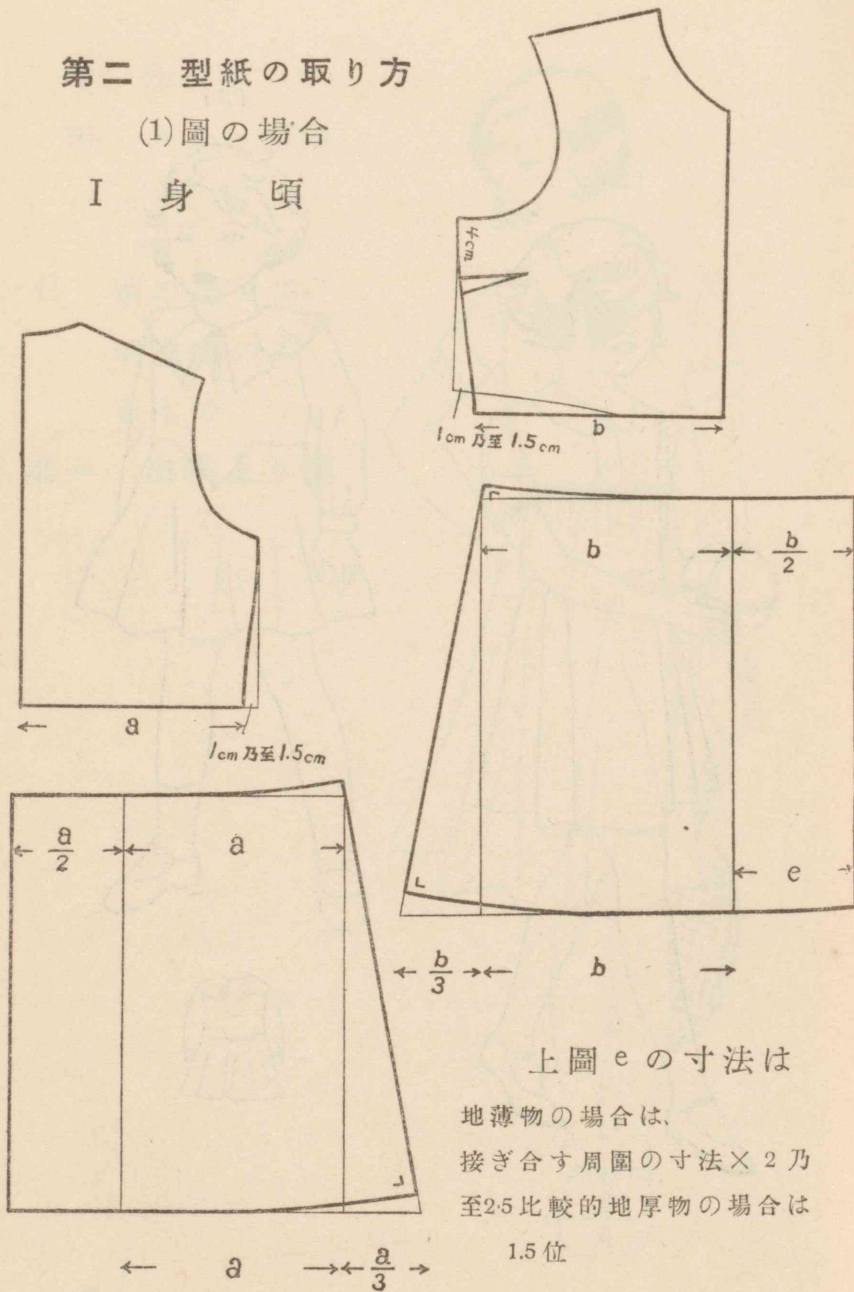
(3)



第二 型紙の取り方

(1) 圖の場合

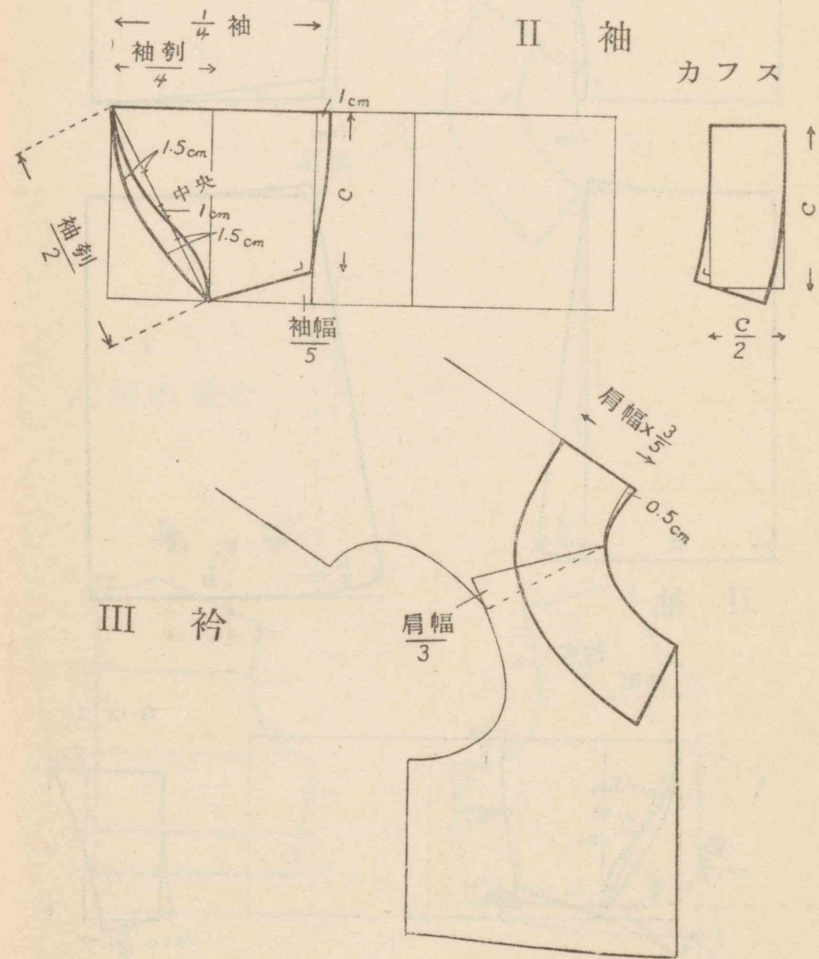
I 身頃

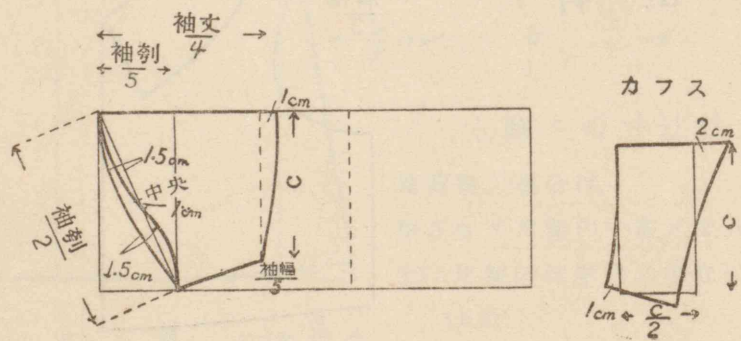
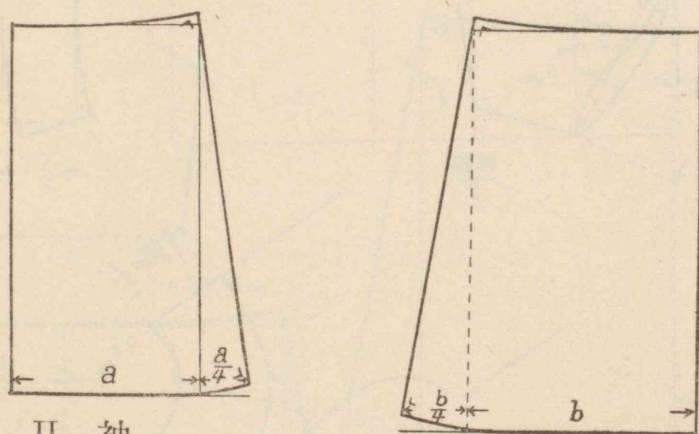
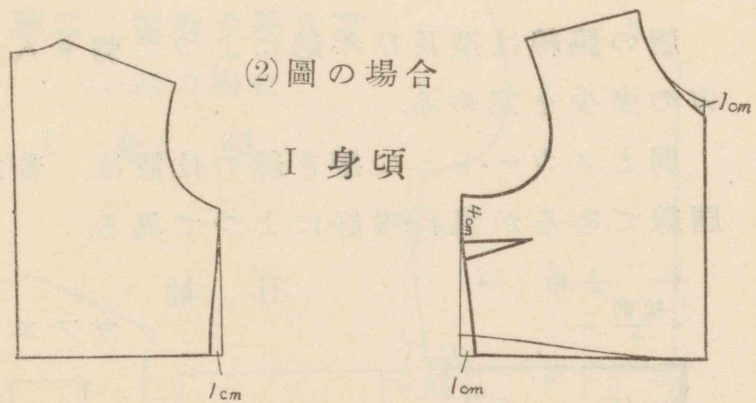


上圖 e の寸法は
 地薄物の場合は、
 接ぎ合す周囲の寸法×2 乃
 至2.5 比較的 地厚物の場合は
 1.5 位

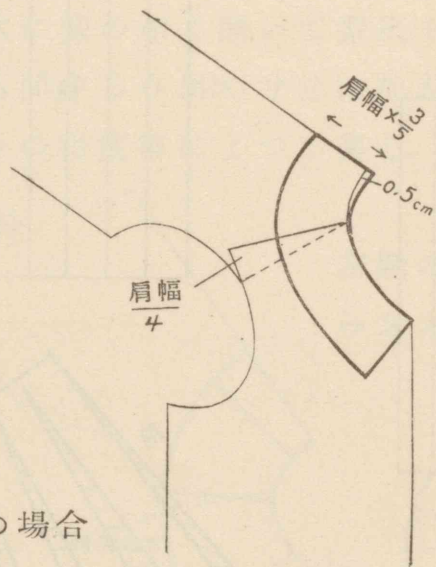
胸の脇線は型及び年齢によつて割り入れ方の多少を定める。

胸とスカートとの接ぎ線の位置は、普通胸線であるが流行・嗜好によつて異なる。



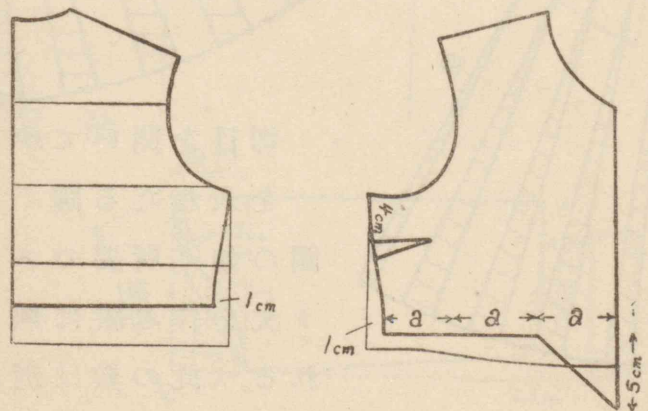


III 衿

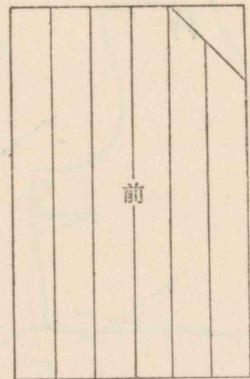
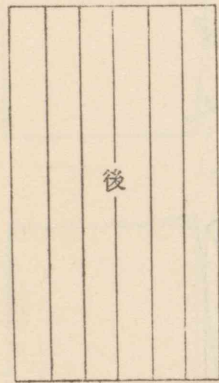


(3) 圖の場合

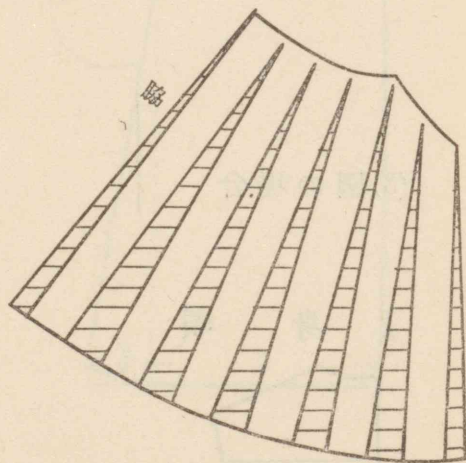
I 身頃



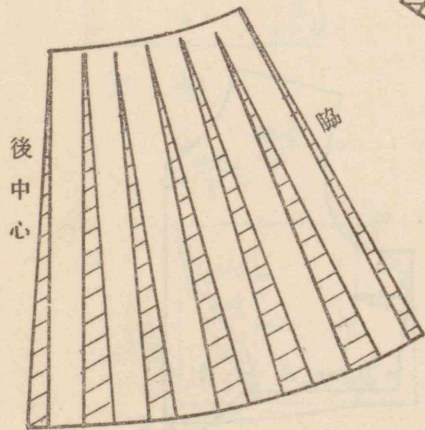
スカートに切目を入れたる圖



前中心



前中心



後中心

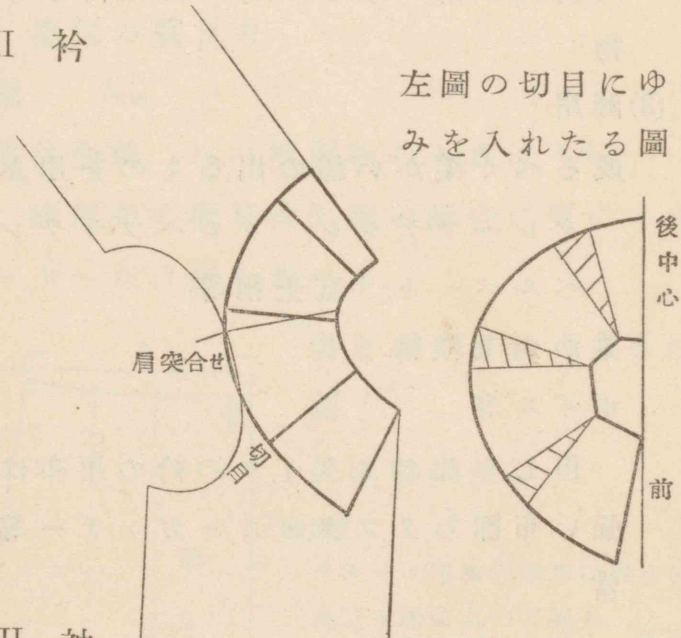
切目を開いてゆるみを入れたる圖
圖の如く所要のスカート丈を作り縦に鉄を入れる。此の數は別に定

つては居ないが普通 3cm 位の間隔に切込を入れる。

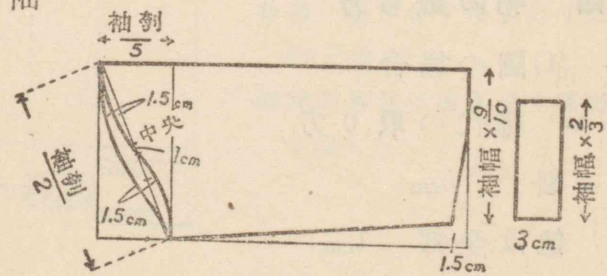
次に圖の如く開いて型紙を取る。切込間(ゆるみ用)の寸法は地質の厚薄、フールの程度等によつて異なる。

II 衿

左圖の切目にゆるみを入れたる圖



III 袖



第三 地質

(1) 圖用

木綿・絹等の薄手のものがよい。

(2) 圖用

同前及び少々厚手のもの又は薄手の毛織物

(3) 圖用

成るべく柔かい線の出るものを用ふ即ち
クレープ・デシン、クレープ・サテン、
ベルベット、富士絹等

柔かい毛織物

ボイル等

但し、此のスタイルの衿の用布は腰の
強い布即ちタフタ、オーガンジー等が適
當

第四 布の裁ち方

(1) 圖の場合

a. 縫代の取り方

裾 5cm

他は全部 1cm

b. 總用布の概算 75cm幅として

出來上り身丈 × 2 + 袖丈 + 衿丈 + 縫代 =
總用布 約25cm

衿布及びカフス用は別布を用ひてもよい。

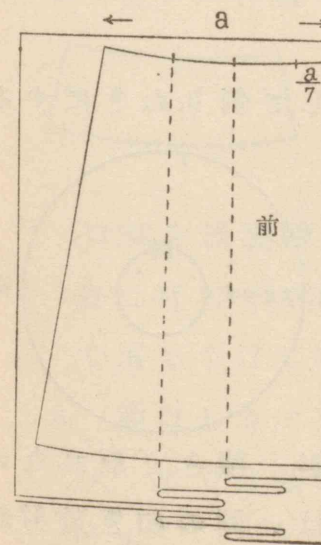
(2) 圖の場合

a. 縫代の取り方

裾 5cm

他は全部 1cm 地厚物のときは 1.5cm

b. 總用布の概算は(1)圖の場合に更にスカ
ート一たけ分を加へる。



襞を取つて裁つときの
圖

後は前に同じ

【備考】

スカート用布の概算は襞の數
及び寸法によつて異なる。

普通、接ぎ合す周圍の寸法 ×
2.3乃至2.5

細襞の場合は接ぎ合す周圍の
寸法 × 3

(3) 圖の場合

布の不経済にならぬやうに型紙を置き次の縫代を付けて裁つ。

a. 縫代の取り方

裾 衿

(1) 薄地の場合

(イ) 捻紵にする場合は、0.5cm

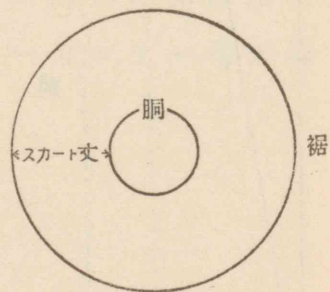
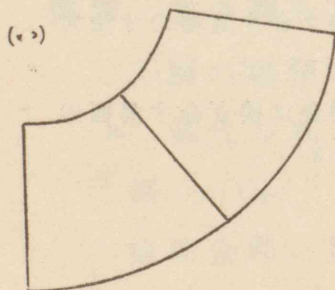
(ロ) 玉縁にする場合は、縫代は取らぬ

(ハ) ピコミシンを掛ける場合は、1cm 位

(2) 毛織物にて薄地の場合は、裾を3cm 位にする

(3) 他は普通

スカートに縫目無しで刳りぬきにするときは、右圖の如く接ぎ線を内圓として圓を描く。



用布が一続きで取れない場合は(イ)圖の如き放射線にて幾枚でも接ぎ合す。

此の際前後、又は左右の布は同じ布目で取るやうにすること。

b. 總用布の概算 90cm 幅として

脊丈 + スカート丈 × 2 + 袖丈 + 前下り + 縫代 = 總用布
約15cm 6cm 位

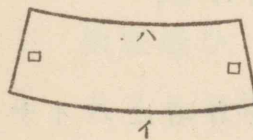
第五 仕立て方

(1) 圖の場合

袖

1. 袖底縫ひ

2. カフスの縫ひ方



圖中(イ)部を表裏合せて縫ふ、折りは裏に返し抑へミシンを掛ける。

(ロ)部を表裏續けて縫ひ合せ縫目を割る。表に返して(イ)部にて表を0.2cm 位裏に廻して落ちつけて置く。

3. 袖口とカフスの(ハ)部とを三枚合せて縫ひ、折りは袖の方に返し抑へミシンをかける。

身頃

1. 前明に玉縁を附ける。
2. 肩の縫ひ合せ、折りは前に
3. 脇縫
4. 衿拵

三方を縫ひ表に返して躰をかけて置く。

5. 衿附

衿肩廻しの邊りで衿を伸ばし身頃とバイヤステープとにて衿を挟みて縫ふ。

縫込に切込を入れて落ちつけたる後バイヤステープをまつり附ける。

6. 袖附

袖山と身頃の山とを合せ身頃にバイヤステープを當て袖を見て縫ふ。

縫込を裁ち揃へバイヤステープをまつり附ける。

7. スカート縫

脇を袋縫、折りは前に、裾を折つてまつる。

上衣の寸法に合せて縫ひしめをする。

8. 胴接

上衣とスカートとを合せて縫ふ。

縫込の始末はバイヤステープでくるんでもよく、布によつては縫込を一緒にしてまとひ縫をして置いてもよい。

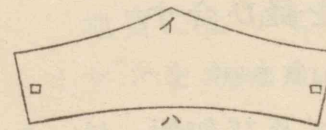
9. 仕上げ

10. スナップ及びネクタイを附ける。

(2) 圖の場合

袖

1. 袖底縫ひ。
2. カフスの縫ひ方



圖中(イ)部を表裏合せて縫ふ、折りは裏に返す。

(ロ)部を表裏續けて縫ひ合せ、縫目を割つて表に返す。

3. 袖口とカフスの(ハ)部とを三枚合せて縫ひ抑へミシンをかける。

袖口とバイヤステープとにてカフスを挟んで縫ひ、バイヤステープを袖にまつり付けてもよい。

身頃

1. 前明に持出し、見返しを付ける(57頁参照)
2. 肩の縫ひ合せ、折りは前に。
3. 脇縫
4. 衿拵及び衿附、(1)圖に同じ。(134頁参照)
5. 袖附
6. スカート縫

脇を縫ひ、折りは前に、裾を三つ折りにしてまつる。

襷取り(裁ち方) (131頁参照)

7. 胴接

上衣とスカートとを縫ひ合す。

8. ベルトを作る (114頁参照)
9. 仕上げ、スナップ及び釦附。

(3)圖の場合

袖

1. 袖口布附

袖口を袖口布丈に縫ひ縮め、袖口布を付ける。

2. 袖縫

袖口布と袖底とを續けて縫ふ、袋縫
但し、袖口布の間は一度縫
袖口布の幅を定めてまつる。

身頃

1. 前明

バイヤス布にて玉縁にする。

2. 肩合及び脇縫。袋縫、折りは前に。

少々地厚物は一度縫ひにして縫目を割る。

3. 衿拵

衿の外廻りの始末

地質によりて三つ折縫、捻紵又はピコ
ミシンをかける。

4. 衿附

衿を斜切と身頃とで挟んで縫ふ、

縫込に切込を入れ、斜切の幅を定めて
まつり付ける。

5. スカートの脇縫

袋縫又は地質により縫目を割る。

6. 胴 接

身頃の切換線を標通りに折りスカートの上
上に重ね縫をかける。

次に着用させて接線の釣合を調べ後、
ミシンを掛ける。

7. 袖 附

8. 着用の上、床上から寸法を計り裁ち揃
へて後、裾まとめをする。

9. 仕上げ

10. スナップ附

第七節 ツーピース Two-piece dress

A セーラー服 Sailor

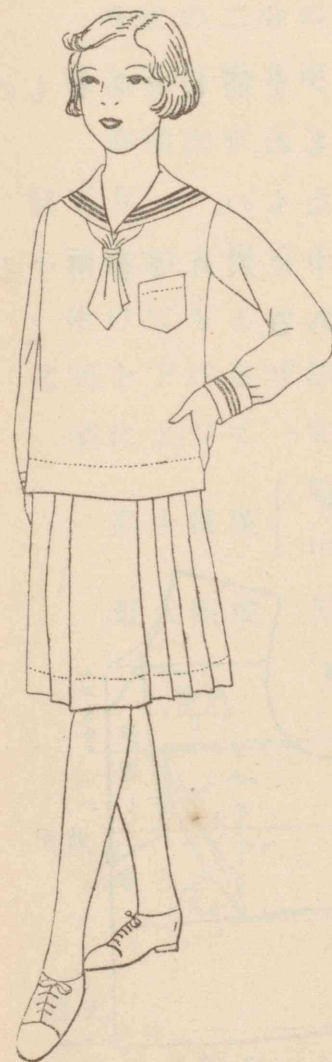
此の型は流行の範囲を越えて居て、誰にもよ
く似合ひ通學服や運動服には最も適當してゐ
る。

スカートやデヤンパー及びツボン等と組合
せて着用する。

【備考】 セーラー衿はワンピースにもつける。

第一 出来上り圖

(1)



(2)



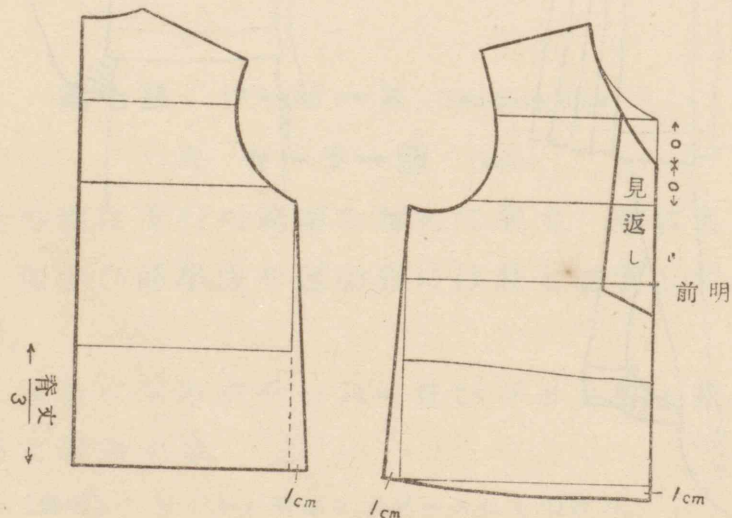
此の外

1. 裾口に縫ひよせをして帯をつけたるもの。
2. 裾口にゴムやテープを通してあるもの。
3. 裾を表に折返したもの。
4. シヤツ式に仕立てたもの。
5. 上著をスカートの中に入れて着用するやうにしたもの等がある。

第二 型紙の取り方

a" 上衣

(1) 圖の場合 (英國風の衿)



脊丈の伸ばし方

裾にゴムテープを通す場合

脊丈の二分の一

裾を表に折り返す場合

普通出来上り5cm乃至7cmにする

前下り

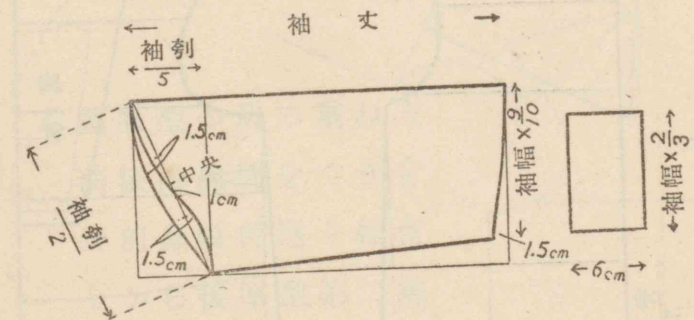
圖の如く裾でつけても、(2)圖の如く脇で付けてもよい。

前明を下げる寸法

型によつて一定しない

最小限度 { 原型の第一線と第線との
中央

最大限度 原型の第二線迄



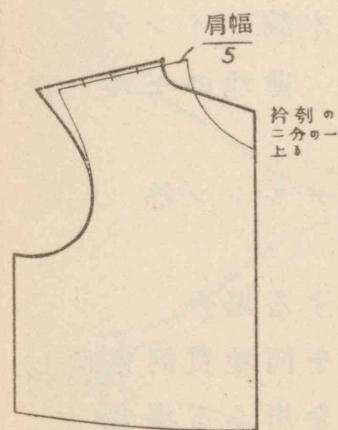
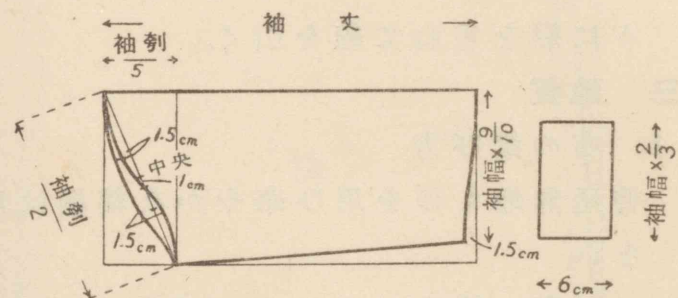
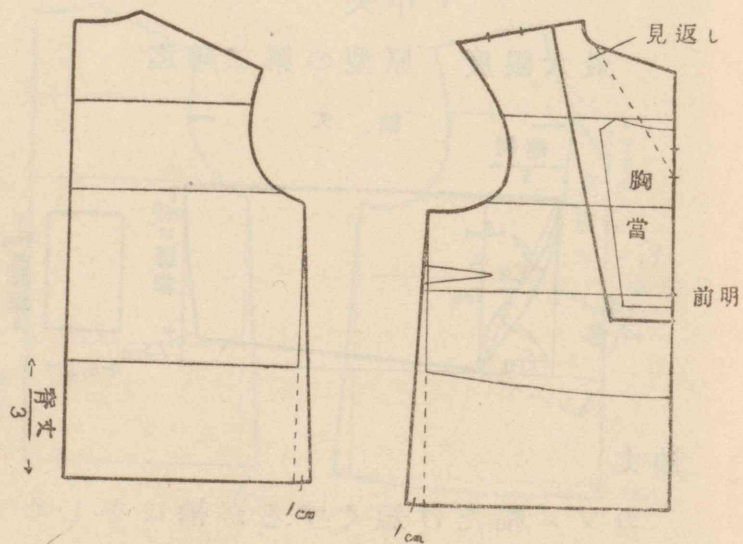
袖丈

カフス幅だけ短くするが袖口をしめて著

用する場合は少々長くして置く。
 衿を製圖するにつ
 きて原型の肩の重
 ね方。

前後衿肩明を突
 き合せ、前明の
 點と後原型の第二線とに
 (衿幅を定めて)直角に定規
 があたるやうに肩を重ね
 る。

(2)圖の場合(佛國風の衿)



身頃の折返りを多くす
 る爲に左圖のやうに衿
 肩明及び袖割を裁ち直
 す。

右圖原型の肩の重ね方、
 前後衿肩明をつき合
 せ前身頃折返り線留
 りから後原型第二線
 に(折返り型紙の端に
 沿ふて)直角になるや

うに肩を重ねて線を引く。

第三 地質

1. 布の選び方

普通無地ものを用ひ華やかな縞柄は用ひない。

夏 { 麻、綿リンネル、ポプリン、ギンガム、ボン地、朝鮮木綿、インデアンヘット、アルパカ、薄地のセル、富士絹等

冬 紺サーヂ、セル、メルトン等

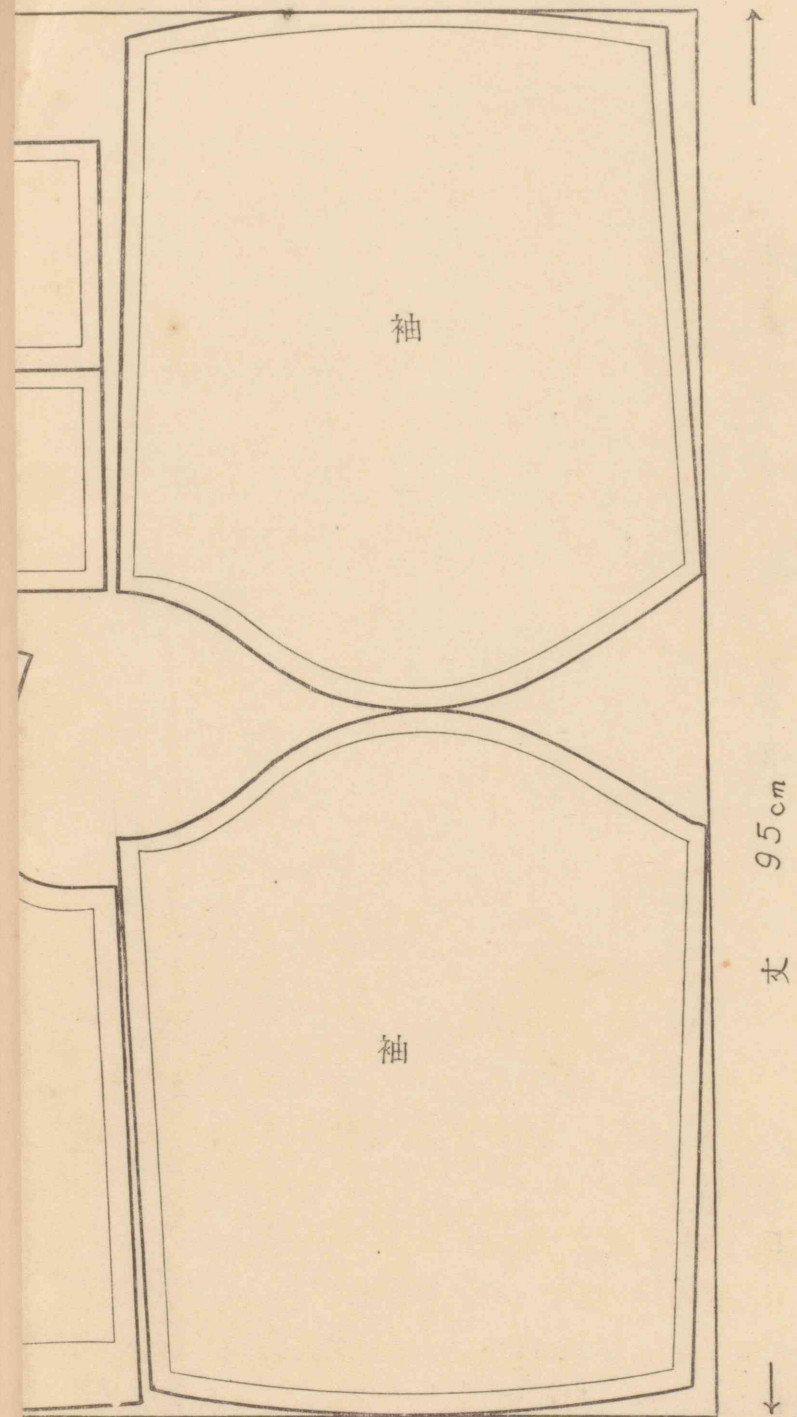
2. 布の取り合せ

- 全部同地質同色にする場合。
- 上著とスカートとを同地質同色にして、衿、袖口に別色を用ふる場合。
- 上著全體とスカートとを別地質又は別色にする場合。
- 衿、袖口、スカートを同地質同色にして、胴と袖とを別の色にする場合。

第四 布の裁ち方

a. 縫代の取り方

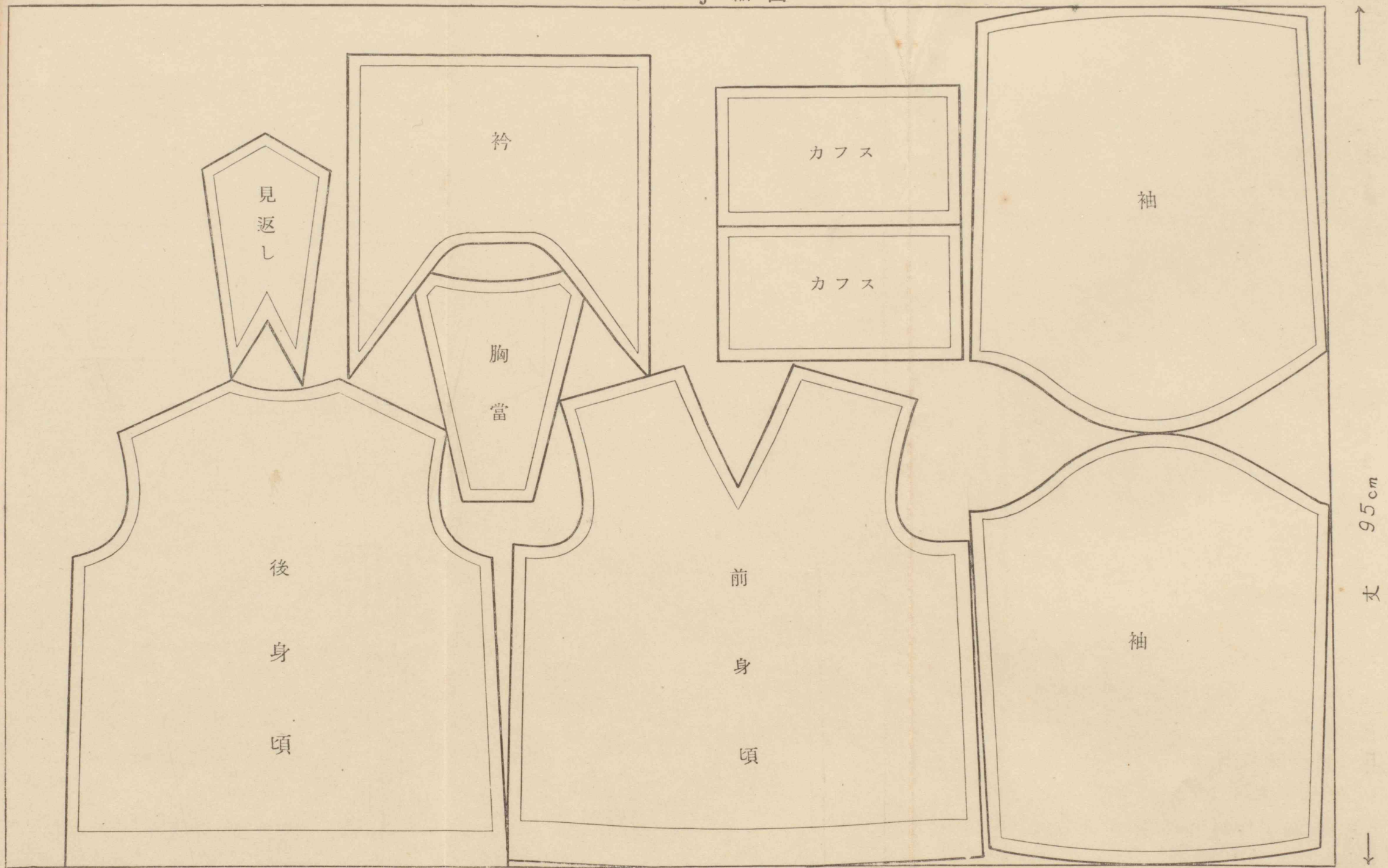
裾4cm 他は全部 1cm 地厚物は 1.5cm



代

裾 4 cm 他は 1 cm 強

十五歳用総合圖 $\frac{1}{5}$ 縮圖



幅 144cm

縫代

裾 4cm 他は 1cm 強

丈 95cm

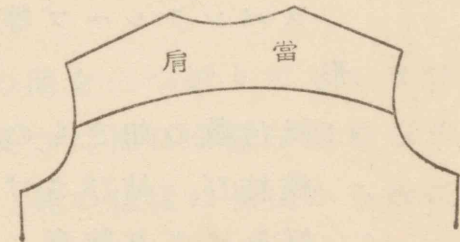
b. 總用布の概算

年齢及び用布の幅、衿の形によつて異れば型紙によつて實測をする。

c. 總合圖は折り疊み圖の通り。

單衣の場合

圖の如く肩當
を取る。



袷の場合

(裏をつけることは本體ではない)

裏布

袖

丈、表より袖附で1cm長くする、
他は表に同じ。

身頃

丈 出來上り寸法、

見返し布の部分は胸當裏とす。

第五 附屬品

a. コード

蛇腹 (毛、絹、木綿、人絹)

テープ (毛、木綿、人絹)

數 三本が普通であるが、時には一本乃

至二本にすることもある。

b. ネクタイ

地質

配合のよい羽二重、富士絹、サテン、
スパンクレープ等。

形

風呂敷の如きもの、三角形のもの、
蝶結び、結びさげのもの等。

c. 好みにより腕章、星飾等を付ける。

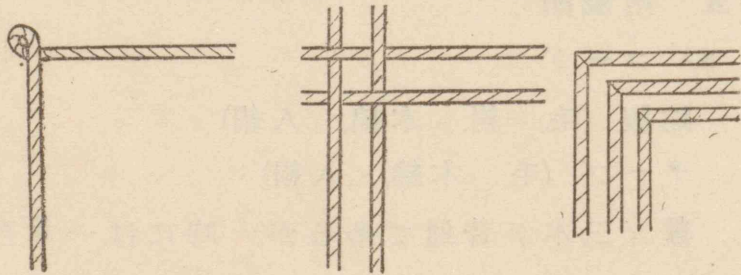
第六 仕立て方

I. 上衣 (単衣)

(1) 圖の場合

衿及び袖口にコード附

1. 袖口 幅の中央に
2. 衿 出来上り線から1.5 cm 乃至 2 cm の
所に下圖のやうに付ける。



袖

1. 袖口布縫

袖口布の口先を表裏合せて縫ひ、折りは裏に返して抑へミシンをかける。

2. 袖縫

袖口先4 cm 位の間を三つ折りにしてまつる。袖口布の長さに袖口を縫ひ縮めるか又は襞を取る、其の位置は袖山から後に1 cm よつた所を中心として左右に。

3. 袖口布附

袖口布を袖の表に縫ひつけ袖口布の両端を縫ひ、表に返して後、裏にまつり付ける。

4. 袖底縫

袋縫にし袖口明留に閉留をする。

身頃

1. 表の肩合せ、折りは後に。
2. 肩當の裾を二つ折りにしてミシンをかけ、肩は表の縫目にまつりつける。
3. 前明のまとめ (53頁参照)
見返しを身頃にまつり附く。

4. 脇縫 袋縫。
5. 裾三つ折りにしてまつりつける。
6. 衿 附

衿を中表にして縫ひ合せ、表に返す。

衿を身頃とバイヤステープとにて挟んで縫ふ

縫込に切込を入れてバイヤステープをまつり附ける。

7. ポケット附

寸法 $\left\{ \begin{array}{l} \text{口} \quad \frac{\text{胸廻}}{8} \text{ (小さい子供の場合は更に1cmを加ふ)} \\ \text{丈} \quad \text{口の寸法} + 1 \text{ cm 乃至 } 2 \text{ cm} \end{array} \right.$

位置 $\left\{ \begin{array}{l} \text{高さ} \quad \text{袖附留より下に} \\ \text{幅} \quad \text{前半身の中央} \end{array} \right.$

形を整へ縫ひ附ける。

8. 袖 附
9. 仕上げ
10. スナップ及びネクタイ附。

(2)圖の場合

衿、袖口、胸當にコード附
衿、袖口は(1)圖に同じ。

胸當は表裏合せて縫ひ表に返す。

袖

袖の縫ひ方は(1)圖に同じ。

身 頃

1. 表の肩合せ、折りは後に。
2. 後肩當の裾を二つ折縫ひにする。
次に見返しと合せて肩合せ、折りは開く。
3. 表裏の衿附
表衿と裏身頃とを中表に合せ衿肩明の間は衿を少々張り加減に、他は平にして中央より縫ひ下げ、縫目は割る。
裏衿と表身頃とを中表に合せ、表衿のやうに縫ひ、縫目を割る。
4. 衿の周囲と前明とを續けて縫ふ。表に返して躰をかけ、前明下部にのみ飾りミシンをかけるか、かがつて置く。
5. 衿附けの縫込を表裏綴ぢ附ける。
6. 後肩當を表肩合せの縫目にまつり附ける。
7. 見返しのまはりを折り表にまつりつける。

8. ポケット附
9. 脇縫、袋縫、折りは前に。
10. 裾の始末
11. 袖 附
12. 仕上げ
13. スナップ及びネクタイ附。

II 上衣 (袷)

(1) 圖の場合

単衣と次の(2)圖の場合とを参照すればよい。

(2) 圖の場合

a コード附 及び胸當の作り方は単衣に同じ。

b 袖

1. 表裏共袖底を縫ひ(袖口明を残す)縫目を割る。
2. 袖底の縫込を表裏綴ぢ附ける(裏をゆるみ加減に)袖口明を縫ふ。
3. 袖口の襷取り。
4. カフス附。

c 身 頃

1. 見返し附。

見返しの上に裏身頃を重ねて、ミシンをかける。

2. 表裏前後の肩縫ひ合せ。縫目は割る。

3. 表裏各々衿附。(149頁参照)

4. 衿の周圍及び前明縫ひ。

5. 衿及び肩の縫込を綴ぢ附ける。

6. 表裏脇縫、縫目は割る。

7. 表裏脇縫ひの縫目を綴ぢ合す。

8. 表裾を折り裏布をまつり附ける。

9. 袖 附

表袖を表裏の身頃と合せて三つ縫ひにし裏袖をまつる。

10. 仕上げ

尙詳細なる點は、146頁単衣を参照すればよい。

b." スカート Skirts

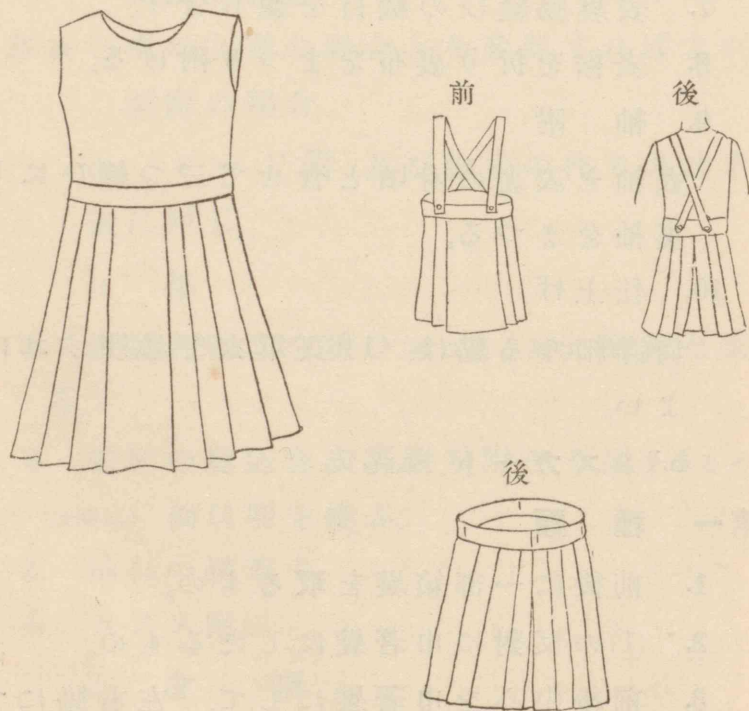
第一 種類

1. 前後に一部箱襷を取るもの。
2. (1)の反對に巾著襷にしたるもの。
3. 前後中心を巾著襷にして、左右脇にて

つき合せたるもの。

4. 前中心を巾著襞にして他全部を後に返したるもの。
5. 全部箱襞にしたるもの。
6. 全部片方に返したるもの。
7. 前のみ襞を取り後は襞なしのもの。
等がある。

第二 出来上り圖

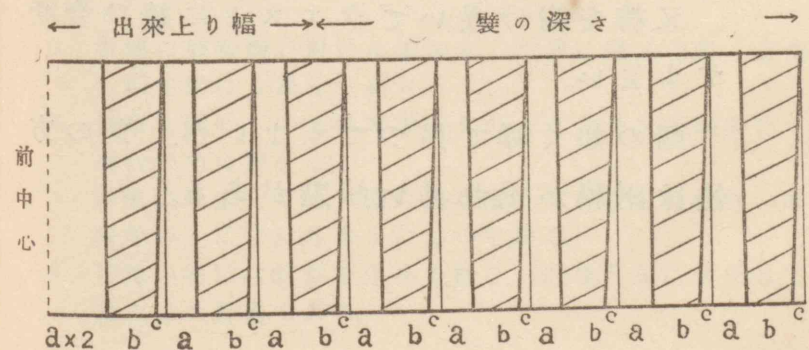


第三 布の裁ち方

丈 = 出来上り丈 + 裾の折伏せ + 縫代
5cm 1cm
 幅 = 地質型によつて一様ではないが、
 普通出来上り幅の二倍乃至三倍

第四 仕立て方

1. 裾布縫ひ合せ、後明又は横明をまつる。
ポケットを作るときは右横に付ける。
2. 裾の始末
三つ折りにしてまつる。
地厚物は二つ折りにして玉縁をつけてまつるか、又は千鳥をかける。
3. 襞取り。
普通の襞取りは63頁参照
出来上り圖の如く裾にて少々開きたるもの、場合



a = 出来上り幅 ÷ 9

b = 襞の深さ ÷ 8

x = 出来上り幅 × $\frac{1}{4}$

x は左右の襞にて開く寸法

c = x ÷ 襞數

【注意】 c の寸法は之れ以上多くせぬこと。

用布の都合によつて b の寸法(襞の深さ)はせまくなる。襞の數は八つに定まつてはゐない。

4. 帶 附

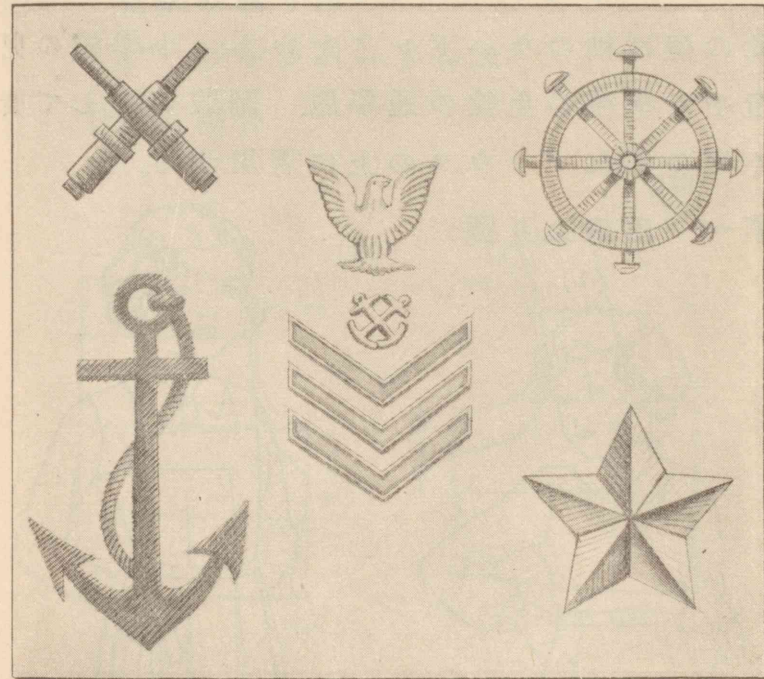
出来上り { 幅 4 cm
 { 丈 出来上り + 重り

帶を裏につけて表の方から飾りミシンをかける。次に、ウエストに釦又は、スナップ等で吊る。

又帶を附けないでウエストに縫ひ合せてもよい。

圖の如く襟で吊つてもよいが、此の方法は兩脇が垂れ易い缺點がある。

水兵服用の紋章



袖章

錨、横線、鷲星等の縫紋を用ふ

用法

- 布地に直接縫ひ附ける場合と、小切に縫ふて後、布地に綴ぢ附ける場合とあり。
- 袖章と同じもの又は略型のものをブラウスの胸及び、後衿の角に用ひる。
- 海軍の規定にては、鷲の羽を擴けたる型を各特殊の階級印の上につけるやうになつて居る。
- 青地の布には紋章を白糸で縫ひ、白地の布には青糸で縫ふのが普通である。

B ジャンパードレス Jumper dress

此の型は袖のないドレスをいふ、小學校の兒童や女學校の生徒の通學服、制服等として廣く用ひられブラウスの上に著用する。

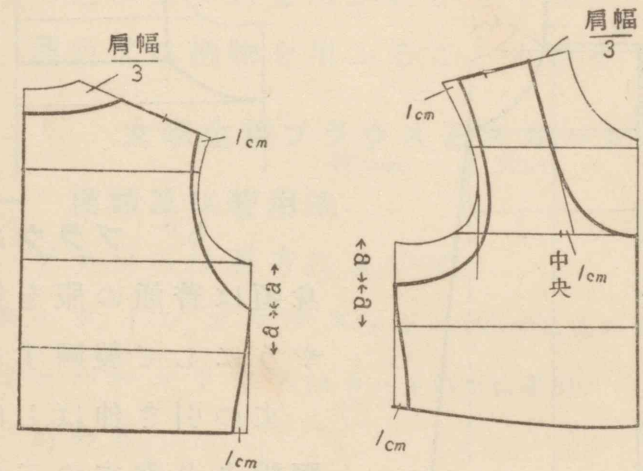
第一 出來上り圖



第二 型紙の取り方

a." ジャンパードレス

(1)圖の場合



スカートの製圖は(126頁)(131頁)参照

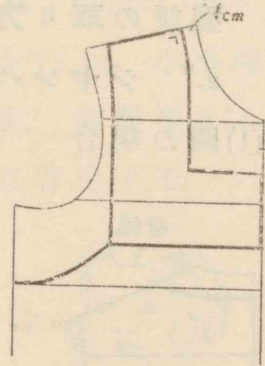
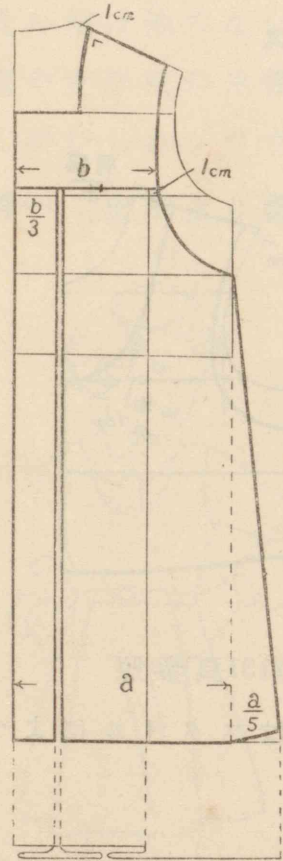
スカートとの接ぎ線はスタイルによつて一様でない。

例へば

原型の第三線

胸線

(2) 圖の場合



b." ブラウス

身頃は普通の服を作るやうにして製圖する。丈の引き伸ばしは、胴線より脊丈の三分の一

第三 地質

ジャンパードレス

サーチ、セル、毛の變り織、アルパカ、木綿等にて多く無地物を用ふ。

ブラウス

夏 { 縮、ポプリン、綿セル、富士絹
薄地のセル、麻等

冬 フランネル、英ネル、セル等

色は多く白を用ふれども、場合により薄色又は柄物を用ふることもある。

C 女學生用ブラウスとスカート
Blouse Skirts

第一 種類及び著用法

ブラウスは著方によつて

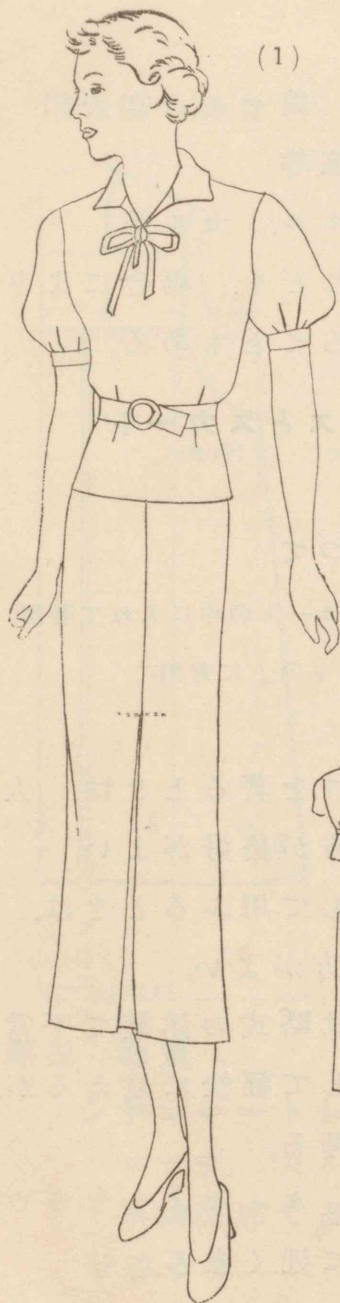
タック、イン、ブラウス(スカートの中に入れて着用)
オーバー、ブラウス(スカートの上に着用)がある。

スカートとブラウスだけを著るときは、大體オーバー、ブラウスの方が格好がよい。

スーツのブラウスとして用ふるときは、タック、イン、ブラウスの方がよい。

タック、イン、ブラウスは略式の洋装で平常著、家庭著、働き著として輕快に見えるが、肥えた人には不適當である。

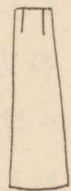
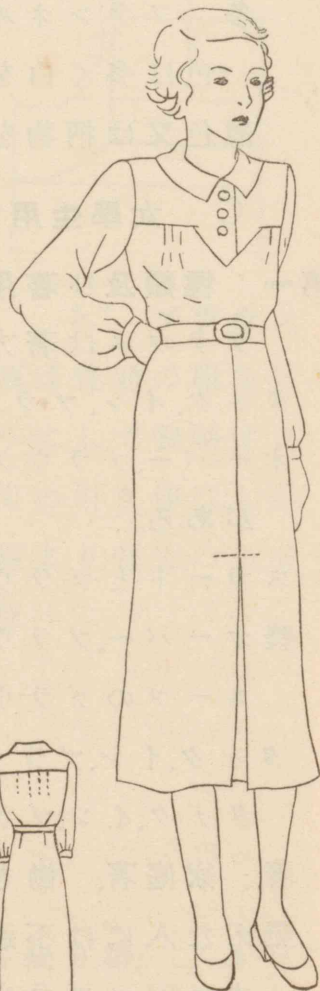
オーバーブラウスは、タック、イン、ブラウスに比べて幾分正装に近くなる。



(1)

第二 出来上り圖

(2)



第三 標準寸法 (十七・八歳)

胸廻 80cm

胴廻 65cm

脊丈 36cm 乃至 38cm

臀廻 87cm

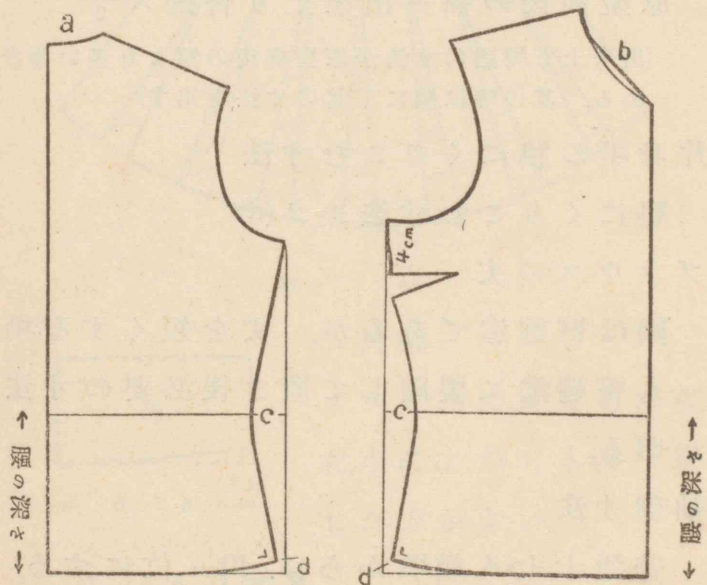
腰の深さ(脇で胸廻の位置から臀廻迄の長さ) 18cm

スカート丈 75cm (床上から25cm乃至30cm位の所)

第四 型紙の取り方

a." ブラウス

(1) 圖の場合 (オーバー・ブラウス)
Over-blouse



圖の解説

出来上り胴廻寸法

胴廻 + 弛み

12cm

脇にくりこむ寸法(胴廻線にて)

原型前後の幅 - 出来上り胴廻 $\times \frac{1}{2}$

片身頃の脇にくりこむ寸法

脇にくりこむ寸法 $\div 2$ (c)

出来上り臀廻

臀廻 + 弛み

6cm

脇にくりこむ寸法(臀廻線にて)

原型前後の幅 - 出来上り臀廻 $\times \frac{1}{2}$

(出来上り臀廻の寸法が原型前後の幅より多い場合もある。其の時は脇にて其の寸法を出す)

片身頃の脇にくりこむ寸法

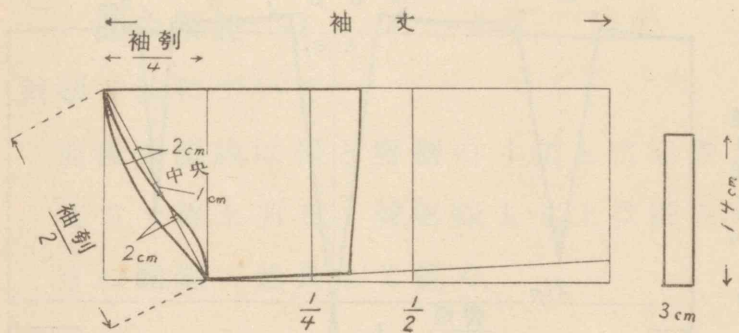
脇にくりこむ寸法 $\div 2$ (d)

ブラウスの丈

圖は臀廻迄であるが、丈を短くする場合も臀廻迄に製圖して置き後必要の寸法に切る。

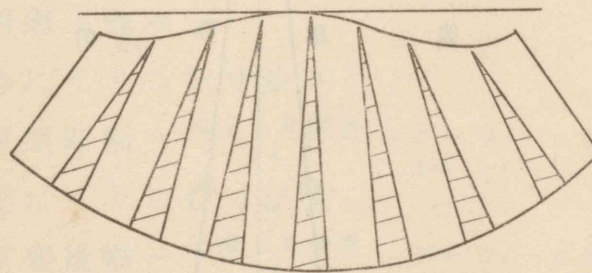
袖刳寸法

普通十七・八歳頃からは、40cm 位にする。



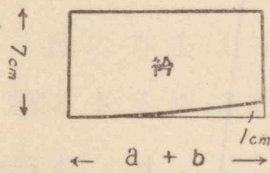
出来上り圖の袖丈は四分の一であるが弛みとして 3.4cm 長く裁つ。

袖 附



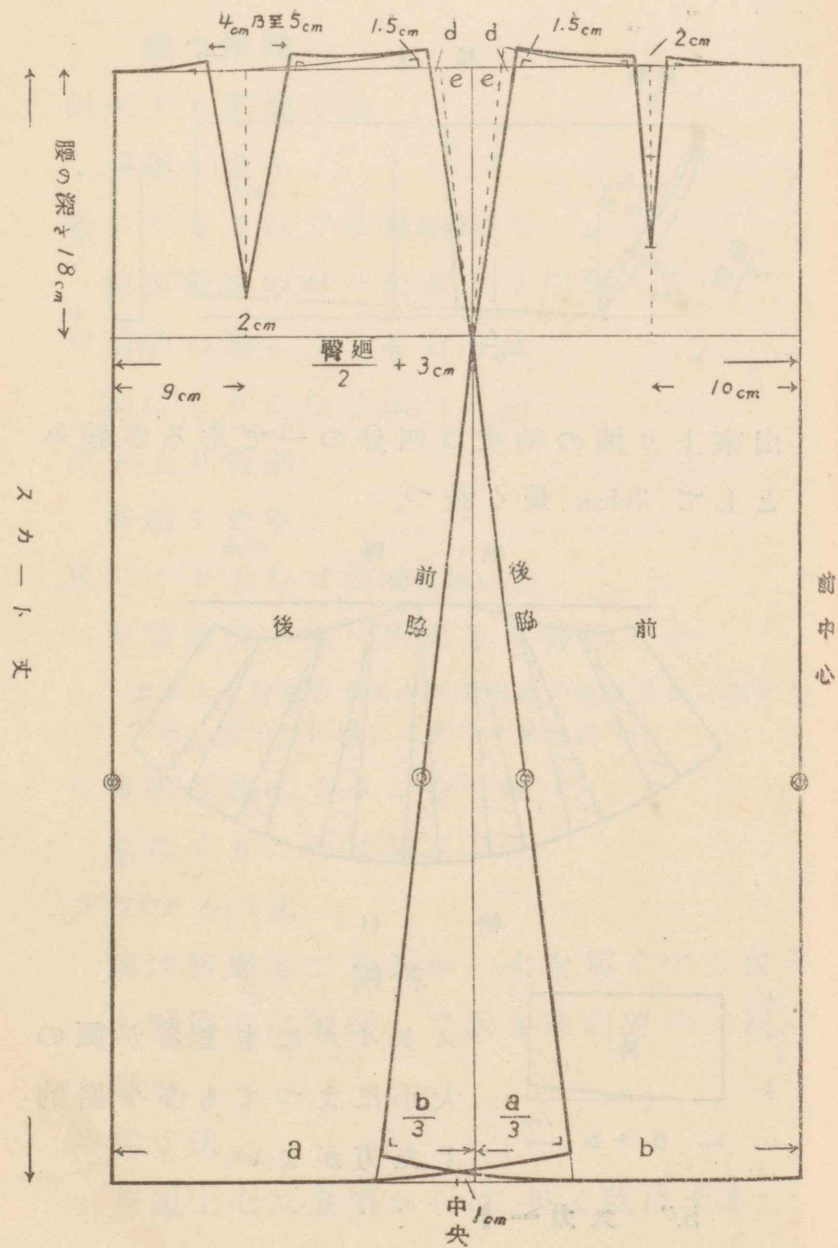
袖 口

衿幅



スタイルにもよるが顔の大小によつても多少斟酌した方がよい。

b." スカート



圖の解説

胴廻寸法について

前後共脇線は裾と臀廻の寸法とに定規を當て、線を引き、臀廻線より上は圖のやうに點線で延長して置く。

ダーツ

前 2cm

後 4cm 乃至 5cm

出來上り胴廻寸法

胴廻 + 弛み
2cm

前脇にくりこむ寸法(d)

原型前幅 $-\frac{\text{出來上り胴廻}}{4} - \text{ダーツ} - e$ の寸法
2cm

後脇にくりこむ寸法(d)

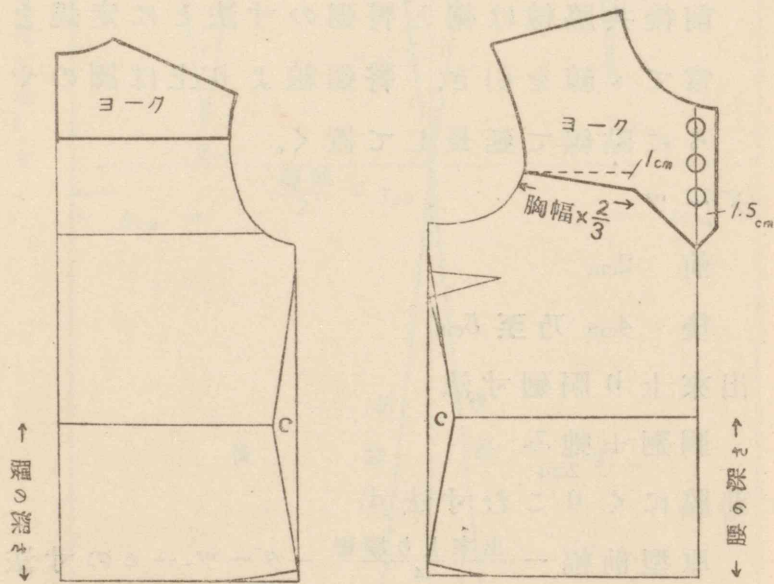
原型後幅 $-\frac{\text{出來上り胴廻}}{4} - \text{ダーツ} - e$ の寸法
4cm 乃至 5cm

寸法の關係により脇は點線より出す場合もある。

此の方法はスカートの原型であつて、各種スタイルは此の圖の活用によつて製圖出來る。

a." ブラウス

(2)圖の場合 (タックインブラウス)
Tuck-in-blouse



胴廻及び臀廻の寸法の計算

前圖に同じ。

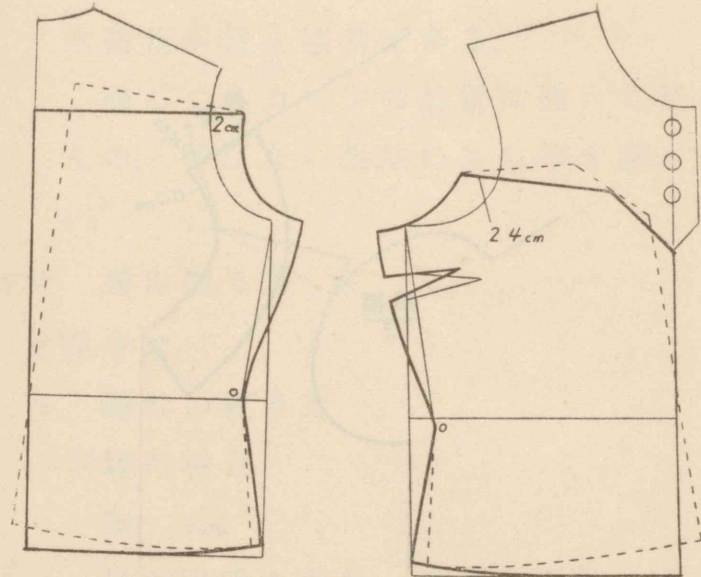
但し胴廻に加へる弛みの寸法は此のスタイルには前圖より多くする。

出来上り胴廻寸法

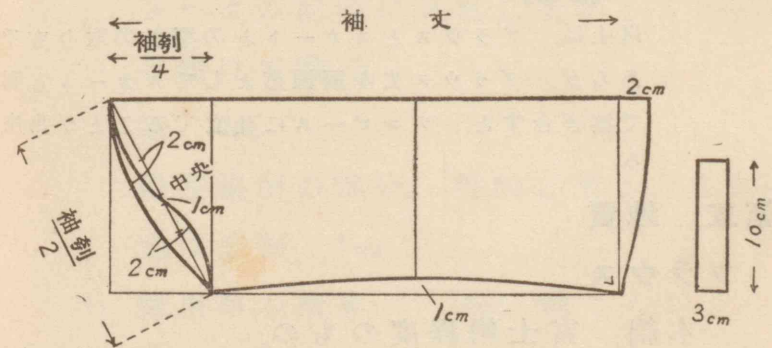
胴廻 + 弛み
16cm

出来上り臀廻寸法

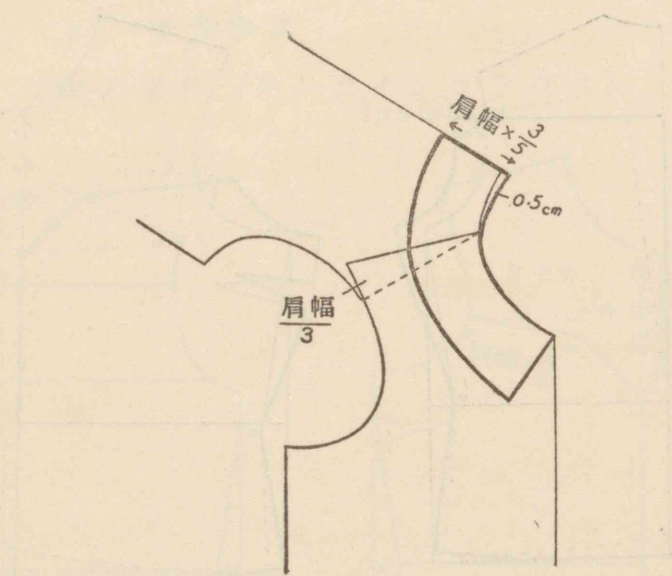
臀廻 + 弛み
8cm



前後のタックを取るには○印を固定して圖の如く型紙を廻して(タックの寸法だけ)袖刳、脇線及びヨークの接ぎ線を作る。



袖丈を袖山で原型より2cm長くしたのは袖口で弛みを附けるためである。



b." スカート

前圖に同じ

【参考】

以上は、ブラウスとスカートとの型紙の取り方であるが、ブラウス丈を胴線迄としてスカートと胴で接ぎ合すと、ワンピースに仕立てることが出来る。

第五 地質

ブラウス

木綿 富士絹程度のもの。

スカート

出来上り圖の如きスタイルには、毛織物

木綿物が最も適當である。

總じてスカートの地質は透けて見えぬもの、伸びない生地のもの等を選ぶがよい。

第六 布の裁ち方

ブラウス

a. 縫代の取り方

(1)圖の場合

裾 4cm

後左脇明の部分、持出し用として2.5cm

他は全部 1cm

(2)圖の場合

ヨークの前明は見返し用として3.5cm

を續けて裁つ。

裾 2cm

後左脇明の部分、持出し用として2.5cm

他は全部 1cm

b. 總用布の概算 75cm 幅として

出来上り身丈 × 2 + 前下り + 袖丈 × 2 +

縫代 = 總用布
約15cm

【備考】

胴廻の弛みの多い場合は、脇を明けなくても着用出来るが、比較的弛みの少ない場合は脇明を作らねばならぬ。此の際は左を明ける。

脇明の寸法

上は袖附より 4cm 位下つた所から、
下は臀廻の位置より 4.5cm 位上つた所迄の間

以上は大體の寸法であるが、尙正確にいへば出来上り身頃總廻が、胸廻の寸法に 5・6cm の弛みを加へた寸法に、足りない間隔だけ明ければよい。

スカート

a. 縫代の取り方

前型紙中心より 8cm 出す (裏用)

裾、 4cm

左脇明、前後共 2.5cm

他は全部 1cm

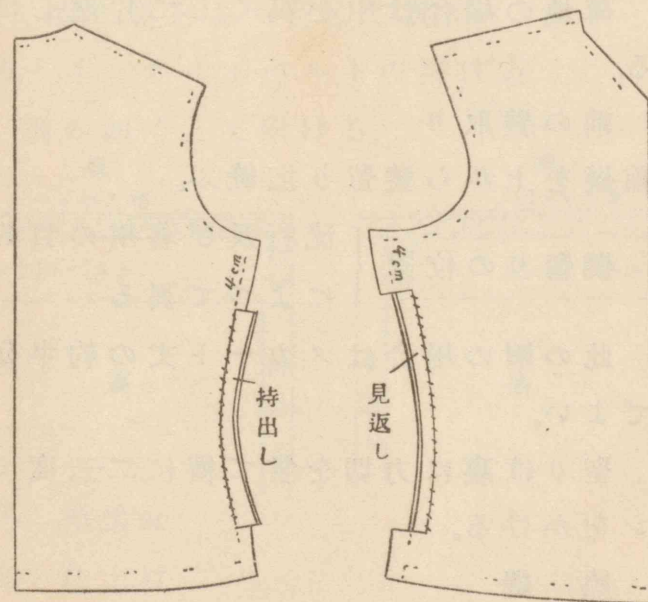
b. 總用布の概算 (幅142cm乃至152cmとして)

スカートたけ + 縫代及び縮まる寸法 = 總用布
10cm

第七 仕立て方

ブラウス

女兒服を應用して仕立てればよい。
但し左脇明の始末は圖の通りにする。



スカート

1. インサイドベルト

水に浸して縮ませ着用者の胴廻に當てて寸法を定め、其の寸法に縫代を1cm加へて裁ち、両端を0.5cmに折つてミシンを掛ける。

2. ダーツを縫ふ。

毛織物の場合は縫目を割り、力切を裏に當て割りミシンをかける。

薄地の場合は中を高くして片返しにする。

3. 前の襞取り

前襞を上から襞留り迄縫ふ。

襞留りの位置 { 流行及び著用の目的
 } によつて異なる

此の圖の場合はスカート丈の約半分位でよい。

留りは裏に力切を當て横に二・三度ミシンをかける。

4. 脇縫

右は全部縫ひ左は脇明留迄縫ふ。

地厚物は縫目を割り、

地薄物は前に折る。

5. 左脇明に持出し及び見返し附

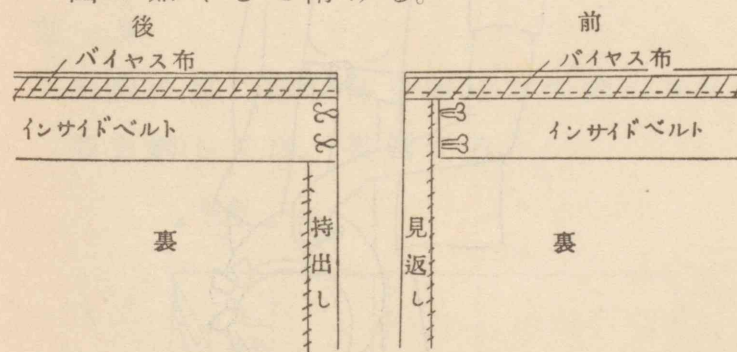
前は標通りに折り布の伸びない爲に山にテープを綴ぢ附け、弛む布をよく落ちつけてまつる。

後は標より持出しだけ出して折り、山にテープを入れ、弛む布をよく落ちつけてまつる。

明き留をよく留めて置く。

6. インサイドベルトの付け方

圖の如くして附ける。



7. 裾伏せ

8. 仕上げ

9. スナップ附

第八節 スリーピース Three-piece-drees

A. ブラウス、スカート

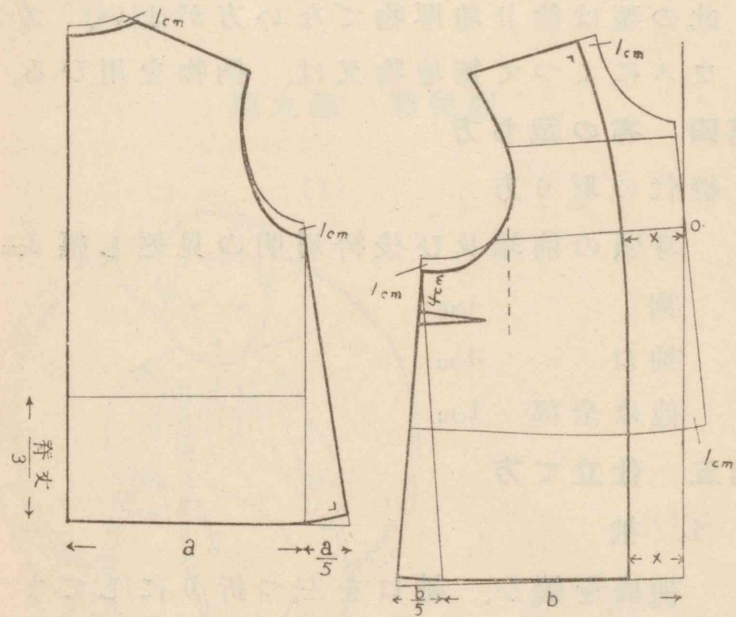
前節参照

B. ハーフコート Half-coat

第一 出来上り圖

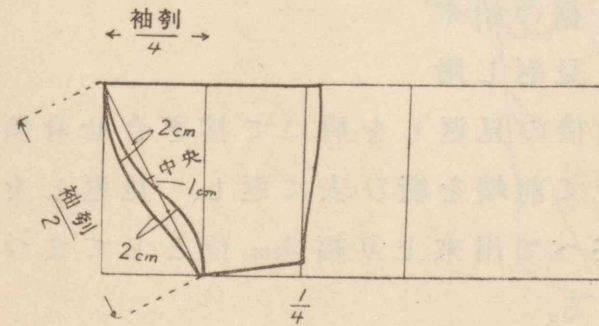


第二 型紙の取り方



前身

原型の第二線○印を固定して圖の如く原型を廻して後、製圖する。



第三 地質

此の型は餘り地厚物でない方がよい、ブラウスによつて無地物又は、柄物を用ひる。

第四 布の裁ち方

縫代の取り方

身頃の前端及び後衿肩明の見返し幅 5cm

裾 4cm

袖口 4cm

他は全部 1cm

第五 仕立て方

1. 袖

袖底を縫ひ、袖口を三つ折りにしてまつる。

2. 肩合せ

3. ダーツ及び脇縫

4. 裾の始末

5. 見返し附

前後の見返しを肩にて接ぎ合せ身頃と合せて前端を縫ひ表に返し、見返しを少々控へて出来上り幅 3cm 位としてまつり附ける。

6. 袖 附

7. 仕上げ

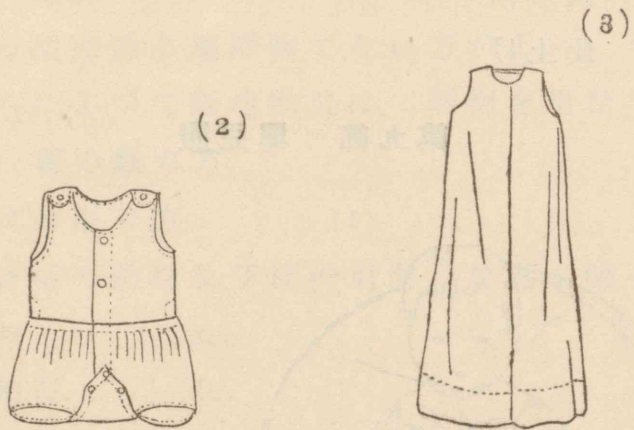
第九節 嬰兒服

(1)



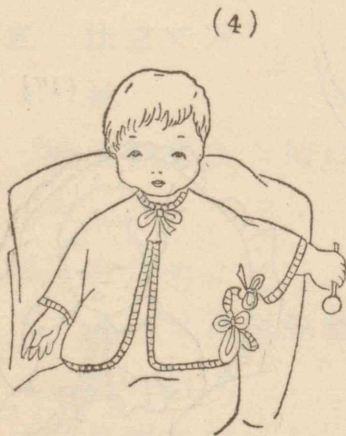
(1')





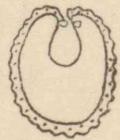
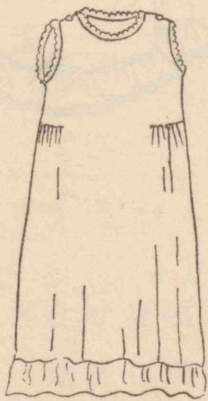
(2)

(3)



(4)

(3'')



嬰兒服は著用に便利なるものを選んだ方がよい。

地質は男女兒共柔い生地で多く純白なるものを用ふ。色物を用ふる場合は淡紅色、淡水色等の淡い色を用ふ。

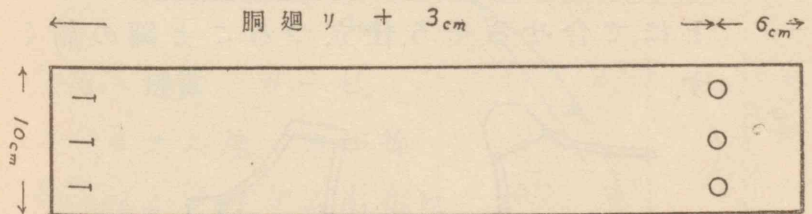
著用の順序

腹巻、肌著、襦袢カバー、スリッパ、上著
冬季は更に胴著及びケープ等を著せる。

第一 下著類

A 腹巻

1. 出来上り圖



2. 地質

ガーゼ、ネンスーク、ネル、スーパーの類

3. 裁ち方

出来上り寸法に縫代として1cm づつ加ふ。

4. 仕立て方

三方を縫ひ合せて表に返し、後其の返したる所をまつる。周圍に 0.5cm の深さの飾りミシンをかける。又は飾り縫ひをすることもある。

次に 1.5cm 位の穴縫り及び釦付けをする。

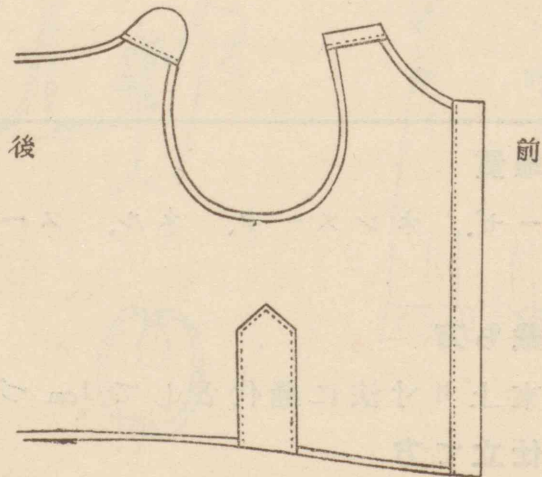
B 肌 著

1. 出来上り圖 (178頁(2)圖)

2. 地質

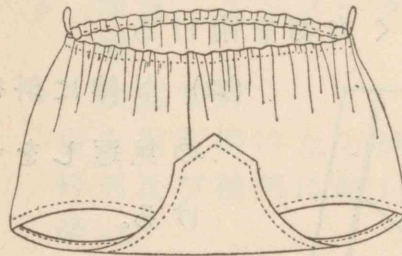
ガーゼ、ネンスーク、スーパー等

3. 裁ち方、仕立て方共女兒下著ウエストに同じ。但し、著用に容易いやう肩と前とにて合せるやう仕立つること圖の如くす。

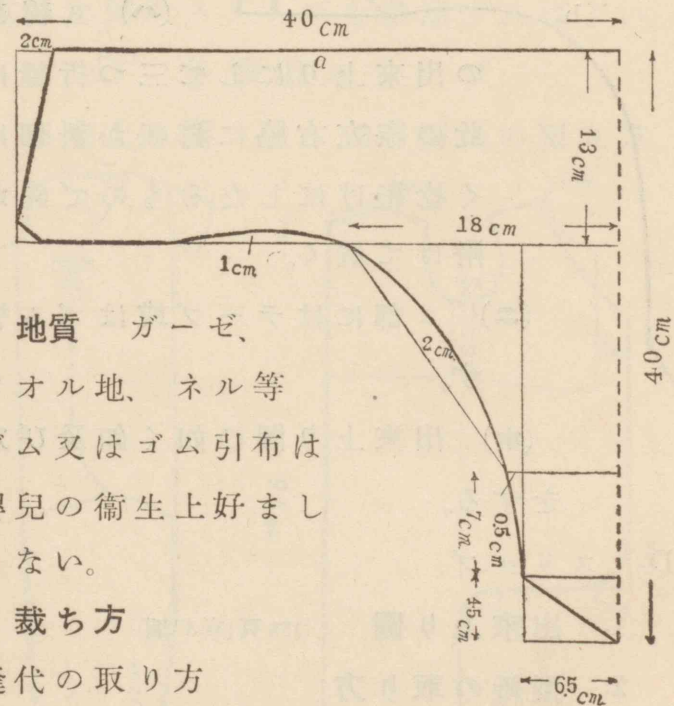


C 襁褓カバー

1. 出来上り圖 (178頁(2)圖)



2. 型紙の取り方



3. 地質 ガーゼ、

タオル地、ネル等

ゴム又はゴム引布は

嬰兒の衛生上好ましくない。

4. 裁ち方

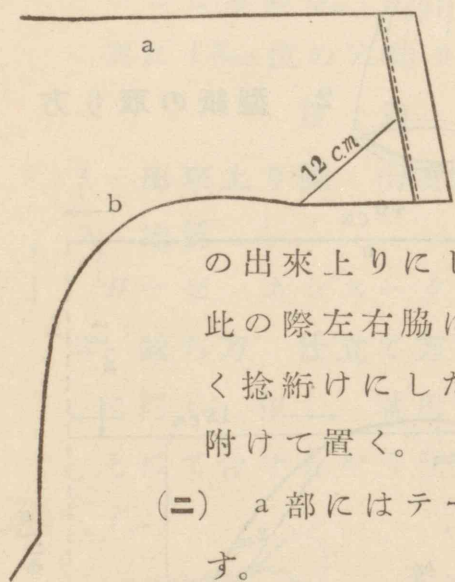
縫代の取り方

a 線は、2.5cm

他は全部 1cm

5. 仕立て方

(イ) 前の両端に2.5cmの見返し布を付ける。
此の際圖の如く力切を付ける。



(ロ) b線に斜切
の見返しをつ
ける。

(ハ) a線を2cm
の出来上りにして三つ折縫にする。
此の際左右脇に打紐か斜切にて細
く捻締めにしたるもので釦かけを
付けて置く。

(ニ) a部にはテープ或はゴム管を通
す。

(ホ) 出来上り圖の如く釦及び穴縫り
をする。

D スリップ

1. 出来上り圖 (178頁(3)(3')圖)

2. 型紙の取り方

丈 上著より4cm 短く。

裾幅 { 178頁(3)圖の形は50cm
同 (3')圖の形は60cm

他は女兒下著スリップに同じ。

3. 地質 ネンスーク、富士絹、スーパー
等

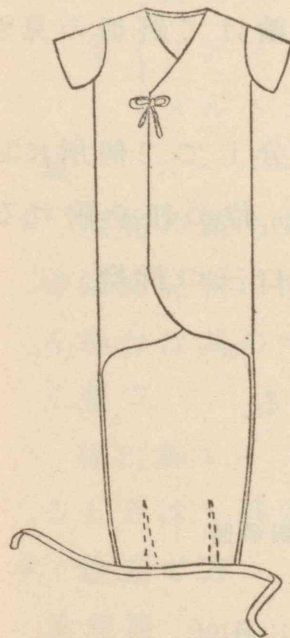
4. 仕立て方

前を裾迄明けた方が著せ易い。
衿刳及び袖刳に絲レース等を付けると可
愛い。

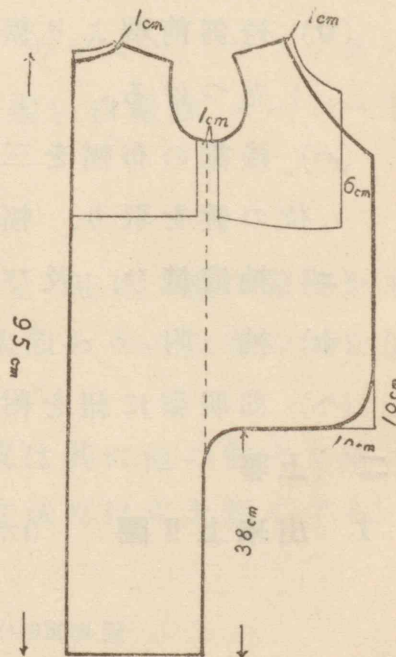
他は女兒用スリップを参照すればよい。

D' 冬季用スリップ

1 出来上り圖



2. 型紙の取り方



袖は普通

丈は四分の一袖にする

3. 地質

スーパー、タオル地の類

4. 布の裁ち方

袖口 2cm

他は全部 1cm

5. 仕立て方

(イ) 肩合せ

(ロ) 衿刎前端より裾に續けて斜切の見返しをつける。

(ハ) 後裾の布幅を三等分して二個所に2cm位の襞を取り、幅3cm位の紐を付ける。

(ニ) 袖底縫ひ、及び袖口三つ折縫、

(ホ) 袖 附

(ヘ) 前明留に紐を付ける。

第二 上著

1. 出来上り圖 (177頁圖参照)

2. 型紙の取り方

丈が長いのみで女兒服に同じ、只ヨーク付きの場合はヨークの接ぎ線を稍々高くする。

3. 地質

表

夏 { トラルルコ、ポプリン、ヴォイル、
メリンス、富士絹、クレーブサテ
ン、クレーブデシン等

冬 { 富士絹、クレーブサテン、クレー
ブデシン、カシミヤ、フランネル、
メルトン、柔い白羅紗、スーパー等

裏 スーパー

4. 用布の裁ち方

普通女兒服に同じ、但し、脇に箱襞を取る場合は其の寸法即ち8cm位布の幅を廣く裁つ。

裾に絲レース或は其の他の飾りを付けるときは、其の寸法だけ丈を短くする。

5. 仕立て方

女兒服 (101頁)(110頁)(118頁)参照

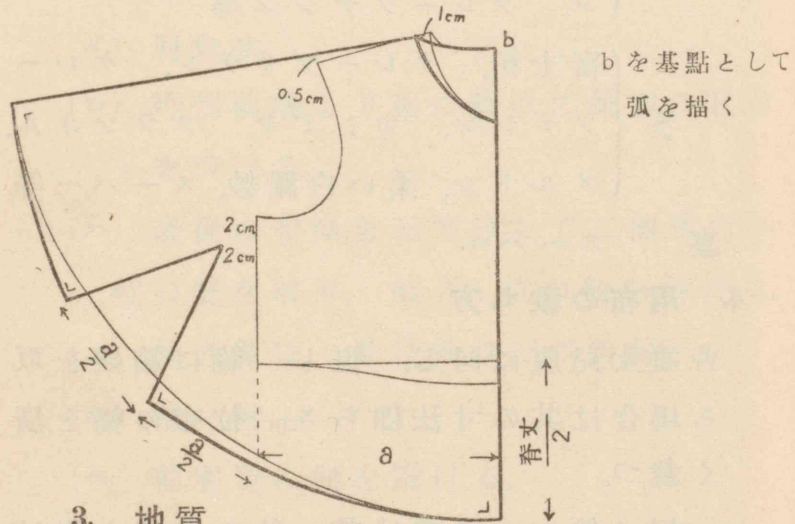
只袖口、衿廻及び裾に裝飾用として絲レースを附けることもある。

脊明よりも前明の方が著せ易い。其の寸法も多い方が便利である。殊に裾迄明けたのは一層著せ易い。

第三 ケープ

1. 出来上り圖

2. 型紙の取り方



3. 地質

表 { 富士絹、クレープサテン、クレープ
 デシン、フランネル、カシミア、セル
 薄地のラシヤ、ビロード等

色は白。

裏 { 輸出羽二重、クレープデシン
 練襦子等

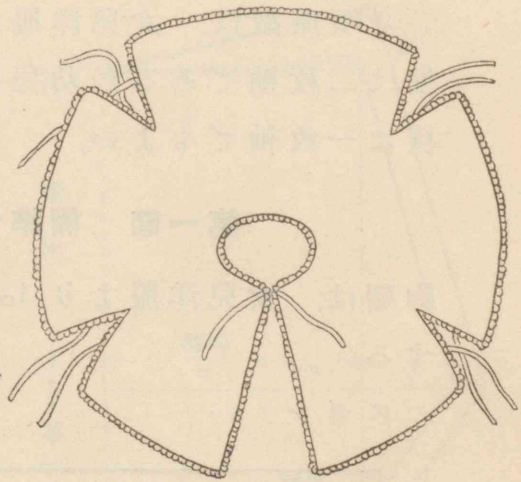
4. 布の裁ち方

(イ) ヘムステッチにする場合は縫ひ線を附けるのみで裁ち切らない。

(ロ) 表裏を縫ひ合す場合は1cmの縫代を取る。

5. 仕立て方

表裏を平に重ねて周圍にヘムステッチをするか、縫ひ合せて表に返し、右圖の如く紐を附ける。



第四章

男 兒 洋 服

男兒服は二歳位迄は女兒洋服と同じでよいが、三歳位からは普通ズボンと上衣とをつける。

型に夏冬の區別が餘りない、地質によつて區別する。

身頃原型は、女兒洋服と同じでよい。

袖は二枚袖であるが幼兒には女兒洋服と同様に一枚袖でもよい。

第一節 標準寸法

胸廻は、女兒洋服より 1cm 乃至 1.5cm 位太くする。

ズボン

年齢	3・4歳	5・6	7・8	9・10	12・13
部分					
膊上	2 1cm.	2 2	2 3	2 4	2 5
膊下	1 0cm.	1 2	1 6	2 0	2 5

第二節 パンツ

男兒用の下著は三・四歳迄は大體女兒用下著に同じ。

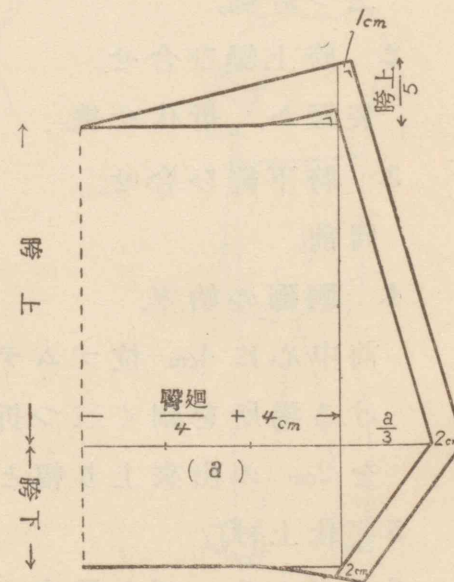
第一 標準寸法

年齢	5・6歳	7・8	9・10	11・12	13・14
部分					
膊上	2 2cm	2 3	2 4	2 5	2 6
膊下	8cm	9	1 0	1 1	1 2

膊下は好みにより斟酌すればよい。

第二

型紙の取り方



第三 地質

キヤラコ、天竺金巾、木綿縮、綿ネル等。

第四 布の裁ち方

縫代の取り方

上の(胴廻)縫代 2.5cm

他は全部 1cm

第五 仕立て方

1. 裾

三つ折縫。

2. 胯上縫ひ合せ。

袋縫か、折伏せ縫。

3. 胯下縫ひ合せ。

同前。

4. 胴廻の始末。

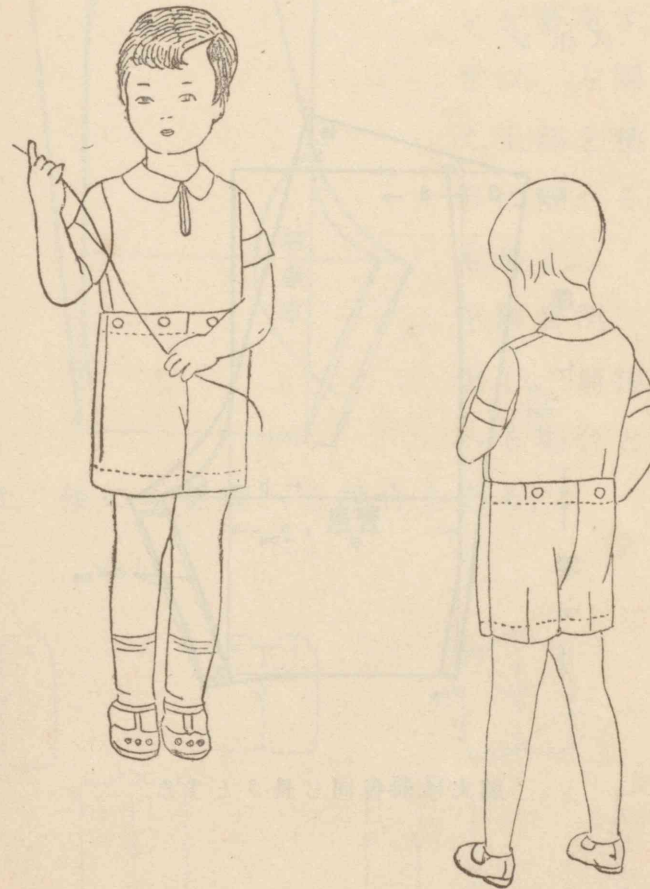
前中心に4cm位ゴムテープ通しとして明ける場所を細く三つ折縫ひにして、後他を2cmの出来上り幅として、三つ折縫ひ。

5. 仕上げ。

6. ゴムテープを通す。

第三節 男児簡單服

第一 出来上り圖

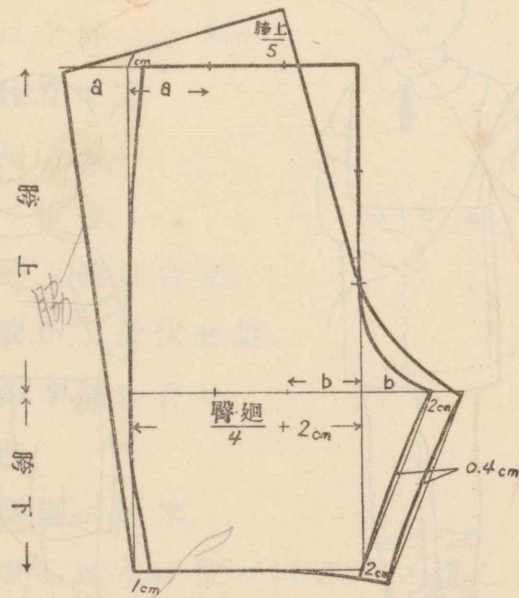


第二 型紙の取り方

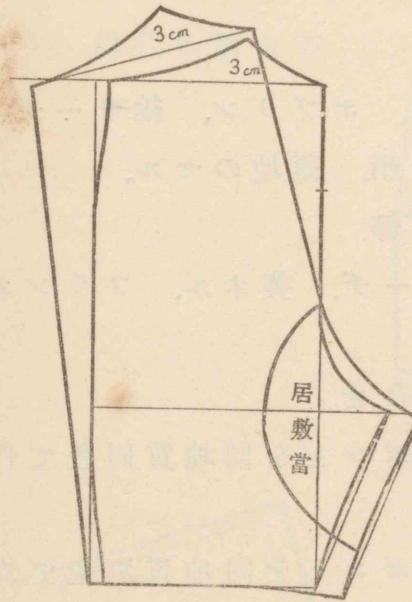
a." 上衣は女兒服参照。

身頃の丈は $\frac{\text{脊丈}}{3}$ だけ原型より伸ばす。

b." ズボン



脇丈は前後同じ長さとする。

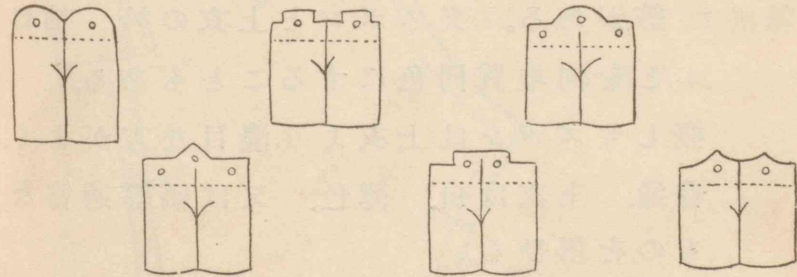


上著の上にズボンを着用するときは、左圖の如く上部を種々の形に變へることもある。

下圖参照。

但し、前後共變へる場合と前或

は、後のみを變へる場合とある。



第三 地質

1. 種類

- 夏 { ギンガム、ポプリン、綿サーヂ、
麻、富士絹、薄地のセル、
ポラー等、
- 冬 羅紗、サーヂ、英ネル、フランネル等。

2. 用布の取り合せ。

- 上衣とズボンとを同地質同色で作る場合。
- 上衣とズボンとを同地質別色で作る場合。
- 上衣とズボンとを別地質別色で作る場合。

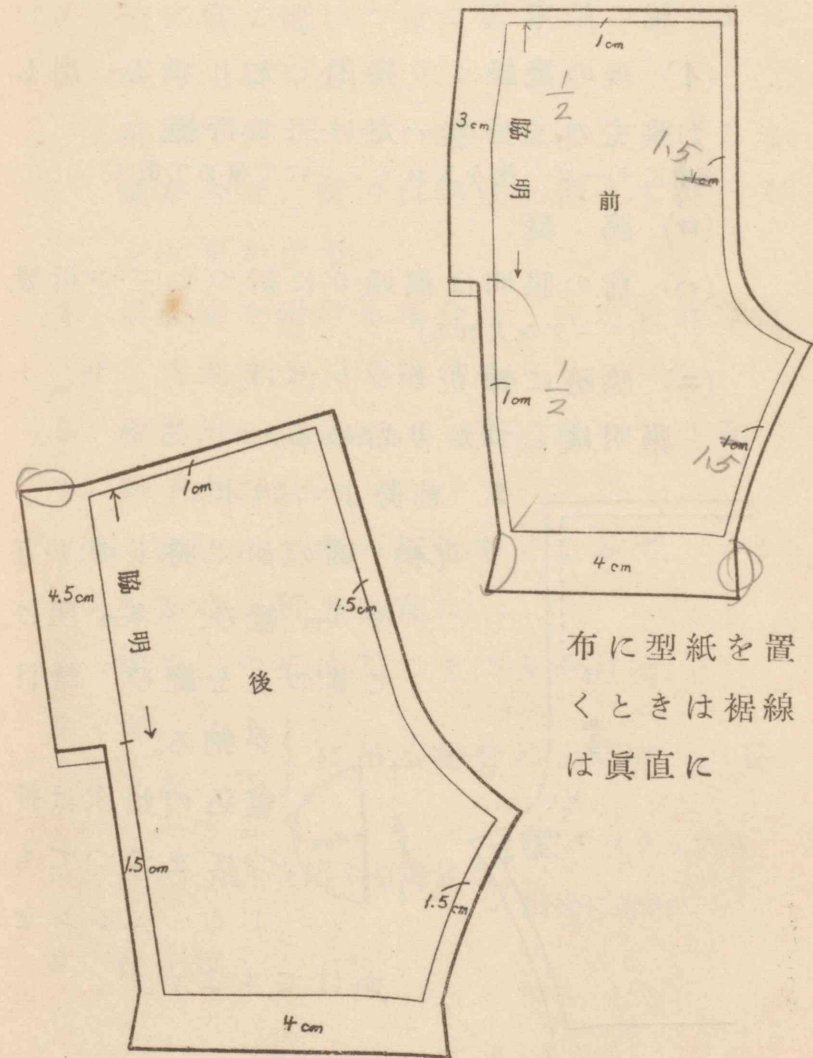
等がある。又ズボンと上衣の衿、袖口とを同地質同色にすることもある。

概してズボンは上衣より濃目な方がよく、普通、上衣は白、薄色、又は縞等適當なものを用ひる。

ズボンには黒、紺、茶、藍等の無地を用ひるが、又縞物も用ふ。

第四 布の裁ち方

a. 縫代の取り方



布に型紙を置くときは裾線は眞直に

第五 仕立て方

A. 最も簡単なる方法

1. 脇の始末

(イ) 後の縫線より持出しとして 2cm 出し

脇丈の二分の一だけ三つ折縫。

(中にテープ一枚を入れミシンにて留めて置く)

(ロ) 脇縫

(ハ) 前の脇明は標通りに折つて三つ折縫。

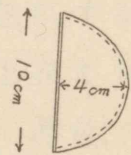
(テープを入れる)

(ニ) 脇縫に飾りミシンかけ。

脇明はしつかり留める。

2. 前胯上の始末

(イ) 圖の如く胯上の下方を 5cm 縫ひ、8cm 明けて其の上を縫ひ、縫目を割る。



縫込の始末は折つてまつつてもよく、ミシンをかけてもよい。

(ロ) 半圓形の持出し布の圓い方を縫ひ合せ飾りミシンをかけ、8cm 明けた所の右に當て縫ひつけて置く。

3. 後胯上縫ひ合せ。

下部にて刳りの多い邊りを充分伸ばして縫ひ合せ、折りは返すか開きて抑へミシンをかける。

4. 居敷當を付ける場合は、左右を縫ひ合せ、周圍をまつり付ける。

5. 腰裏附(幅8cm位裁ち切り)裏に縫ひつける。

6. 胯下縫ひ合せ。

後の縫込にて前の縫込をくるみて、ミシンをかけ。折りは前に。

7. 裾を三つ折にしてまつり付ける。

8. ウエスト } に吊る場合は上部に…穴紐。
上衣 }

ズボン吊りを用ふる場合は { 脇、スナップ附
前後に釦附

9. 仕上げ。

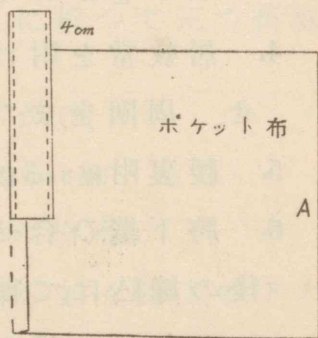
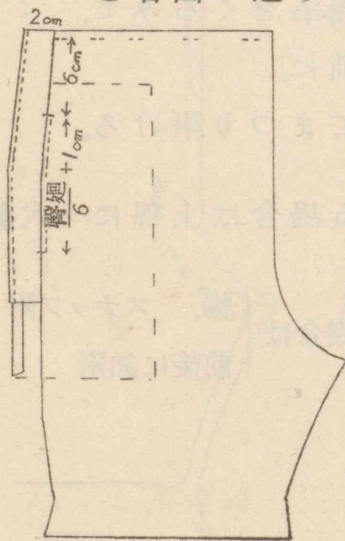
B. 脇にポケットを附けたるもの

1. ポケット及び脇明の作り方

(イ) 用布の寸法

表布(持出し布)	}	幅	6cm
		丈	脇明 + 2cm
ポケット布	}	幅	臀廻 $\times \frac{1}{2}$
		丈	幅 - 2cm

(ロ) ポケット布の端に表布を縫ひ付けて、奥の方を折りミシンをかけること右圖の通り



(ハ) 前ズボンの脇を標通りに折つて上部より、6cm 下つた所から $\frac{\text{臀廻}}{6} + 1\text{cm}$ の間を A の部と合せて縫ひ、飾りミシンをかける。

(ニ) 前頁下圖の如くポケットの端 2cm を持ち出して落ち附ける。

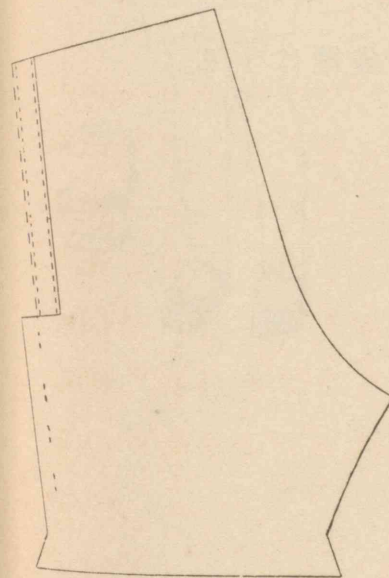
2. 脇縫

(1)

(イ) 初め(1)
圖の如く切込を入れる。



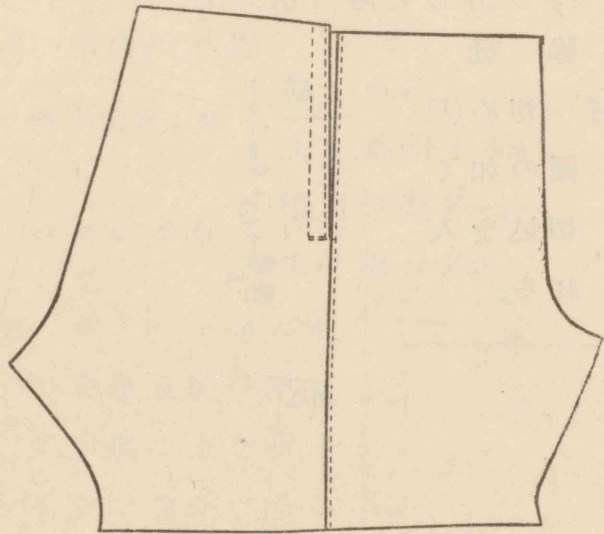
(2)



(ロ) (2)圖の如く縫代を裏に折つて、テープ一枚を入れ、三つ折縫ひ。

(ハ) 後の縫ひ線に前の縫ひ線を合せて

重ね、飾りミシンをかける。



(二) ポケットの底を袋縫にする。

3. 前明きの始末

前のズボンに同じ。

4. 後胯上縫ひ合せ。

居敷當附。

5. 胯下を縫ひ合す。

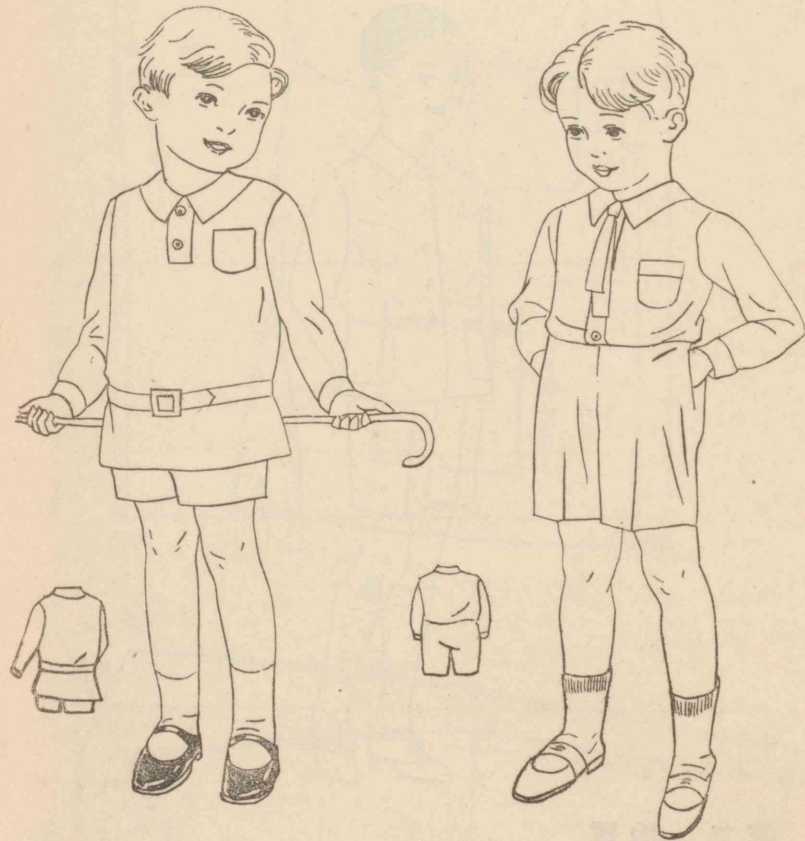
6. 裾の始末。

7. 腰裏附。

8. 穴縫、釦附。

9. 仕上げ。

参考繪姿



第四節 兒童通學服

第一 出來上り圖

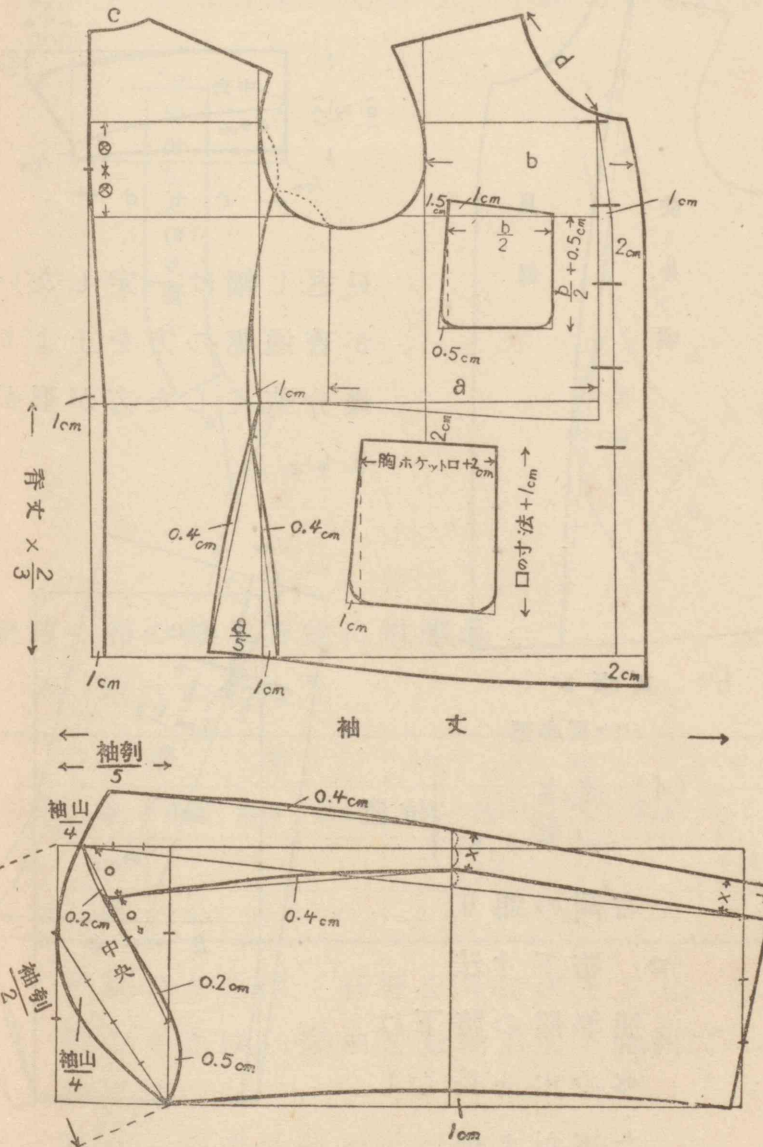


第二 地質

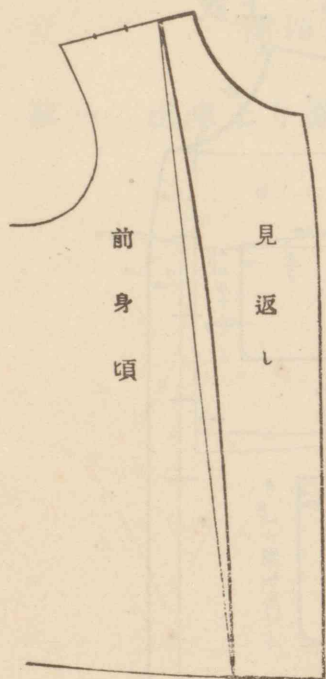
夏 小倉、綿サージ等

冬 小倉、綿サージ、サージ、メルトン等

第三 型紙の取り方 a." 上衣



大きい子供には袖山の高さを $\frac{\text{袖割}}{4}$ にする



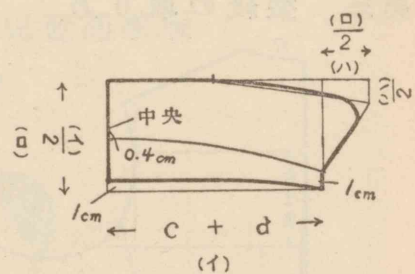
b'' ズボン

(192頁参照)

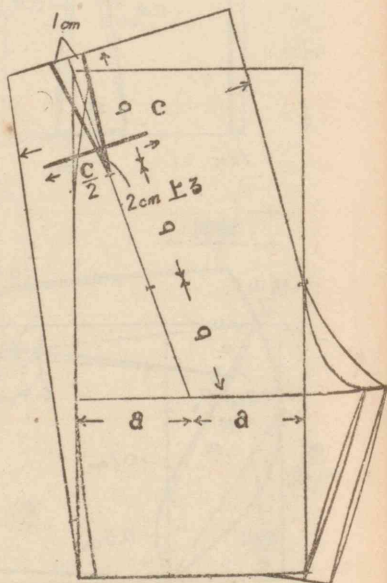
(イ) クセ
ポケット 位置

右圖の通り。

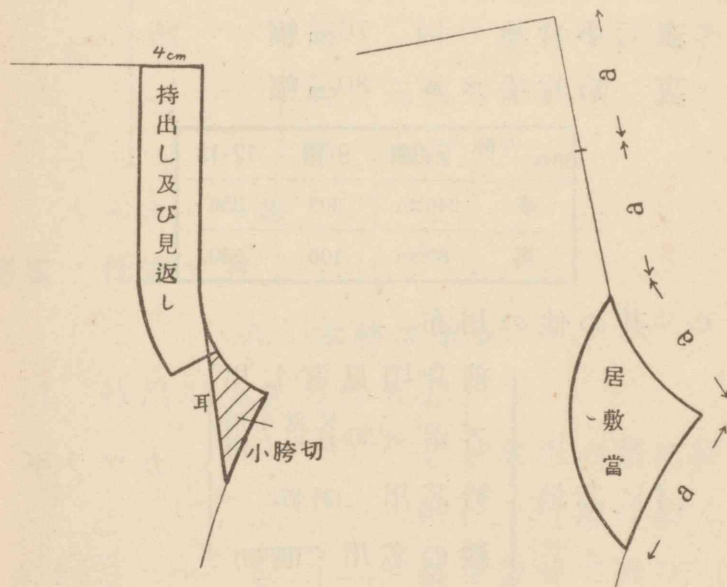
(ロ) 胯下寸法
通學服の胯下は
多少丈を長くし
た方がよい。



見返し幅は一定しないが普通裾の方を上より幾分狭くした方が形がよい。



(ハ) 持出し及び見返し、小胯切、居敷當



第四 布の裁ち方並に附屬品

a. 縫代の取り方

区分	身頃				衿	袖			ズボン
	裾	前脇	前肩	其他	全部	袖口	内袖幅代	其他	
衿	3cm			1	2	2		1	全に同じズボン
単衣	4cm	1.5	1.5	1	2	3	1.5	1	

単衣のときは、脊縫を耳にすること。

衿のときは、裏袖を表袖丈より袖附で1cm長く裁つ。

衿は、表裏共斜切にて取ること。

b. 用布の概算

表 小倉地 76cm 幅
裏 白片毛ネル 80cm 幅

用布	年齢	7・8歳	9・10	12・13
表		240cm	305	350
裏		80cm	100	130

c. 其の他の用布

(イ) 芯地 { 前身頃見返し用
ズボンの見返し用
 持出し用 } カツラギ
 { 衿芯用 (斜切)
 腰の芯用 (横切)
 袖口用 (斜切) } キヤラコ

(ロ) ズボンのポケット布 { キヤラコ、天
 竺木綿、スレ
 キ、毛襦子等

(ハ) { 腰裏
 ズボンの持出し裏
 見返し裏 } { キヤラコ
 縞キヤラコ
 毛襦子等

(ニ) 木綿テープ(前身頃前丈+見返し幅)×2
 キヤラコの耳を代用してもよい。

d. 附属品

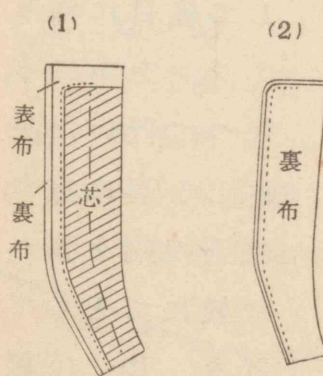
鈕 { 身頃 五個
 袖 四個 附けない場合もある。
 ズボン { 前 三個乃至四個
 腰 六個

ホック 一組

第五 仕立て方

A. 本胯ズボン

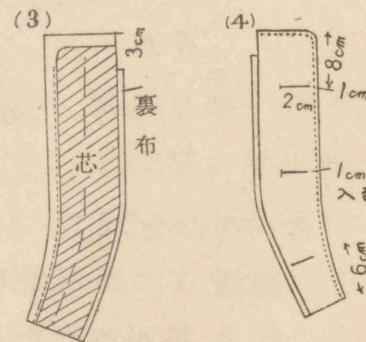
1. 持出し(前立)の作り方



芯を表布の裏に綴ぢ
付け、(1)圖の如く表
裏を合せて縫ひ、後、
表に返して飾りミシ
ンをかけること、(2)
圖の如くする。

2. 見返しの作り方

(3)圖の如く持出し
と反対の向きにし
て縫ひ、(4)圖の如
く穴縫をする。



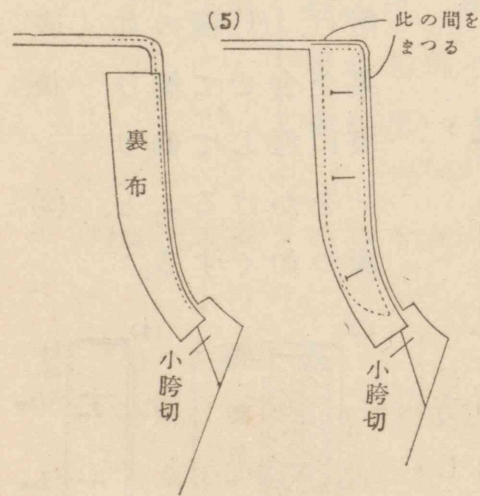
3. 小股切を綴ちつける。

4. 持出し付け。

右足の脛上に持出し表布を縫ひ合せ、折りは開き、其の上に芯地を重ね、持出し裏は上から2cmの所に切込を入れ、其の下を折り芯の端をくるみて飾りミシンをかける。(縫目の両端に)

5. 見返し附、

左足脛上に見返し裏を縫ひ合せ、表に返



して縫目に飾りミシンをかける。作つて置いた見返しを裏に重ね、脛上の端を揃へて躰にてとめて置き、後、(5)圖の如く抑へミシンをかける。

6. クセを取る

標通りに摘み縫ひ、折りは後に返して後飾りミシンをかける。

7. ポケット附

位置 } 型紙の通り
口の寸法 }

深さは口の寸法に同じ

付け方

右後に玉縁のポケットを付ける(69頁参照)

8. 後脛上縫ひ合せ

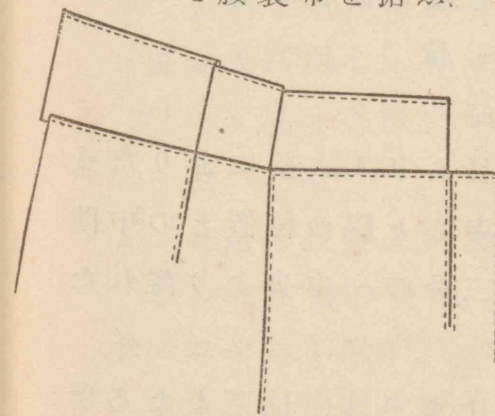
居敷當は左右を縫ひ合せ、周圍をまつり付ける。

9. 脇縫

折りは前に返し飾りミシンをかける。

10. 腰裏附

表に芯布を綴ち付け、出来上り線より折つて腰裏布を据ゑ、表から縫込の端に圖



の如くミシンをかける。

腰裏を裏に折り、上の端から3.5cm下つたところにミシンをかけてとめる。

11. 前胯上縫ひ合せ

八番のカタン糸にて半返し縫ひにし、其の糸にて留め際に巻き門をする。

12. 胯下縫ひ合せ

後の縫込にて前の縫込をくるみてミシンをかける。

折りは前に。

13. 裾の始末

三つ折にしてまつり附ける。

14. 巻き門をする。

後胯上留め際と、ポケットの左右とに。

15. 仕上げ

16. 釦附及び穴縫(持出し縫目中央に上から1.5cm下)

必要に應じバンド通しを附ける。

寸法	{	幅	1cm 位
		丈	4cm

位置	{	前	脇の縫目より1cm前によりたる所、前中心と脇の位置との中間
		後	後幅の三分の一中央より離れたる所
			ズボンの上より1cm位下りたる所

B. 上衣 (裕)

袖

1. 内袖と外袖とを縫ひ合せ、縫目を割る。

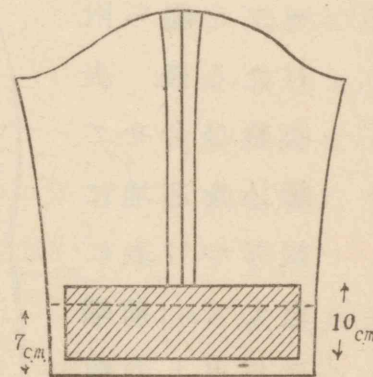
2. 芯地を袖口線に沿ふて置き圖の位置に表からミシンをかける。

3. 袖底を縫ひ合せ、縫目は割る。

4. 袖口を出来上り線の通りに折り、布の端を芯地に千鳥かけ。

5. 裏袖を縫ひ、縫目は割る。

6. 裏袖を弛めに表袖の縫目に綴ぢ合せて裏を表に返し、袖口裏を1.5cm位表よりひかへてまつり附ける、

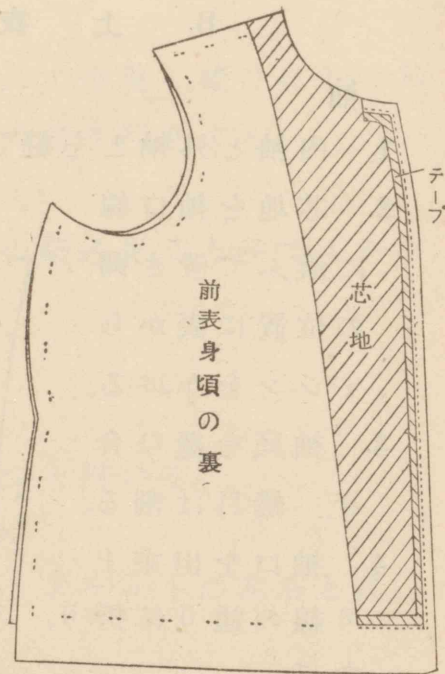


身頃

1. 見返し布の上に裏前布を重ね、抑へミシンにて縫ひ合す。

2. ポケット附
寸法及び位置は製圖の通り。

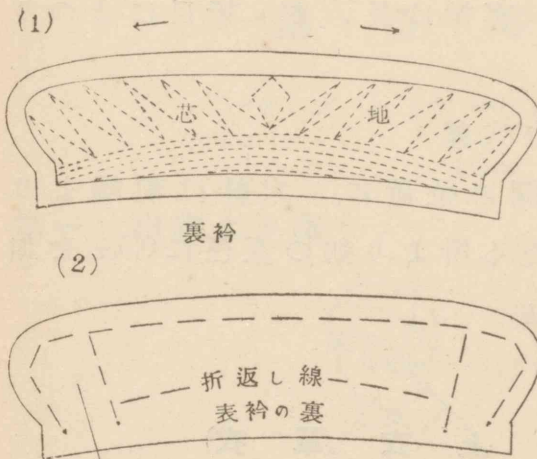
3. 右圖の如く
前表身頃の裏
に芯地及びテ
ープを綴ぢ附
けたる後、表
裏縫ひ合せて、
縫込を芯地に
綴ぢつけ表に
返して、前端
に見返しの幅
迄飾りミシン
をかける。



4. 表裏共脊縫、脇縫、縫目を割る。
5. 脊及び脇の中綴ぢ。
6. 裾のまとめ。

表を出来上り線より折り、縫込の端を千鳥掛でとめ、裏を1.5cm位表よりひかへて折り、奥まつりにする。

7. 肩合せ、
縫目は割る。裏は後を高くしてまつる。
8. 衿拵



此所で表を
ゆるめる

り山より上を軽く湿らし、矢の方向に伸ばす。

(ニ) 表裏を(2)圖の如く三方綴ぢたる後、縫ひ合せ(衿附1cmの間は縫ひ残す)縫込の始末をして表に返し、飾りミシンをかける。

9. 衿 附

裏衿を表身頃の方に合せて縫ひ、前兩端にホック(右に輪、左に鉤)を丈夫に付け、表衿を裏身頃にまつり付ける。衿附止まりに卷門をする。

10. 袖 附

身頃のすわりと前袖の縫目とを合せて表

(イ) 型紙通りに芯地を裁つ。

(ロ) (1)圖の如く芯地を裏衿にあて、刺し縫ひをする。

(ハ) 表裏共折

袖をつけ、裏袖は長いまゝ、縫目にまつり
附ける。

11. 釦附及び穴縫

出来上り圖の位置に。穴縫は前端より
1.5cm入りたる所より釦の直径に0.5cmを加
へたる寸法。

12. 仕上げ。

C. 上衣 (單衣)

袷と異なる点のみ記す。

1. 縫込の始末

總て縫目は片方に返す。即ち袖は外袖に、
脊縫は左に、脇縫及び肩の縫目は後に、
縫代の端を折つて飾りミシンをかける。
但し、袖底は表にミシンを出さない。

2. 見返し

芯地はキヤラコ位の地質を入れ奥は前身
頃に縫ひつける。

3. 袖口、裾

三つ折りにしてまつる。

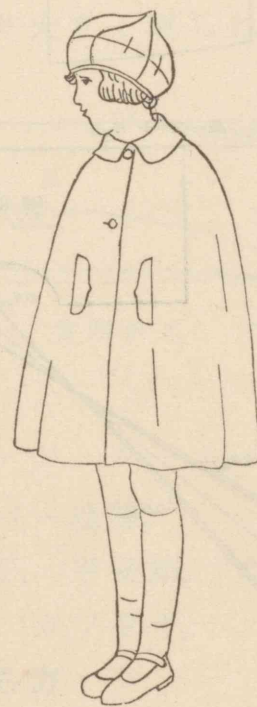
4. 袖付けの縫込のまとめは女兒服に同じ。

第 五 章

マント (ケープ)

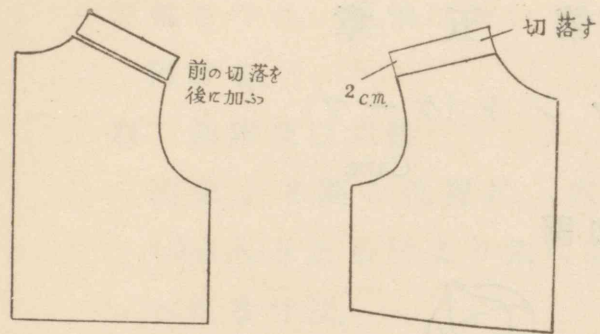
Cape

第一 出来上り圖

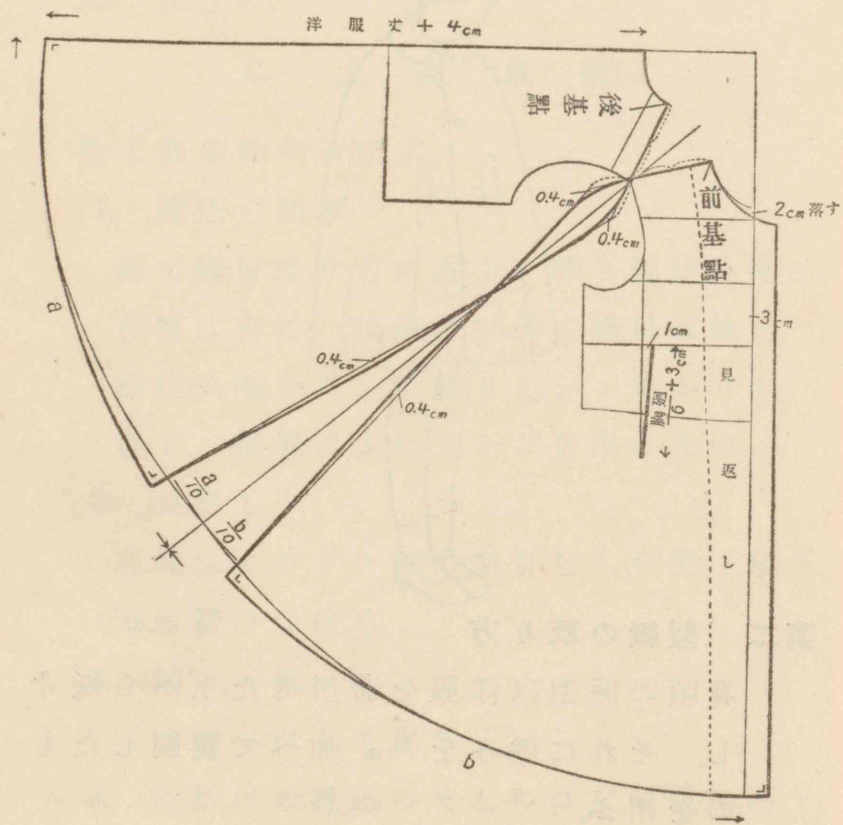


第二 型紙の取り方

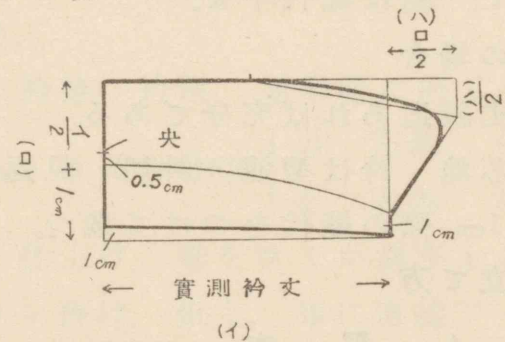
身頃の原型は洋服を著用した上から採寸
し、それに弛みを8cm加へて製圖したも
のをうふ。



肩の縫目を前
によせるため
圖の如く裁ち
直す



1. 和服の上に着用するものは、前衿肩の
顛下りを更に大きくあける。
2. 總じて子供物の衿刳は、割合に大きく
した方がよい。殊に深毛の袷を用ふると
きは厚みに取られて衿廻が小さくなるか
ら思ひ切り大きく取らねばならぬ。



第三 地質

表 { ビロード、シール、メルトン、羅紗、
オーバー地等。
裏 毛織子、甲斐絹、サテン等。
芯地、麻、カツラギ。

第四 布の裁ち方

- a. 縫代の取り方
裾 3cm 位
他は全部 1.5cm
衿は表裏共斜切を用ふ。

b. 毛並のあるものは、布が不経済になつても裁ち違ひにはいけない。

c. 裏用布

總裏の場合

見返しの部分を除き他は表に同じ。
但し、裾は縫代不要。

半裏の場合

胴丈線迄あれば充分である。

d. 芯地 衿は型通り(斜切) 見返しは全部 1cm 強の縫代をつけて裁つ。

第五 仕立て方

A. 単衣 (肩裏附)

1. 切躰をする。
2. 脇及び見返しの奥に玉縁を付ける。其の方法は斜切を中表に縫ひ付け、縫代を 0.3cm に裁ち切り斜切を裏にかへして、落としミシンをかける。(裏の附く所は省く)
3. 見返し附
芯の入れ方、縫方共通學服に同じ。
4. 脇縫。縫目は割る。
5. 裾の縫代を標通りに折り濕布をあてて

アイロンにて縮め、後、玉縁をつけてまつり付ける。

6. 見返しの奥をまつり付ける。
7. 裏の脇縫、縫目は割る。
8. 裾に斜切で見返しをつける。
9. 脇綴ち及び前裏を見返しにまつり付ける。
10. 衿拵、衿附、通學服に同じ。

ホックの付け方 { 男 左鉤 右輪
 女 右鉤 左輪

11. 仕上げ 霧を吹くか濕布をあて、アイロン掛け、但し、布に直接アイロンをかけてはいけない。
11. 穴紐、及び釦附。

釦の数は時の流行により、一個乃至三個位にする。

【注意】手出しをつけるときは、型紙の位置に、蓋附かくしを付ける方法によつてする。

B. 袷

単衣と異なる點は、

1. 玉縁を付けないこと。
2. 裾の始末を袷通學服のやうにすること。

第六章

オーバーコート
Over-coat

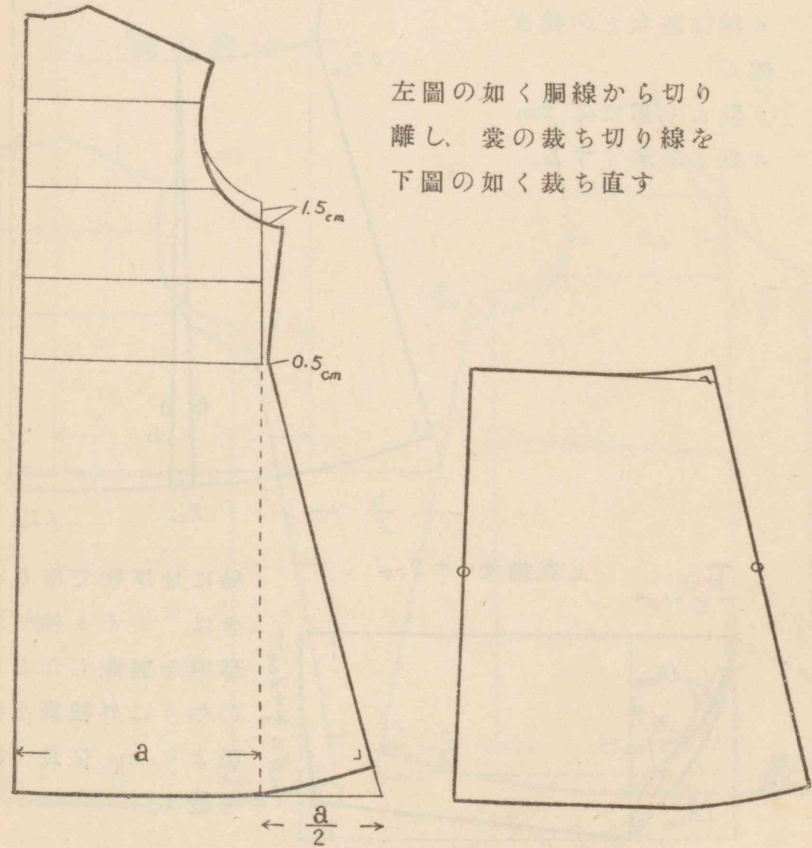
第一 出来上り圖



第二 型紙の取り方

身頃の原型は洋服を着用した上から採寸し、それに弛みを8cm加へて製圖したものを
用ふることは、ケープの場合に同じ。

(1)圖の場合



左圖の如く胴線から切り離し、裳の裁ち切り線を下圖の如く裁ち直す

點線は見返し。

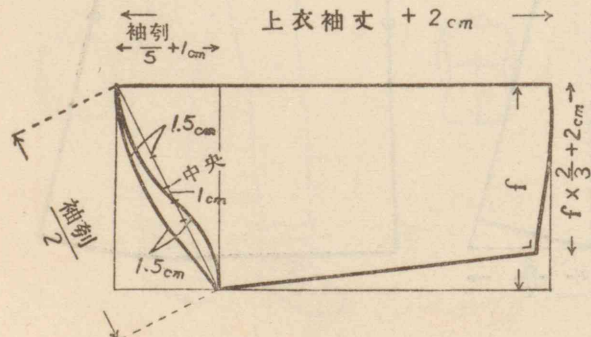
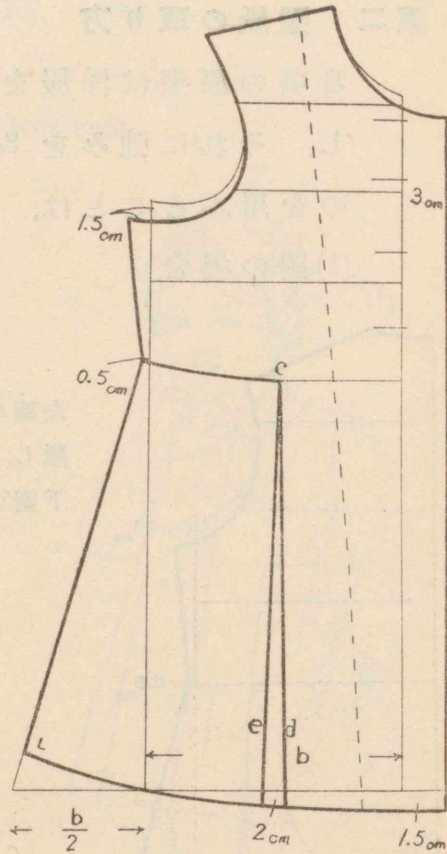
c 點は原型の前幅の中心より 1cm. 位中央によせる。

d 線は前脇布線で c 點より真直に。

e 線は脇布との接ぎ線で

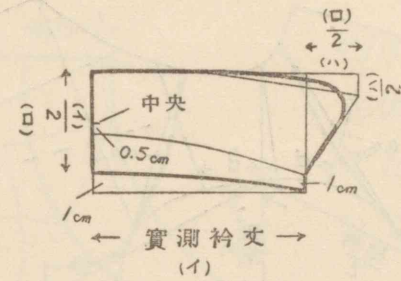
c 點より裾にて 2cm

d 線より廣くする。

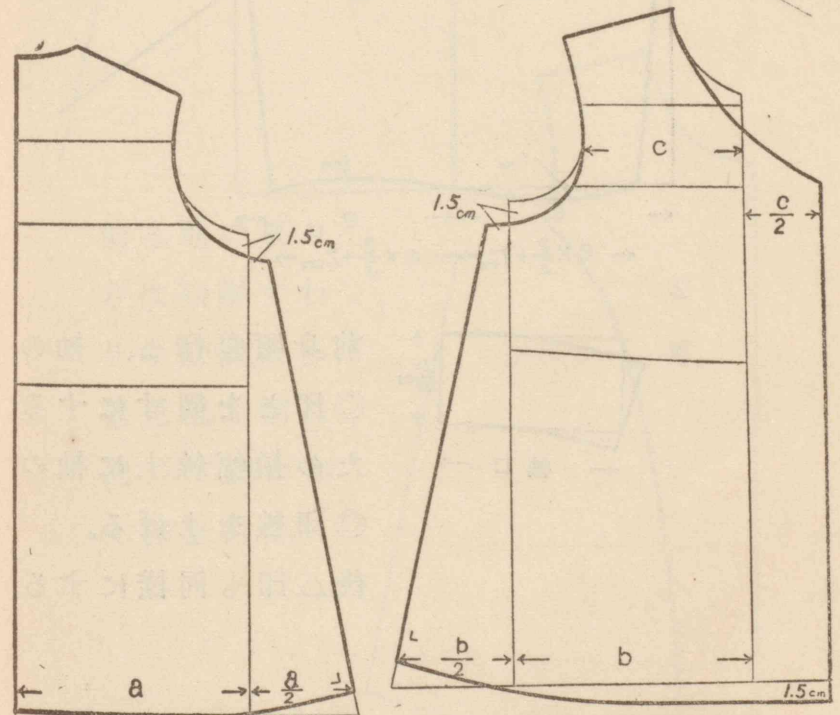


上衣袖丈 + 2cm

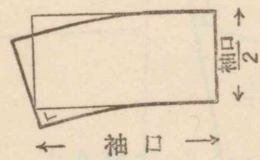
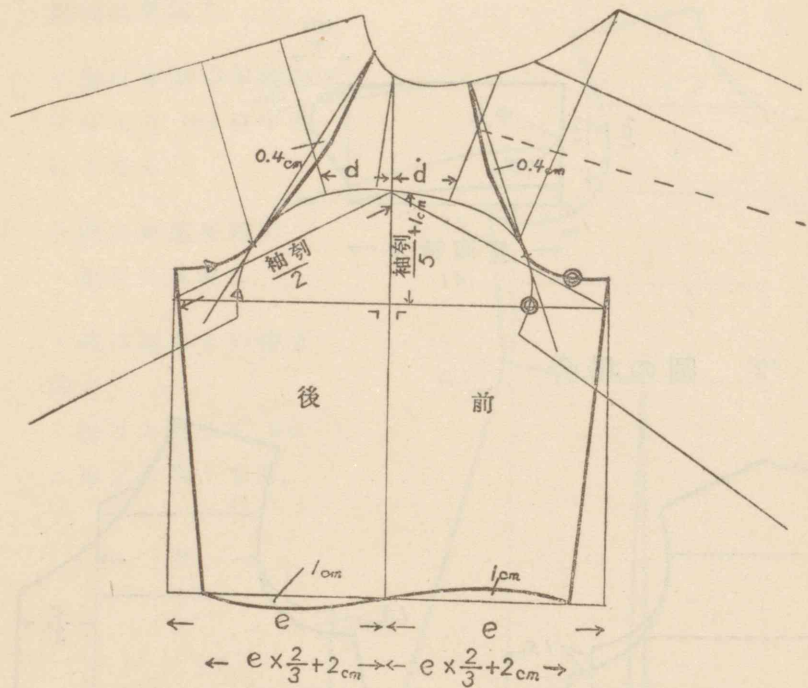
特に地厚物で作るときは、タイト袖(81頁参照)を製圖したときのやうに外袖底を内袖より 3cm 位長く裁ち置く。



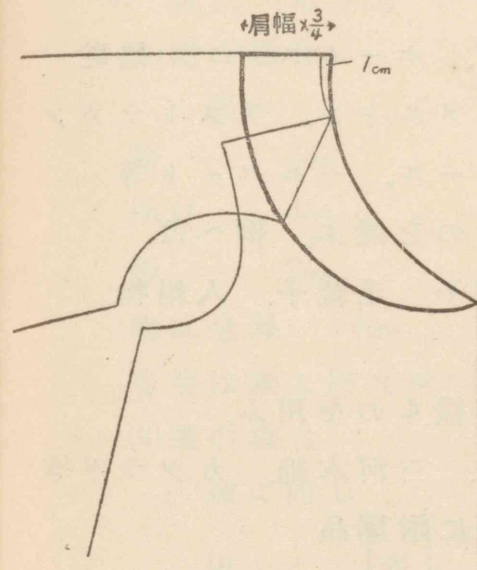
(2) 圖の場合



身頃原型の脇線は身幅の中央とす。

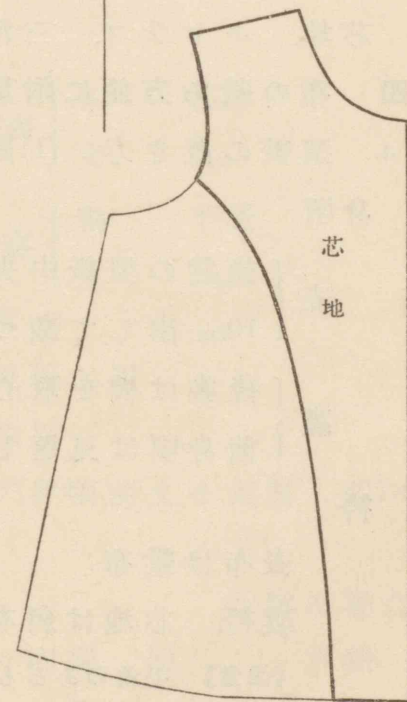


前身頃◎印と、袖の◎印とを同寸にするため袖幅線上に袖の◎印線を上げる。後△印も同様にする。



衿は左圖の如く前後型紙が直角になるやうに重ねて取る。

前芯地の取り方は袖附すわりの位置から裾見返し幅に向つて圖の如く線を引く。



第三 地質

表 { トウキード、ホームスパン、駱駝
スコッチ、メルトン、アストラカン、
モヘヤ、シール、ベルベット等

裏 { 滑りよきものを選ぶ。例へば、
羽二重、糯子、毛糯子、人絹物、
綾織等。
無地又は模様ものを用ふ。

芯地、キヤラコ、三河木綿、カツラギ等

第四 布の裁ち方並に附屬品

a. 型紙の置き方 (1)圖の場合

身頃

表 { 後裳の型紙中央より布を 8cm 乃至
10cm 出して裁つ。

裏 { 後裳は襷を取らない。
前身頃は見返し幅を除いて裁つ。

衿

表布は縦布

裏衿、芯地は斜布

【注意】 毛並のあるものは注意して型紙を置く
こと

b. 縫代の取り方

(1)圖の場合

表		裏	
裾	4cm	裾	縫代不要
袖口	3cm	袖 {	袖口 同上
衿	2cm		袖附
他は全部	1.5cm	他は全部	1.5cm

芯地は表と同寸(ゆつくり)

(2)圖の場合

(1)圖に同じ

但し	カフス	表 {	幅	2cm
			丈	1cm
		裏 {	幅	不要
			丈	1cm

c. その他の用布

(イ) 芯地 { 前見返し用
衿芯用

(ロ) 木綿テープ(身頃前丈+見返し幅)×2

d. 附屬品

(1)圖の場合

(2)圖の場合

釦、直徑2cm位のもの 四個 同 六個
ホック 一組 スナップ二組

第五 仕立て方

(1) 圖の場合

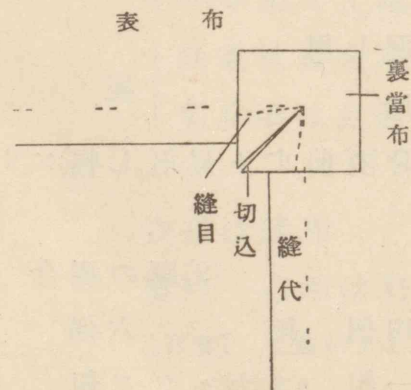
出来上り線に切躰をする。

袖

1. 表裏の袖底を縫ひ、縫目を割る。
但し外袖底が内袖より長く裁つてある場合は、肱の位置即ち袖底の中央で外袖に縫ひしめをして内袖丈と同寸法になし、後、濕りを與へてアイロンをかけて皺を消す。
2. 縫目を綴ぢ合す。(裏袖を弛めに)
3. 袖口は裏を表より 1cm 控へてまつる。

身頃

1. 前身頃と前脇布とを表裏各々縫ひ合す。

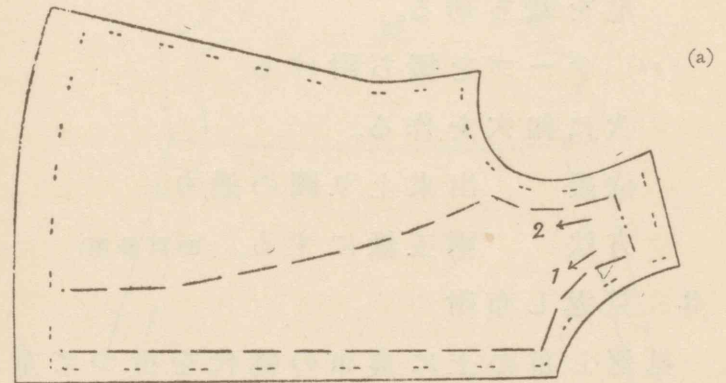


折りは身頃を高くする
角の始末は圖のやうにする。
此の線は中から縫はず表に飾りミシンをかけてもよい

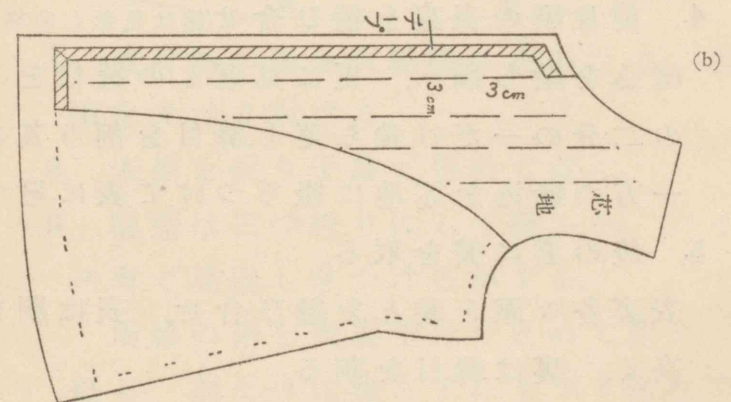
深さは 1cm 内外

2. 前身頃に芯地の入れ方

(イ) 芯の上に前身頃を重ね表布を少々吊



り加減にして(a)圖の如く躰をかけ(b)圖



の如くあらく刺す。

【注意】糸は羽二重糸がよい。

刺すときは表布の厚みを抄つて表に針目を

出さぬやうにすること
針目の目立つものは刺さゝない方がよい。

(ロ) 前端と裾とを出来上り線の通りに芯地を裁ち切る。

(ハ) テープを綴ぢ付ける。

次に釦穴を作る。

位置 出来上り圖の通り。

方法 兩玉縁にする。(69頁参照)

3. 見返し布附

見返し布の上に裏布の縫代を折つて重ね抑へミシンをかける。

4. 前身頃の表裏を縫ひ合せ(裾は見返しの端迄)縫込を裁ち揃へ、更に見返しの縫代を其の二分の一だけ裁ち落とし縫目を割り其の一方の縫込を芯地に綴ぢつけて表に返す。

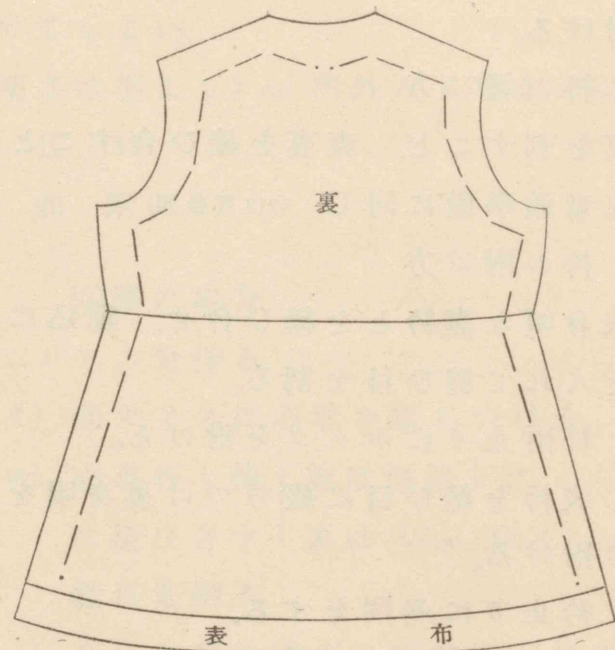
5. 後の裳に襷を取る。

表裏各々胴と裳とを縫ひ合せ、表は胴を高く、裏は縫目を割る。

表裏を次頁の圖の如く綴ぢる。

6. 表脇縫

縫目を割る。



7. 後身頃の裏を表脇縫に綴ぢつけ、前身頃をまつり付ける。

8. 表裾を折り千鳥で留めて置く。

9. 裏裾は三つ折りにして縫ふか、バイヤス布で見返しをつけるかする。

兩脇の裾を表裏千鳥でとめて置く。

但し、前だけは離さずにまつり付けてもよい。

10. 肩合せ

表は縫目を割り裏は後を高くしてまつり

附ける。

11. 衿の縫ひ方

裏を刺すこと、表裏を縫ひ合すこと總て
兒童通學服に同じ。(213頁参照)

12. 衿の附け方

表身頃と裏衿とを縫ひ合せ、縫込に切込
を入れて縫ひ目を割る。

衿附止りにホックを附ける。

表衿を縫ひ目に綴ぢつけ裏身頃をまつ
り附ける。

衿止りに卷門をする。

特に地厚物でほつれ難い布の場合は、表衿と表身
頃とを合せて縫ひ縫目を割り、裏身頃を綴ぢつけ
て裏衿は出来上り線に裁ち切り細かく千鳥をかける。

13. 袖 附

表身頃と表袖とを縫ひ合せ縫目を割り、
裏身頃を袖附に綴ぢて後、裏袖をまつり
つける。

14. 釦穴の裏に切込を入れ穴の周圍をまつ る。

15. 身頃前端は手で刺しても、ミシンをか

けてもよい。

深さは端より1cm 内外入りたるところ

16. 仕上げ

17. 釦 附

(2)圖の場合

1. カフスを作る。

(イ) 表カフスに芯地を綴ぢつける。

(ロ) 表裏各々輪 { 表は標通りに
に縫ひ合す { 裏は0.2cm 深く
縫目を割る。

(ハ) 表布を芯地通りに折つて芯地にまつ
りつける。

(ニ) 裏の幅を表より1cm づつ控へてまつ
りつける。

2. 前身頃

芯の据ゑ方、テープの入れ方、前端釦穴
の作り方、前端のまとめ方等(1)圖の場合
に同じ。

3. 後身頃

表裏を重ねて綴ぢる。

4. 袖 附

表前後の身頃と表袖とを各々縫ひ合せ、縫目を割る。裏も同様。

5. 袖底及び脇縫、

表の袖底と脇とを續けて縫ひ、縫目を割る。

裏の後袖底及び後身頃を縫目に綴ぢ付け裏の前袖底及び前身頃を縫目にまつり付ける。

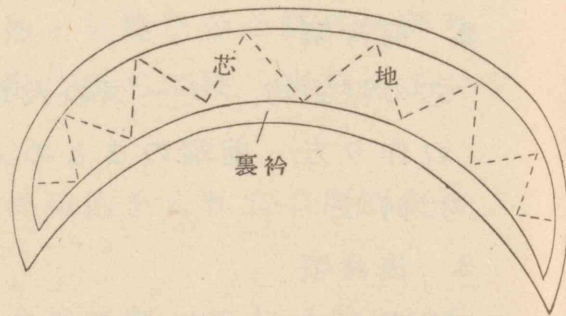
6. 裾の始末

表裾を折り千鳥でとめ、裏は 2cm 位控へて折り奥まつりをする。

7. 袖のまとめ

袖口を折り千鳥でとめ、裏を 1cm 控へてまつる。

カフスを袖に嵌め袖口より 1cm 出してま



つる。

8. 衿拵 圖の如く裏衿に芯を重ねて刺す。表衿を少々弛めて裏衿と合せ外廻りを縫ひ、縫込を芯に綴ぢ付けて表に返す。

9. 衿 附

衿は(1)圖の如く付ける。(232頁参照)

但しホックは附けない。

10. 釦穴の裏に切込を入れ穴の周圍をまつる。

11. 身頃前端にミシンをかけるか又は、手刺しにしてもよい。

12. 仕上げ

13. 釦及びスナップ附。

第七章 前掛

Apron

第一節 子供前掛

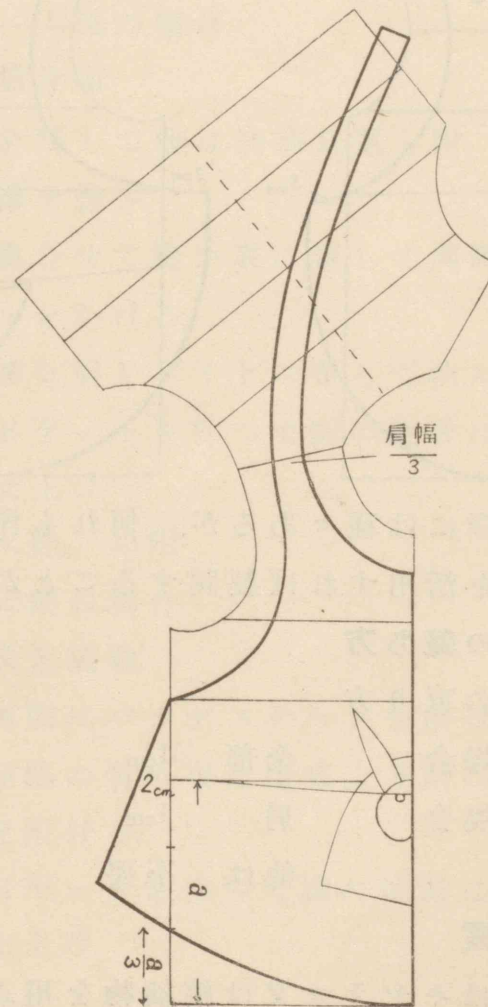
第一 出来上り圖



第二 型紙の取り方

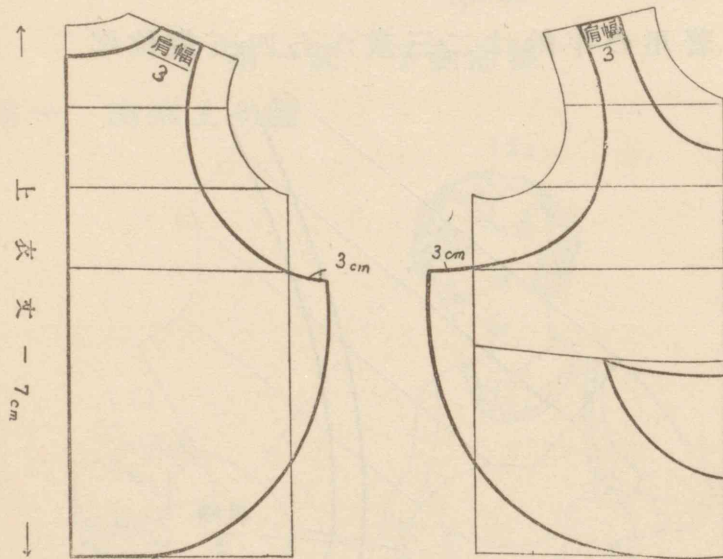
(1) 圖の場合

著用の年齢は二・三歳から四・五歳位迄



(2)圖の場合

着用年齢は(1)圖に同じ。



前掛の形には種々あるが、何れも洋服の身頃原型を活用すれば製圖することが出来る。

第三 布の裁ち方

縫代の取り方

(1)圖の場合	全部	1cm
(2)圖の場合	肩	1cm
	他は	不要

第四 地質

(1)圖はキヤラコ又は縞柄物を用ふ。

(2)圖はキヤラコを用ひ縁布としてバイヤス布の色物又は柄物を用ふ。

第五 仕立て方

(1)圖の場合

1. 前身頃
肩を残して他は全部見返し附。
2. 襟を縫ふ。
表裏合せて縫ひ表に返して周圍に飾りミシンをかける。
3. 襟を肩とバイヤス布とで挟んで附ける。
4. ポケットを作つて圖の位置に附ける。
5. 仕上げ
6. 穴紐、釦附

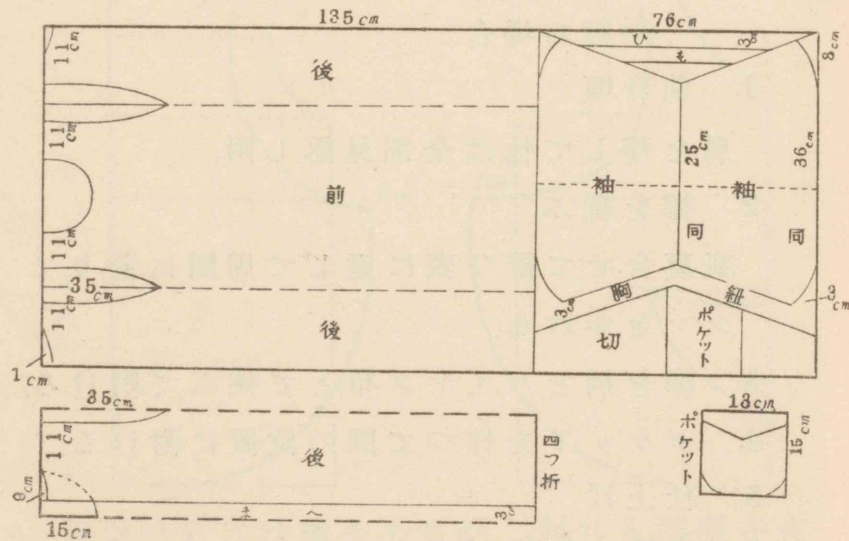
(2)圖の場合

1. 肩を袋縫
2. 周圍にバイヤステープを附ける。
3. 兩脇の留め布は出来上り圖の如く持出しを附ける。
4. ポケットを作つて圖の位置に附ける。
5. 仕上げ。
6. 穴紐、釦附。

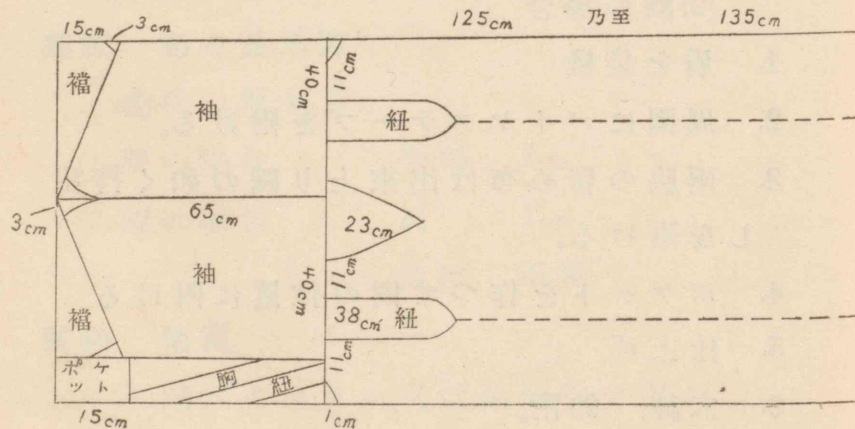
第二節 割烹前掛

第一 裁ち方総合圖

1. 用布 キヤラコ 211 cm



2. 用布 キヤラコ 190 cm 乃至 200 cm



分解圖は(1)に同じ。

【注意】

幅のせまい物を用ふるときは後衿肩明に襷として足し切れをつける。

第二 地質

キヤラコ、ギンガム、朝鮮木綿等。

第三 仕立て方

1. 袖下縫ひ、袋縫とする。但し、袖口にテープを通すときは、袖口明を6cm 三つ折りとする。又ゴムテープを通すときは先迄縫ふて置く。(2圖の場合は袖に襷を入れて折伏せ縫をする)
2. 袖口を三つ折縫、中にテープ又はゴムテープを通す。
3. 身頃の裾伏、出来上り幅4cm 位。
4. ポケット附。
5. 肩合せ、袋縫、折りは後に。
6. 袖 附、折りは身頃の方に。
7. 衿廻及び腰に紐を附ける。
8. 仕上げ。

第八章

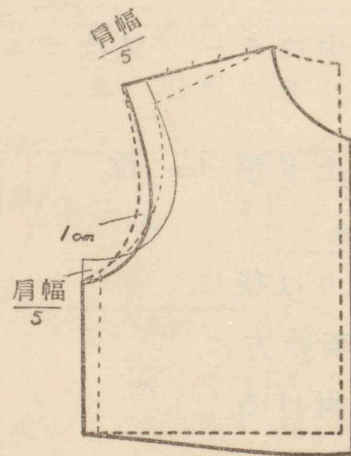
シャツ

第一節 男児運動シャツ

第一 出来上り圖



第二 型紙の取り方

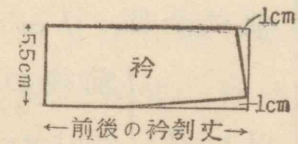
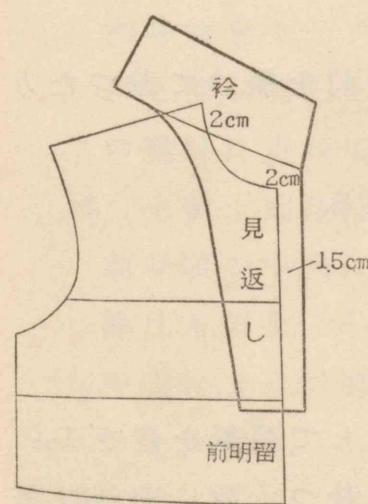
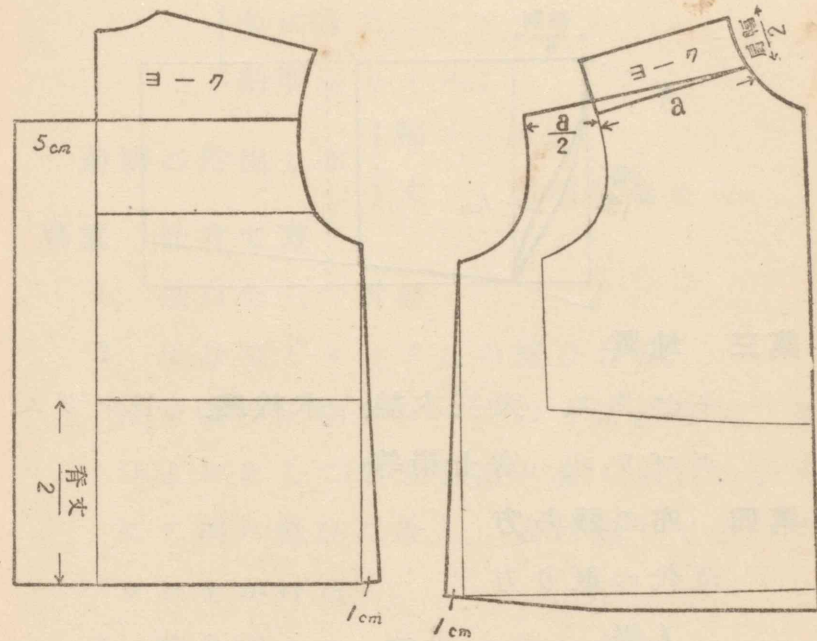


前後身頃の原型を重ね
圖の如く引き伸す。

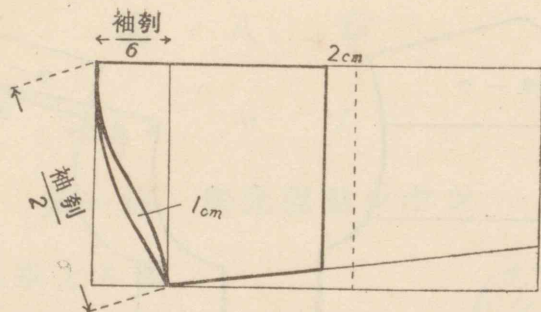
前は實線

後は點線

肩線 } は前後とも前の
脇線 } 型紙線



前衿割りを肩の方は 2cm
下つたところと下は 2cm
上つたところとを直線で
結び此の線上に圖の如く
衿を重ね、表衿は見返し
と續けて裁つ。



第三 地質

キヤラコ、天竺木線、木線縮、ギンガム
ポプリン、富士絹等

第四 布の裁ち方

縫代の取り方

身頃	裾	3 cm
		他は全部 1 cm
	ヨーク	前後の肩を續けて裁つた方がよい。 二枚取る。
袖	袖口	3 cm
	他は全部	1 cm
衿	下衿全部	1 cm
	表衿は後を輪にして型紙を置き	1cm
	の縫代を附けて裁つ、故に前端は斜	

布になる。
前明留り + 3cm

前明の持出し布 { 幅 4cm
丈 前明留り + 3cm

第五 仕立て方

1. 袖口を三つ折縫
2. 後身頃とヨークとの縫ひ合せ。
後身頃の上端をヨークの寸法に合せ、縫ひよせをして(中央を少々多く)肩當の表裏にて挟み縫ひになし、表に返して飾りミシンをかける。
3. 前身頃とヨークとの縫ひ合せ。
前身頃をヨークの寸法に縫ひ縮め裏ヨークと前身頃とを縫ひ合せ、表ヨークを其の縫目に重ねて飾りミシンをかける。
4. 上前下前に持出し布を附ける。
前身頃の中央に、前明留り迄缺を入れ、縫代身頃を 1.5cm 持出し布 0.5cm として中表に合せて縫ひ、表に返して飾りミシンをかける。
5. 衿 附

(イ) 身頃の表に下衿を縫ひ合せ、縫代に切込を入れ折りは衿の方に返す。

(ロ) 下衿と表衿とを合せ、前明も(持出し布)續けて縫ふ。

(ハ) 衿を表に返し周圍に飾りミシンをかける。

衿及び見返しの奥の方を落ちつけてまつる。

(ニ) 前明留の始末

6. 袖 附

折りは身頃の方に返し、折伏せにして飾りミシンをかける。

7. ポケット 附

寸法及び位置は(148頁参照)

8. 袖底及び脇縫

袖底と脇とを續けて縫ひ、折りは後の方に、縫込の始末は袖附に同じ。

9. 裾の三つ折縫

10. 仕上げ。

11. スナップ、釦 附

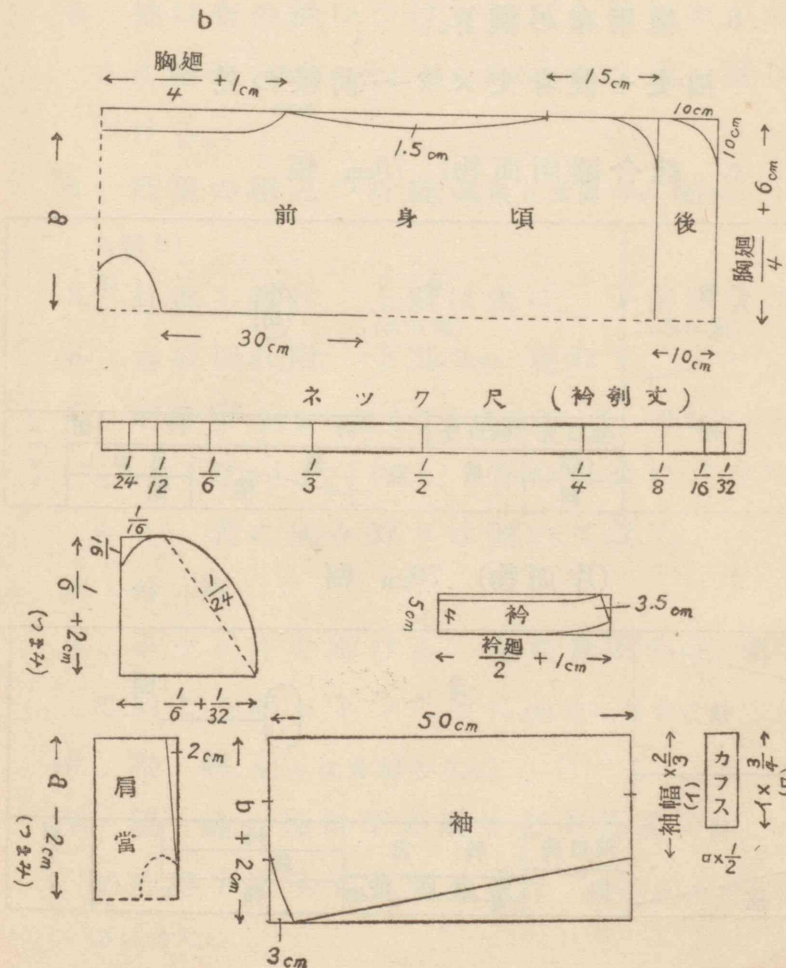
裾にゴムテープを通す。

第二節 普通シャツ(大人物)

第一 普通寸法

胸廻 90cm 後身丈 83cm 袖丈 50cm

第二 型紙の取り方



第三 地質

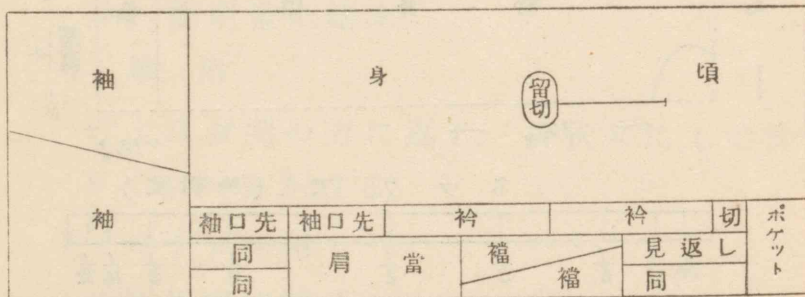
キヤラコ、縮、天竺金巾、ネル等。

第四 布の裁ち方

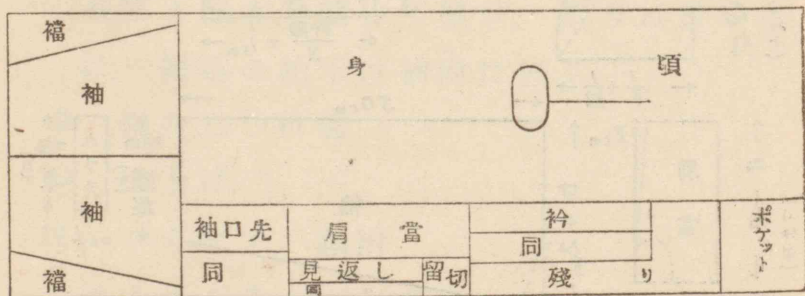
- 縫代は全部取らない。(1cmの縫代が入れてある)
- 總用布の概算、

袖丈 + 後身丈 × 2 - 前後の差
8cm

- 總合圖(兩面物) 76cm 幅



(片面物) 76cm 幅



第五 仕立て方

- 袖口先を縫ふ。
- 袖襷付け(折りは袖の方に)後、袖口明、7cm を三つ折縫。
- 袖口布の縫ひつけ。袖口を袖口布の長さに縮め(袖山の方に割合多くよせて)後、縫ひつける。
- 前後の裾三つ折縫(馬乗りは前15cm 後23cm の裁ち切り)
- 見返し付け、上前は表に、(3cm 幅) 下前は裏に、(2.5cm 幅)
- 留め切れ附、下部 2cm 重ねて。
- 肩當附(衿肩は繰らざる儘付け、後、衿を付けるとき裁ち切ること)但し、脊の中央にて身頃を 2cm 表に摘み折りは開いて置く。
- 衿 附
- ポケットを付ける。左前身頃の中央にて肩より 26cm 下つた所に(兩角に門留めをする)
- 袖 附(折りは身頃の方に)
- 脇 縫。袖口下の明きより馬乗り迄、始め終りともよく留め置くこと。(折りは後身頃の方に)

12. 門留。左右の袖口明元、兩馬乗上、留め切れの上。

13. 穴かぶり、外袖(幅の中央端より1cm入った所に一つ若しくは二つ)衿(見返し穴に揃へて一つ)上前(見返しの中央に三つ)に各、1.2cmの穴をあけてかぶり置く。

14. 釦附、内袖、衿 下前見返し。

15. 仕上げ。

第三節 ワイシャツ(大人物)

第一 地質

キヤラコ、ポプリン、麻、富士絹、羽二重、英ネル等。

第二 裁ち方積り方

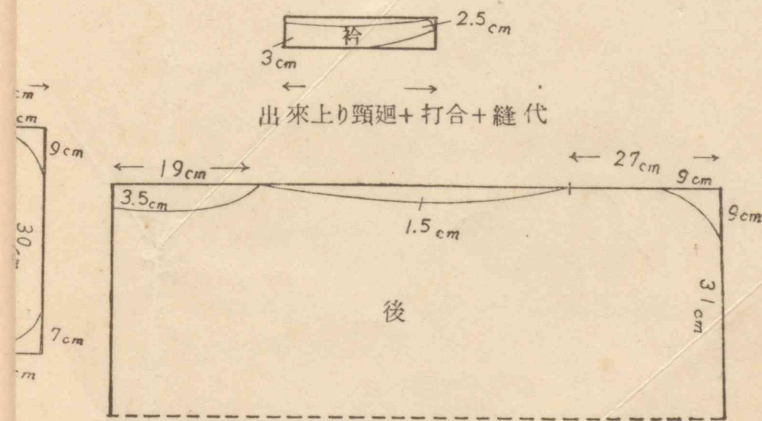
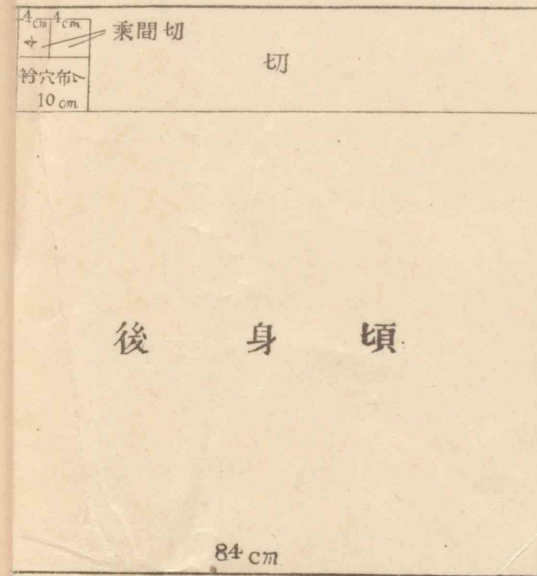
総合圖及び分解圖別紙の通り。(縫代は全部0.5cm入つてをる)

第三 仕立て方

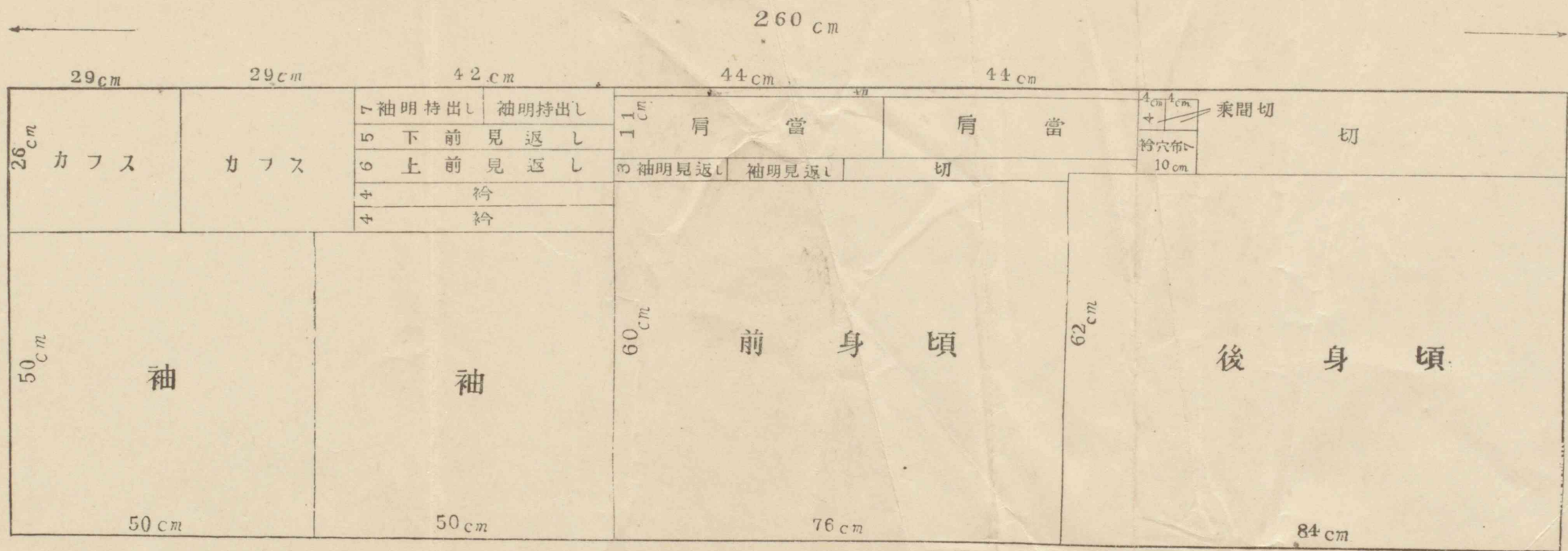
袖

1. 口明の見返し及び持出し附。

(イ) 口明見返し布の表と外袖側の裏とを合せて縫ひ、折りは見返し布の方に、縫代の端を折り山として表に返し幅を

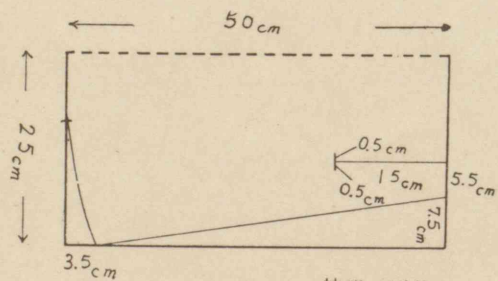


注意 全部縫代が含まれてゐる

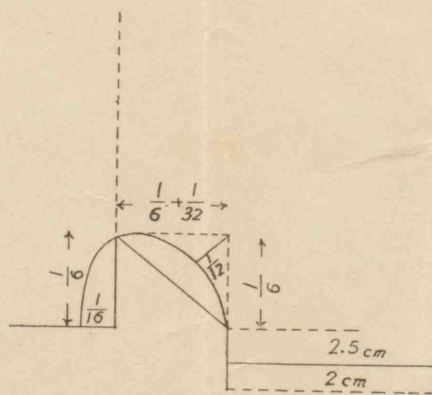


積り方

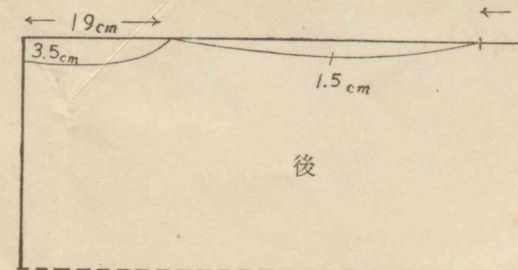
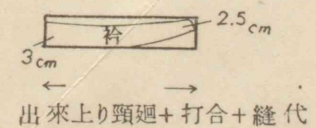
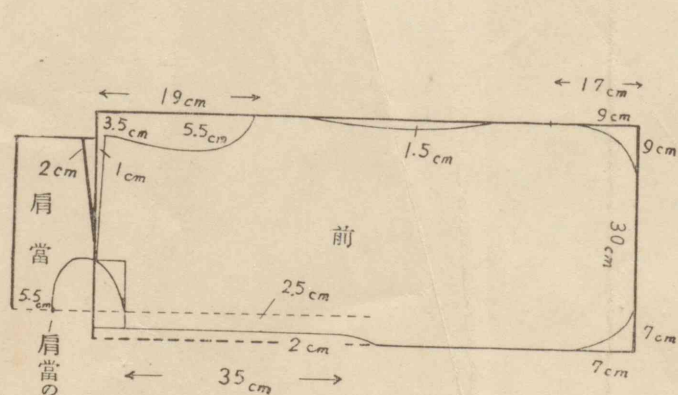
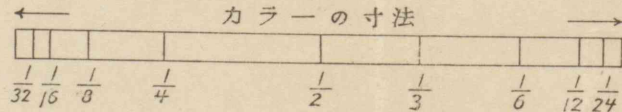
$$\text{袖丈} \times 2 + \text{前身丈} \times 2 + \text{前後の差} = \text{總丈}$$



袖明の切込は
後袖のみ入れる

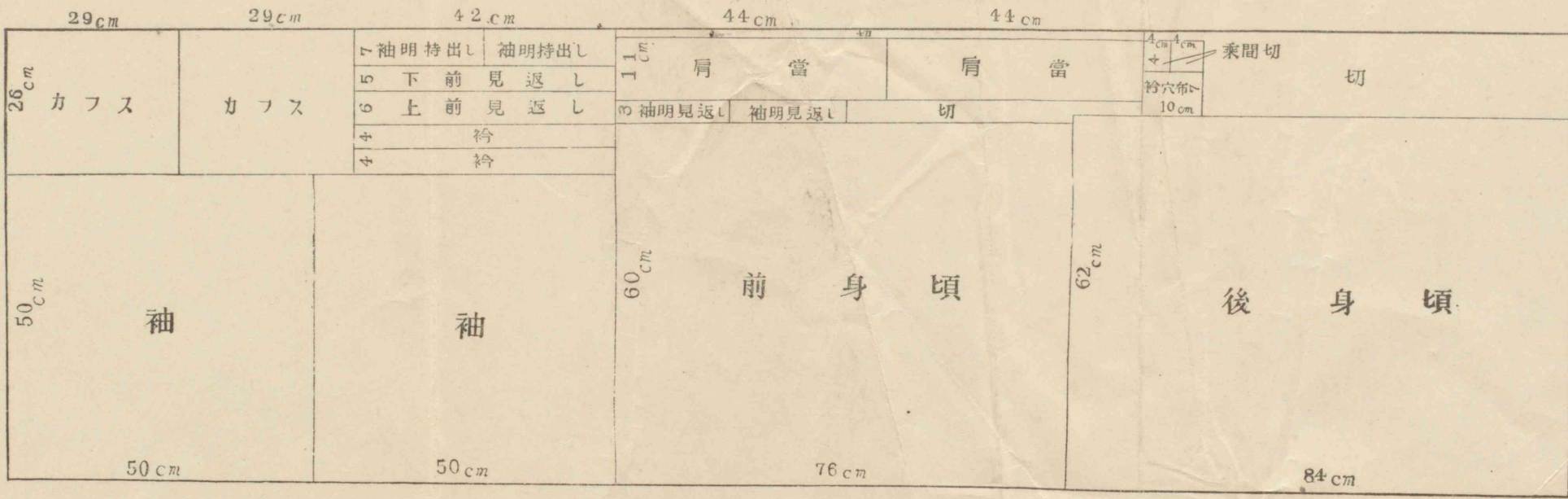


ネック尺
カラーの寸法

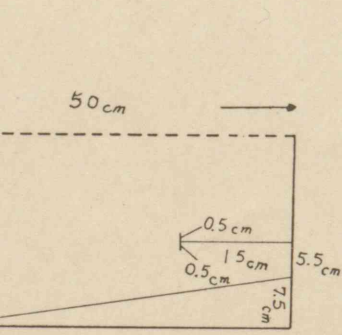


注意 全部縫代が含まれて

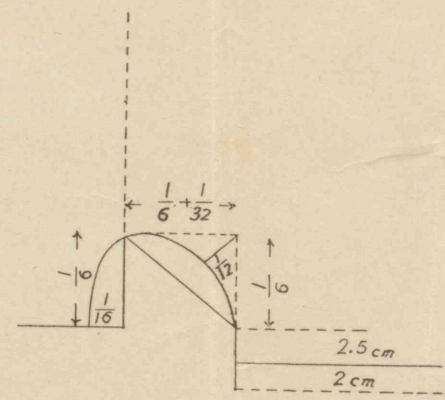
260 cm



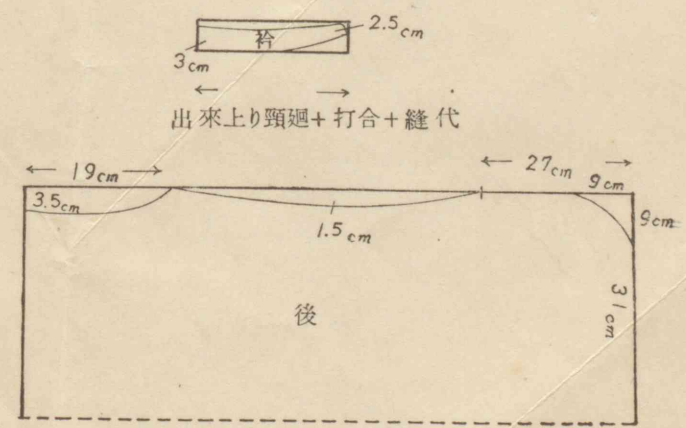
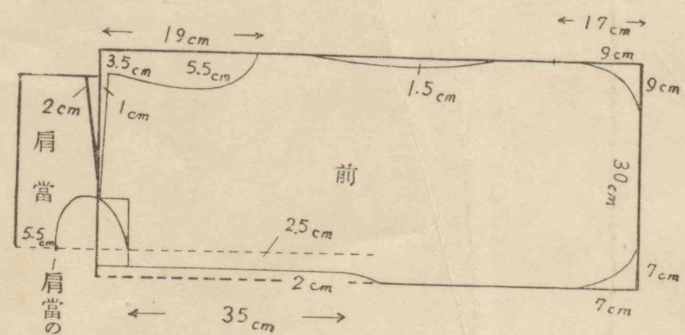
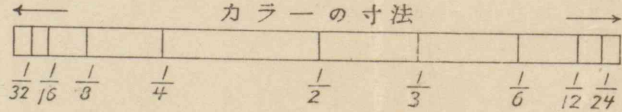
積り方 袖丈 × 2 + 前身丈 × 2 + 前後の差 = 總丈



袖明の切込は後袖のみ入れる



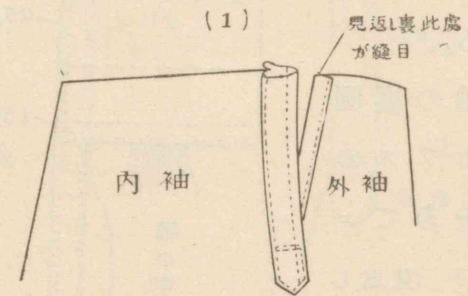
ネック尺 カラーの寸法



注意 全部縫代が含まれてゐる

(2cm) 定めてミシンをかける。

(ロ) 持出し布の表と内袖側の裏とを合せ



て縫ひ、折りは持出しの方に返し幅を
(3cm) 定めて表に返し(1)圖の如く飾りミ
シンをかける。

(ハ) 左右の袖底を縫ひ合せ、折りは外袖
の方に。

縫込は折伏せ縫として飾りミシンをか
ける。但し、袖丈の二分の一迄。

2. カフスの付け方。

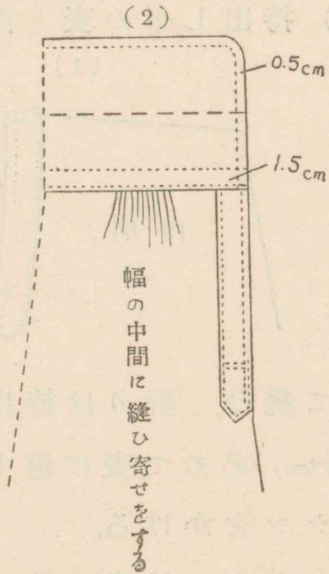
(イ) カフスを中表にし表になる方に芯地
を重ね三方を縫ふ。

(ロ) 芯地の縫代は縫目の際より裁ち落し
折りは裏の方に返して後、表に返して
襷をかけて置く。

(ハ) 袖口をカフスの寸法に合わせて(2)圖の

如く縫ひ縮める。

(ニ) 袖の裏側にカフスの表をあて、縫ひ(見返しは裏に折り曲けて)表に戻して(2)圖の如く飾りミシンをかける。



身頃

1. 前後共裾の三つ折縫。

2. 見返し付け。

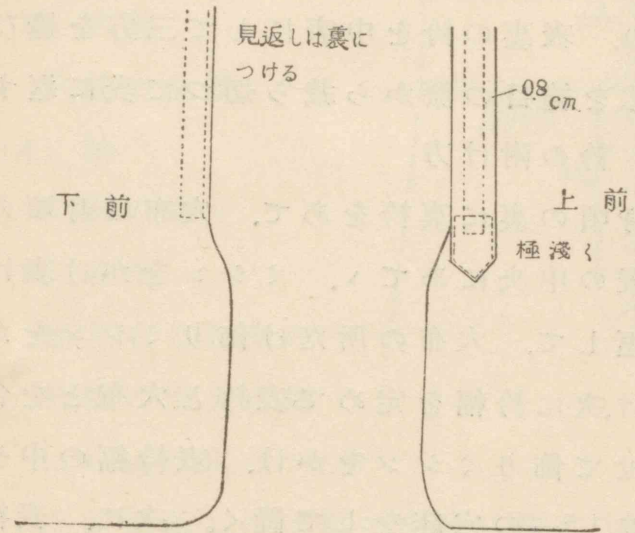
253頁(3)(4)圖の如くする。

3. 肩當と後身頃との縫ひ合せ。

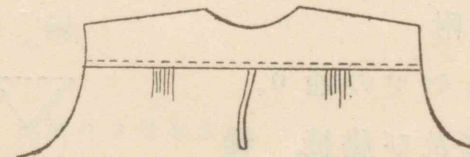
肩當の幅に身頃を縫ひ縮め、肩當にて身頃を挟み、(極細いテープ7cm位を身頃の中央につけて)次の第(5)圖の如く縫ふ。

(3)

(4)



(5)



4. 肩當と前身頃との縫ひ合せ。

身頃と裏肩當とを縫ひ合せ、其の縫目に表肩當を重ねて飾りミシンをかける。

5. 衿の縫ひ方及び付け方。

(イ) 衿拵

衿と同形に芯地を裁ち表衿に芯地を重ね、表裏の衿を中表にして三方を縫ひ、芯を縫目の際から裁ち切つて表に返す。

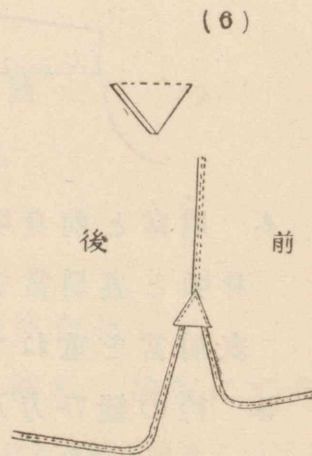
(ロ) 衿の付け方

身頃の裏に裏衿をあて、穴布は身頃の表の中央にあて、ミシンをかけ表に返して、穴布の所だけ飾りミシンをかけ、次に衿幅を定めて表衿と穴布とを合せて飾りミシンをかけ、表衿幅の中央に1.5cmの穴縫をして置く。次に、表衿を衿附の縫目に重ねミシンをかける。

6. 袖 附

普通シャツの通り。

7. 袖底及び脇縫。縫ひ残りの袖底と脇とを續けて縫ひ、折りは後に返し、縫込をくるんで飾りミシンをかける。



8. 乗間には4cm 四角の切を裏より當てる

こと(6)圖の通り。

9. 穴縫

穴縫の位置。

(イ) 袖

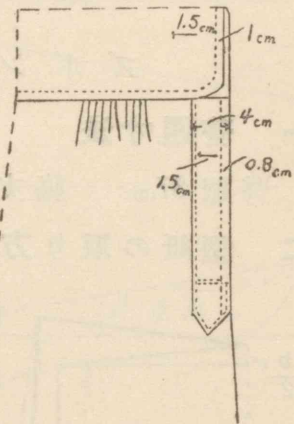
(7)圖の通り。

(ロ) 身頃

前左右の衿先の衿幅の中央に横に1.5cmの穴一つづつ。

上前見返しには幅の中央に縦に1.5cmの穴四つ。

(7)



10. 釦 附

【注意】

1. 洗濯仕上げをする。
2. 用絲 絹物は羽二重絲。麻、木綿類は百十番又は百二十番のカタン絲。
3. 芯地 普通キャラコを水に浸したるもの。
4. 芯地の部分に垢や塵を附けないこと。
5. 針目を細かにすること。
6. 縫代を正確にすること。

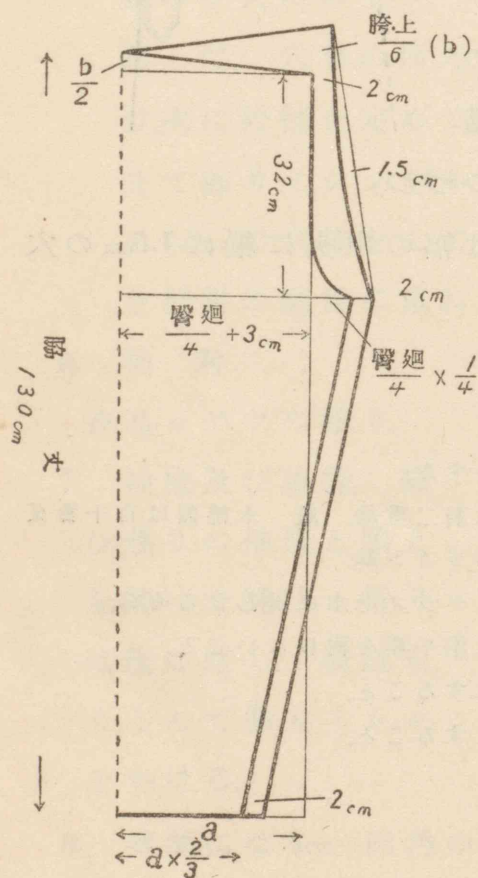
第九章

ズボン下 (大人物)

第一 普通寸法

臀廻 87cm 脇丈 103cm 前胯上 32cm

第二 型紙の取り方



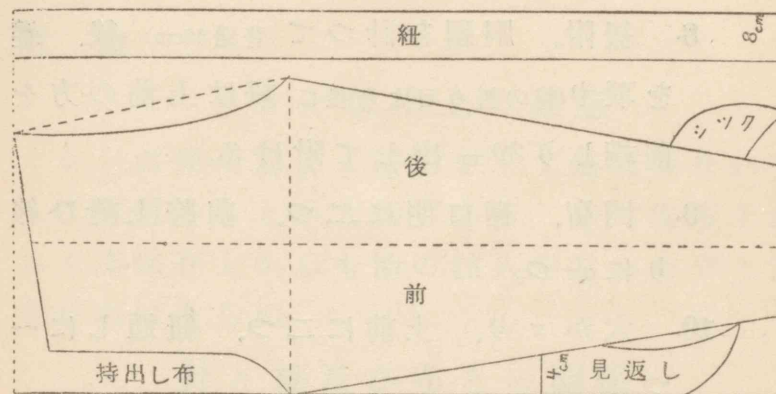
シックの取り方は半ズボンと同じ

第三 地質

キヤラコ、雲齋縮、天竺金巾、ネル等

第四 布の裁ち方

- 縫代は全部取らない。
- 総用布概算
脇丈 × 2 + 6cm
- 総合圖
76cm 幅



第五 仕立て方

(1) 上圖の場合

- 裾口明 15cm の間三つ折縫。
- 裾
中央に 2cm の襷を取つて紐をつける。
- 上前の見返し付け並に下前に持出しを付け、次に胯上縫ひ合せ、折りは左脚の方に。
- 後胯上縫ひ合せ、折りは左脚の方に。
- 居敷當の脊を合せ、折りは右脚の方に後、まつりつく。(飾りミシンをかくるも良し)
- 胯下縫ひ合せ、折りは前に、縫込はまつりつける。
- 力切を付ける、左脚の脇の折り目に。

8. 紐附。胴廻を計つて(普通80cm)後、襷を取り(脇の折り目より後に)紐は上前の方を前端より30cm出して附ける。

9. 門留、裾口明に二つ、前胯上縫ひ終りに一つ。

10. 穴かゞり、上前に二つ、紐通しに一つ。

11. 釦附。下前に二つ。

12. 仕上げ。

(2) 用布の都合にて脇に縫目を作る場合

1. 裾口明、三つ折縫。

2. 上下前の見返し附、胯上縫ひ合せ。

3. 後胯上縫ひ合せ、居敷當附。

4. 前後の布を合せて脇を縫ひ、(折りは前に)但し、左脚は上より6cmの間は紐通しとして縫ひ残して置く。

5. 裾に紐を附ける。(襷は取らないこと)

6. 胯下縫ひ合せ。

7. 脇縫の残しある所に幅3cm位の見返しを附ける。

8. 以下は(1)圖の場合に同じ

附 録

ミシン使用上の注意

ミシンは使用前よく掃除をして無理のないやうに取扱ふことが大切である。殊に使用上からも亦保存上からも油の注入を怠らぬやう注意せねばならぬ。

針と絲及び布との關係

針の太さ		絲	布地の種類
シンガー	ハスク バナ		
8	6	羽二重絲 カタン絲100—150番	特に地薄物
9	7	羽二重絲 カタン絲80—100番	普通地の絹織物 麻、毛織物
11	8	カタン絲60—80番	木綿類
14	9	カタン絲40—60番	地厚の木綿及 ラシヤ類

ミシンの最も起り易い故障と其の原因

1. 上絲の切れる場合

(イ) 針のとめ方不正確なるとき。

(ロ) 絲の通し方の順序を誤つたとき。

(ハ) 針の尖端が鈍つて居るとき、又は針が曲つて居るとき。

(ニ) 調子が強過ぎるとき。

(ホ) 船受の尖端が折れたとき又は傷ついたとき。

2. 下糸の切れる場合

- (イ) 調子の強過ぎたとき。
- (ロ) 糸の巻き方不平均なとき。

3. 針目の飛ぶ場合

- (イ) 針が短いとき(心棒が上つて居るため)
- (ロ) 針が心棒に正確に取り付けてないとき。
- (ハ) 針の尖端が鈍つたり又は針が曲つたりしたとき。
- (ニ) 針の割合に糸の太いとき。

4. 糸調子の悪い場合

- (イ) 上下糸の調子が一致しないとき。
- (ロ) 上下糸の通し方が誤つたとき。
- (ハ) 品質の悪い糸を用ひたとき。

5. 針の折れる場合

- (イ) 地質に對して針の細過ぎたとき。
- (ロ) 針の取り付けがゆるかつたとき。
- (ハ) 針が長過ぎたとき。
- (ニ) 布の固いとき又は布の重りの多いとき。

6. 布を送らない場合

- (イ) 針目を極端に小さくしたとき。

- (ロ) 送り金が出つたとき。

- (ハ) 押へ金が弱過ぎたとき。

7. 車が動かぬ場合

- (イ) ベルトが弛んだとき。
- (ロ) 船受に糸がからんだとき。
- (ハ) 運動留めの螺旋がゆるんだとき。

8. ミシンの音が高い場合

- (イ) 船受に糸屑や塵埃が入つて居るとき。
- (ロ) 油が切れたとき。

ミシンは微妙に組み立てられてあるから、内部の構造をよく考察し故障のある場合は其の原因を容易に見出し修理の出来得るやう研究することが肝要である。

昭和十三年二月一日

文 部 省 檢 定 濟

高等女學校裁縫科

重 訂 裁 縫 教 科 書 洋 裁 篇

昭和七年十一月十日 印刷
 昭和七年十一月十五日 發行
 昭和八年二月二十四日 訂正再版印刷
 昭和八年二月二十七日 訂正再版發行
 昭和十二年七月五日 訂正三版印刷
 昭和十二年七月十日 訂正三版發行
 昭和十三年一月十七日 訂正四版印刷
 昭和十三年一月二十二日 訂正四版發行

著作權所有



[定價金壹圓貳拾錢]

著 作 者 寺 地 ノ ブ
 大 和 菊 代
 貝 塚 ヤ チ ヨ
 發 行 者 丸 岡 才 吉
東京市神田區神保町一丁目九番地
 印 刷 者 内外出版印刷株式會社
代表者 須磨勘兵衛
 京都市下京區西洞院通七條南

東京市神田區神保町一丁目九番地

發 行 所 廣 陵 社

振替東京六七一〇一番

交際禮儀

第一章

第一節 禮儀之概論

禮儀者，社會生活之規範也。其目的在使社會成員之行為，符合社會之公序良俗，以維持社會之和諧與秩序。禮儀之種類，可分為個人禮儀、社會禮儀及國家禮儀等。個人禮儀，如儀容、言談、動作等，均為個人修養之表現。社會禮儀，如宴會、婚嫁、喪葬等，均為社會交往之規範。國家禮儀，如國慶、外交禮儀等，均為國家尊嚴之象徵。



第二章

禮儀之重要性，在於其能使人與人之間，建立良好之關係。禮儀之修養，不僅能使人受人尊重，亦能使人尊重他人。禮儀之修養，亦能使人之行為，符合社會之公序良俗，以維持社會之和諧與秩序。禮儀之修養，亦能使人之行為，符合國家之尊嚴與利益。禮儀之修養，亦能使人之行為，符合個人之修養與進步。

第三章

禮儀之修養，在於其能使人與人之間，建立良好之關係。禮儀之修養，不僅能使人受人尊重，亦能使人尊重他人。禮儀之修養，亦能使人之行為，符合社會之公序良俗，以維持社會之和諧與秩序。禮儀之修養，亦能使人之行為，符合國家之尊嚴與利益。禮儀之修養，亦能使人之行為，符合個人之修養與進步。

廣陵社

平塚信



五年

三月月

平
尾
平
林

平

大
石

大
湖

平
本

塘
車

平
欠

大
湖

平
田
力
子